

山形大学 男女共同参画報告書

令和元年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)活動報告
令和元年度山形大学活動報告

work
life
balance
innovation

山形大学 男女共同参画報告書

令和元年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)活動報告
令和元年度山形大学活動報告

work
life
balance
innovation

目次

ごあいさつ 山形大学理事・副学長／男女共同参画推進室長	5
-----------------------------	---

I. 山形大学独自の取組

① 男女共同参画行動計画と推進組織

①-1 目的・基本計画・令和元年度具体的施策（行動計画）	6
①-2 男女共同参画推進委員会委員名簿と委員会議事	11
①-3 男女共同参画推進室員名簿と室ミーティング議事	14
①-4 男女共同参画推進室米沢分室員名簿と分室会議議事	15
①-5 男女共同参画基本計画（第2次）の策定	16
①-6 男女共同参画推進室活動記録	19

② 活動報告

②-1 意識改革	
(1) 学長・学部長と教職員等とのワーク・ライフ・バランス懇談会、研修会	21
(2) 男女共同参画フェスタ（パネル展示）	23
②-2 仕事と育児等との両立支援	
(1) 小白川キャンパス保育所のびのび	24
(2) 小白川キャンパス保育所つぼみ	26
(3) 医学部保育所すくすく	27
(4) 医学部病児保育室	28
(5) 荘内銀行キッズワールドあゆみ	28
(6) 託児サポーター制度（学童の一時預かり）	29
(7) 研究継続支援員制度・学会参加時の保育支援制度	29
(8) 相談制度	30
②-3 女性研究者の裾野拡大	
(1) 女性研究者裾野拡大セミナー	31
(2) 山形大学女性大学院生ネットワーク	34
(3) 令和元年度基盤教育・ジェンダー関連授業	35
②-4 アウトリーチ活動	37
②-5 広報活動等	39

II. ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)の概要

① 事業の概要	40
② 実施体制	41
③ 取組内容	42
④ 令和元年度事業計画	44
⑤ 年次計画概要	46

Ⅲ. ダイバーシティ事業の活動報告

① 連携体制の推進	
①-1 ダイバーシティ連携推進会議名簿・会議議事	48
② ネットワーク	
②-1 山形大学COI（フロンティア有機システムイノベーション拠点）	50
②-2 大学コンソーシアムやまがた「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」	51
②-3 全国ダイバーシティネットワーク組織	52
③ 意識改革	
③-1 男女共同参画セミナー	53
③-2 3機関合同シンポジウム	55
④ 研究とライフイベントとの両立支援	
④-1 研究支援員制度	59
④-2 夜間保育、休日保育、病児・病後児、学童保育利用料補助制度	60
④-3 ライフイベントによる研究中断からの復帰支援制度	61
④-4 相談員制度	61
④-5 託児サポーター制度	62
⑤ 女性研究者の研究力向上	
⑤-1 サービスデザインプロジェクト	63
⑤-2 女性代表共同研究費支援制度	64
⑤-3 英語論文の書き方・英語プレゼンテーションセミナー	65
⑤-4 外部資金獲得セミナー	66
⑤-5 自己啓発合宿	67
⑤-6 女性研究者研究成果発表会	70
⑥ 女性研究者の裾野拡大	
⑥-1 JOIN交流会～企業研究者との交流～	71
⑥-2 博士学位を目指す学生のためのキャリア・就職活動セミナー	72
⑥-3 交換留学プログラム	73
⑦ 広報活動	78
⑧ 評価	
⑧-1 外部評価委員会名簿・委員会内容	79

Ⅳ. 資料編

① ダイバーシティ事業3機関の進捗状況	83
② 山形大学の男女別教員数と女性割合	96
③ 山形大学の女性活躍推進法に基づく行動計画	97
④ 山形大学の次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画の策定について	98

ごあいさつ



男女共同参画の新たなステージに向けて

阿 部 宏 慈

山形大学理事・副学長
男女共同参画推進室長

山形大学男女共同参画推進室の事業に対してご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。ここに、令和元年度山形大学男女共同参画報告書をお届けいたします。今回の報告書では、文部科学省科学技術人材育成費補助事業である「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」の活動報告も合わせて行っております。

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」は5年目を終えるところです。中間評価では、女性研究者が働きやすい環境や制度の整備、女性研究者割合と上位職割合の増加、研究業績数の増加などの目標を達成していることが認められています。後半の自主運営期間においても3機関の密接な連携を継続し、女性研究者のさらなる増加を目指すとともに、これまで以上に山形大学COIとの連携を強化し、「有機エレクトロニクスを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画」という研究テーマを実践し、これまでの研究成果の社会実装と地域還元を図っています。今年度はCOIとの共催で地域連携プラットフォーム会議（8月）、3機関合同シンポジウム及び女性研究者・若手研究者の交流会（11月）を開催しています。さらに、他機関への波及の面においても、全国ダイバーシティネットワークの幹事大学として南東北のネットワークを構築し、山形県内のダイバーシティ推進ネットワーク会議の活動を一層充実させることができました。まさに県内ダイバーシティネットワークと全国ネットワークのつなぎ役として、地域を牽引する段階に至っています。

さて、山形大学は、平成21年に男女共同参画推進室を設置し、平成22年に策定した「山形大学男女共同参画基本計画」に基づき、男女共同参画推進委員会を中心に男女共同参画を推進してきました。この間、文部科学省「女性研究者支援モデル育成事業」（平成21～23年度）や「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業」（平成27～令和2年度）の採択を経て、充実を図ってきたところです。この計画期間が令和元年度で終了することから、昨年度は本学の男女共同参画の現状を把握し、これまでの成果や今後の課題を明らかにするための学内アンケート調査を実施しました。

今年度は、山形大学男女共同参画基本計画（第2次）を策定し、併せて関連規程の一部改正を行いました。策定にあたり、男女共同参画推進委員会にワーキンググループを設置して検討を重ね、3回の男女共同参画推進委員会を開催しました。昨年度実施した学内アンケートの結果を踏まえ、我が国の男女共同参画に係る動向と国立大学協会における目標等に鑑み、男女共同参画に加えダイバーシティを一層推進することを目的に方針及び具体的施策を定めました。女性教員比率や女性管理職比率はこれまで以上に高い目標を設定し、無意識のバイアスや性的指向・性自認等への配慮なども明記しました。目標を達成するため、必要な改善措置等について男女共同参画推進室を中心に各キャンパス等において具体的に検討し、達成状況を毎年点検していきます。来年度は、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」の最終年度ですが、相乗効果にも期待しています。

今後、山形大学は男女共同参画の新たなステージに進むことになります。「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」を使命とし、男女共同参画及びダイバーシティを推進し、学生と教職員が性別等にかかわらず個性と能力を発揮できる大学づくりを加速していきます。大学教育の転換期と言われる中、様々な困難も予想されますが、関係各方面の皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

I. 山形大学独自の取組

① 男女共同参画行動計画と推進組織

①-1 | 目的・基本計画・令和元年度具体的施策（行動計画）

●目的

山形大学は、「男女共同参画基本法」（平成11年6月23日法律第78号）の理念に基づき、男女共同参画社会実現のために大学が担うべき役割と責任を自覚し、「山形大学男女共同参画推進宣言（平成21年1月23日）」を策定した。本学の学生及び教職員が性別にかかわらず、あらゆる活動において個性と能力を発揮でき、かつ、学業・仕事と生活の調和（ワークライフバランス）を実現することを目指し、具体的な施策の推進を図っていくため、ここに山形大学男女共同参画基本計画（以下「基本計画」という。）を定める。

●基本計画

基本理念の具体化に向けて、本学の基本方針を次のとおり定める。

- 1 教職員（教員及び職員）等の男女機会均等の実現・格差の是正
- 2 教育・研究及び就労と家庭生活との両立のための環境作り
- 3 男女共同参画に関する意見・要望等をくみ上げるシステムの整備
- 4 男女共同参画への意識改革への促進
- 5 女性研究者（教員及び後期博士課程学生）の裾野拡大
- 6 男女共同参画推進のための教育・研究の実現
- 7 男女共同参画に関する学内の調査・分析・統計等の情報提供
- 8 男女共同参画に取り組む地域社会との連携

●令和元年度具体的施策（行動計画）

【教職員等の男女機会均等の実現・格差の是正】

1 女性教員比率の向上

<全学>

- ・雇用機会均等法によると女性の割合が4割を下回っている場合、男女格差が存在していると判断される。本学においても女性教員比率を引き上げるとともに、格差の是正に努める。
- ・女性教員の採用比率を当面、全体として20%（「国立大学協会」の提言）以上とすることを目標とする。将来的には、女性教員の比率を25%まで引き上げる。

- ・上記の目標を達成するため、必要な改善措置等を男女共同参画推進室を中心に各学部等においても具体的に検討し、その達成状況を毎年点検する。

人文社会科学部	<ul style="list-style-type: none"> ・学部の女性教員の比率については現状の水準以上の値を実現できるように努め、さらに「国立大学協会」の提言である20%に近づけることを目指す。 ・業務の効率的・効果的に行う取り組みを引き続き行い、ワークライフバランスを充実させるための環境整備を行う。
地域教育文化学部	<ul style="list-style-type: none"> ・女性教員比率を20%にあげるため、学部ホームページ・マスメディア等を通じて本学部女性教員の活躍を積極的に広報する。 ・女性研究者の研究環境整備のための活動としてサバティカル制度を初めとする支援体制を充実させるとともに、これらの周知を図る。
理学部	<ul style="list-style-type: none"> ・ポジティブ・アクションを実施し、女性教員により一層積極的な活躍の機会を作り出す。 ・教員公募要領に男女雇用機会均等法実施の取り組みを明確に記載する。 ・理学部関連学会における「男女共同参画支援事業」の情報収集を続ける。 ・公募等における業績評価で、育児や介護期間を考慮することを明記する。
医学部	<ul style="list-style-type: none"> ・女性教員の比率20%以上を維持する。 ・24時間保育所及び病児保育室の円滑な運営を通して、女性が働き続けられる環境の整備を行う。
工学部	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、教員公募にあたっては、雇用機会均等法第8条に配慮している旨を公募要項に明記するとともに、女性教員優先公募についても積極的に実施する。 ・研究分野の特性等を考慮しながら、女性教員2人以上の採用を目指し取組を進める。また、公募の際は、プログラム内の年齢バランス及び職位バランスを考慮し、人事委員会を中心に女性必要ポストの検討を行う。 ・女性教員の職位バランスを見直し現在計画中の平成30年度内部昇格公募を実施する。
農学部	<ul style="list-style-type: none"> ・女性研究者が多い分野を中心に、女性を優先した人事について検討する。 ・第3期中期目標、中期計画における女性教員比率の全体目標（17%）に近づけるよう努力する。
学士課程基盤教育機構	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き高い女性教員比率を維持し、将来の定年退職の状況等も見据えつつ、教育企画部として40%以上となるよう教員採用を進める。
附属学校	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度以降についても、教員の採用に当たって、将来的な目標比率の達成を考慮して、引き続き県教育委員会等と協議する。 ・附属学校運営部が中心となって、勤務時間の適正化と女性教員の出産育児等に対応できる職場環境を整えるため、具体的な業務改善に向けた取り組みを実施する。

2 大学（学部）運営における女性参画の拡大

<全学>

- ・女性職員の人材育成のため、積極的な方策を推進する。
- ・女性教職員の管理職比率の向上のため、登用等を積極的に推進する。

人文社会科学部	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画推進部との連携を強化する。 ・学部運営に関わる女性教員の比率を高めることに努める。 ・学部運営や学生の勉学環境に関する重要事項の決定に女性教職員の意見や視点が取り入れられるしくみを強化する。
地域教育文化学部	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学長・学部長と女性教職員との懇談会を実施し、女性教職員の要望や抱える問題等を明確化し、交流を図る。懇談会は効果を一層上げるために小白川キャンパスにおけるFD活動の一環と位置づけて、三学部共催で規模を拡大して行うこととする。 ・男女共同参画推進室のホームページやメールマガジン、ニュースレターを使って情報の周知を図る。 ・学部ホームページや広報誌「Creation」に活動状況を掲載し、学内外への情報発信を強化する。 ・メンター制度の積極的な活用を行うため、制度の周知と工夫を図る。
理学部	<ul style="list-style-type: none"> ・当該委員会委員、キャリア教育担当教員、女性研究者及び一般男性教員も男女共同参画推進室主催のランチミーティング、セミナー等に積極的に参加し、女性参画事業の理解を深めるようにする。 ・学部の女性教員がそれぞれ、大学、学部、学科の重要な委員を担当する。
医学部	<ul style="list-style-type: none"> ・性別による優遇措置はとらないが、管理職として適切な人材を登用することにより、積極的に女性教員の活用を図っていく。副学部長は女性を含む体制を堅持する。
工学部	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会等を実施することによって、雇用機会均等法の周知徹底を行う。 ・運営会議メンバーを中心に女性教職員の意見聴取を行い、学部運営に反映させる。 ・女性教員の「女性教員としての人材育成」のため、新任5年以内の教員（企業出身、博士課程出身者）に対するメンター制度の導入を図る。メンターとなってくれる教員や外部の適当な人物を組織し、女性教員が希望した時にはいつでも相談が受けられる体制づくりを行う。 ・ピア・メンターを活用するため、女性教員および若い女性研究者の卵たちによる座談会を定期的に開く。
農学部	<ul style="list-style-type: none"> ・女性職員と女性教員を合わせた女性教職員の人材育成を、長期的な計画のもとで継続的に行う。 ・保育所利用に係る関係規程の整備など学部内手続きを整理し、更に女性が活躍できる環境を整備する。
学士課程基盤教育機構	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き女性教員の登用拡大を図っていく。
附属学校	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度以降も、女性職員の人材育成に努め、係長以上への登用も積極的に進める。 ・校長・教頭への女性教員の登用について、山形県教育委員会と連携協力して推進する。

【男女共同参画への意識改革の促進】

〈全学〉

- ・シンポジウムや啓発セミナー、男女共同参画フェスタ等を定期的に開催する。
- ・女性研究者ネットワークを構築し、定期的な勉強会等を開催する。
- ・学長・学部長と女性研究者との懇談会を定期的に開催する。
- ・ホームページ、男女共同参画ニューズレター、メールマガジン等による学内外への情報発信を強化する。

人文社会科学部	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学部内で男女共同参画に関する問題意識を共有できるようにつとめる。会議等での決定事項が男女共同参画の視点からみて適切であるかどうかを考慮するほか、女性教職員の視点を入れて男性だけでは見落としがちであった事項を配慮できるような体制を確立するとともに、その体制について検証を継続的に行う。
地域教育文化学部	<ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウムや啓発セミナー、男女共同参画フェスタ等を定期的に開催する。 ・学長・学部長と女性研究者との懇談会を定期的に開催する。 ・懇談会は効果を一層上げるために小白川キャンパスにおけるFD活動の一環と位置づけて、三学部共催で規模を拡大して行うこととする。 ・ホームページ、オープンキャンパス、ホームカミング等による学内外への情報発信を強化する。
理学部	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画事業に積極的に参加する。 ・「学長・学部長と女性研究者との懇談会」等を積極的に支援する。 ・育休について正確な情報を提供する等、議論を深め「育休取得希望者」を支援する。 ・「学長・理事と教職員とのワーク・ライフ・バランス懇談会」を小白川キャンパス全体で開催する。
医学部	<ul style="list-style-type: none"> ・医学部学生を対象にしたキャリアパスセミナーにおいて、男女共同参画に関する内容を更に充実させる。 ・山形県、山形県医師会、女性医師ネットワークと緊密な連携をとり、男女両者が参加できる男女共同参画の企画を進める。 ・総合医学教育センター、高度医療人研修センターが中心となって女性医師・看護師が切れ目なく働き続けられるよう援助する。
工学部	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画推進ワーキング・グループを強化し、ワーク・ライフ・バランス懇談会と同様の懇談会を工学部としてもう1件実施する。 ・運営会議を中心に、すべてのマイノリティが働きやすいキャンパス、学びやすいキャンパスを目指すための組織化を図る。 ・男女共同参画推進室の企画事業への職員参加を推進する。 ・キャンパス・ハラスメントに係る研修を継続して実施し、教職員の参加を促す。
農学部	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画推進委員会及び男女共同参画推進室の指導の下に、農学部の委員が中心となり、30～31年度においても継続して、各部局の推進組織とも緊密に連携協力しながら具体的な事業を推進する。 ・引き続き、ワークライフバランス懇談会を実施し、男性教職員の積極的な参加を呼びかけ、女性だけでなく男性教職員の意識改革も併せて図っていく。
学士課程基盤教育機構	<ul style="list-style-type: none"> ・教育企画部の企画による啓発セミナー開催を検討する。 ※留学生を講師に迎えた講演「子どもを連れて山大留学」等のテーマを検討する。 ・キャンパス・ハラスメント防止対策委員会主催研修会等においてセクシャルハラスメント等関連事例を取り上げる。 ・引き続きワーク・ライフ・バランス懇談会を開催する。
附属学校	<ul style="list-style-type: none"> ・全学で企画するシンポジウム、啓発セミナー及び男女共同参画フェスタ等を周知して参加を促すとともに、平成30年度に附属学校における研修会等でテーマとして取り上げ、実施する。

【女性研究者の裾野拡大】

<全学>

- ・専門分野を活かした職業に就いている女性卒業生等を招いた講演会や交流会を、各学部等で定期的に開催する。
- ・女子中高生向けのセミナー等を開催する。

人文社会学部	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、男女共同参画担当の副学部長を中心に、男女共同参画を強力に推進する体制を確立する。その執行体制のもと、高校への出前講義などに女性教職員に携わってもらうことで、女子高校生に女性研究者の活躍を身近に感じてもらい、将来の大学進学における選択肢として研究職を選んでもらう努力を継続的に進める。 ・女性研究者、企業、官庁、教育界で活躍している女性の卒業生を招き、女子高校生・学部生・一般市民に向けての講演会などを開催し、人文学の専門分野を活かした職業について広く周知する。
地域教育文化学部	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、オープンキャンパスの際に行う授業や出前授業の際に、女性教員が参加して専門分野で活躍する姿を高校生に話してもらい、本学部の魅力を伝えていく。 ・オープンキャンパス及びホームカミングの際に、出産・子育て世代の女性及び男性教職員の姿をパネル展示する。 ・高校生を対象とした女性研究者による模擬授業やアカデミックキャンプ等を実施する。
理学部	<ul style="list-style-type: none"> ・専門分野を活かした職業に就く女性卒業生等を招き、講演会や交流会を開催する。女子中高生向けのセミナー等を開催する。 ・上記の他、女性研究者によるセミナー等を開催する。
医学部	<ul style="list-style-type: none"> ・27年度までの事業をさらに充実させる。 ・24時間保育、病児保育など子育てと研究が両立する環境を生かし、多くの研究者等を受け入れる。
工学部	<ul style="list-style-type: none"> ・若手研究者の育成を目指し、女子学生と各世代の女性研究者とが触れ合う場を定期的に設ける。 ・本学バイオ化学工学科においては、女子学生数が男子学生数を上回っている等、女子学生においても積極的に教育・研究活動に挑戦できる体制が整っている旨のPRを広報活動をとおして実施する。 ・オープンキャンパスにおいて、工学部でも女性研究者や女子学生が積極的に活躍している点を積極的に紹介する。
農学部	<ul style="list-style-type: none"> ・女性研究者育成のための講演会を継続して実施し、女子学生の進学率の向上に努める。 ・女子高生に科学実験の体験指導を継続的に行い、農学部への進学率向上に努める。
学士課程基盤教育機構	<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア形成とワーク・ライフ・バランス」の講師を山本美奈子講師がつとめる。 ・フィールドワーク等の授業に、県立博物館、教育委員会等で専門を生かして活躍している女性卒業生らを招聘、交流を図る。 ・留学生懇談会に、講師として日本で働く留学生OGや研究する留学生OGを招く。
附属学校	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で実施される講演会や交流会に積極的に参加・協力できるようにする。 ・女子中学生を対象とするセミナー等については、附属中学校で企画立案し、周知する。

①-2 | 男女共同参画推進委員会委員名簿と委員会議事

平成31年4月1日現在

委員名	氏名	備考
第1号委員	阿部宏慈	委員長
	久保田 功	
第2号委員	河野銀子	
第3号委員	コーエンズ久美子	
	中西正樹	
	金井塚勝彦	
	齋藤貴史	
	野々村美宗	
	村山秀樹	
第4号委員	藤田 稔	
	藤岡久美子	
	常松佳恵	
	櫻田 香	
	高澤由美	
第5号委員	網干貴子	
第6号委員	渡辺絵理子	
第7号委員	矢作 清	
第8号委員	高橋正敏	
第8号委員	富樫 整	

【参考】①第1号委員：学長が指名する理事

②第2号委員：担当理事が指名する理事特別補佐

③第3号委員：各学部長が推薦する当該学部の副学部長 各1人

④第4号委員：各学部から選出された（女性）教員 各1人

⑤第5号委員：学士課程基盤教育機構から選出された（女性）教員 1人

⑥第6号委員：総務部長

⑦第7号委員：企画部長

⑧第8号委員：その他委員長が必要と認めた者

⑨第4号及び第5号委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

令和元年度第1回男女共同参画推進委員会議事

令和元年5月16日（木）14：30～15：30

法人本部4階第2会議室（医・工・農テレビ会議室）

1 協議事項

- (1) 令和元年度事業計画（ダイバーシティ事業を含む）について
 - ① 年間計画
 - ② 男女共同参画セミナー
 - ③ 英語論文セミナー
- (2) 「男女共同参画基本計画」に関する年度評価及び計画の見直しについて
今後の対応について
- (3) 第2次男女共同参画基本計画（案）について
 - ① 男女共同参画に係るアンケート結果について
 - ② 策定計画について
- (4) その他

2 報告事項

- (1) 男女共同参画推進委員会規程、室員・委員・スタッフ名簿
- (2) 平成30年度事業報告について
 - ① ダイバーシティ研究環境イニシアティブ事業について
 - ② 山形大学独自の事業について
 - ③ 小白川キャンパス保育所について
 - ④ 研究支援員制度について
- (3) リカレント教育に関するアンケート調査について
- (4) 「キャリア形成とワーク・ライフ・バランス」講師・パンフレットについて
- (5) 次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画について
- (6) 女性活躍推進法に基づく行動計画について
- (7) 「山形大学教職員のための出産・子育て・介護に関する制度」の改訂について

令和元年度第2回男女共同参画推進委員会議事

令和元年9月3日(火) 15:30~16:30

法人本部4階第2会議室(医・工・農テレビ会議室)

1 協議事項

- (1) 策定プロセスについて
- (2) 男女共同参画基本計画(第2次)案について
 - ① WGにおける検討過程
 - ② 男女共同参画基本計画(第2次)案
 - ③ 男女共同参画推進委員会規程の改正
 - ④ 各部署教授会の教育研究評議会報告における補足説明及び意見報告のお願い
- (3) その他

令和元年度第3回男女共同参画推進委員会議事

令和元年11月29日(金) 15:30~16:30

法人本部4階第2会議室(医・工・農テレビ会議室)

1 協議事項

- (1) 男女共同参画基本計画(第2次)策定について
 - ① 各部署からの意見
 - ② 男女共同参画基本計画(第2次)案
 - ③ パンフレット案
- (2) 男女共同参画推進に関する規程の改正案について
- (3) その他
 - ① 第2次基本計画の関連スケジュールについて
 - ② 基本計画に関する各キャンパスの行動計画について
 - ③ その他
- (4) 令和元年度「山形大学男女共同参画基本計画」に関する評価及び計画の見直し(各部署)

①-3 | 男女共同参画推進室員名簿と室ミーティング議事

平成31年4月1日現在

室 員	氏 名	備 考
室 長	阿 部 宏 慈	理事（総務担当）
副 室 長	久 保 田 功	理事（研究担当）
理 事 特 別 補 佐	河 野 銀 子	教授（地域教育文化学部）
主担当教員（チーフ・コーディネーター）	井 上 榮 子	准教授（男女共同参画推進室）
主担当教員（サブ・コーディネーター）	藤 村 維 子	准教授（男女共同参画推進室）
室 員	矢 作 清	総務部長
室 員	鈴 木 俊 之	総務部労務課長
室 員	柏 倉 弘 喜	企画部副課長
室 員	石 山 博 子	男女共同参画推進室事務室長

第1回男女共同参画推進室ミーティング議事

平成31年4月19日（金）13：30～14：30

法人本部役員会議室（3階）

1 協議事項

- （1）平成31年度事業計画（ダイバーシティ事業を含む）について
 - ① 年間計画
 - ② 男女共同参画セミナー
 - ③ 英語論文セミナー
- （2）「男女共同参画基本計画」に関する年度評価及び計画の見直しについて
今後の対応について
- （3）第2次男女共同参画基本計画（案）について
 - ① 男女共同参画に係るアンケート結果について
 - ② 策定計画について
- （4）その他

2 報告事項

- （1）平成31年度山形大学男女共同参画推進委員会規程、室員・委員・スタッフ
- （2）平成30年度事業報告について
 - ① ダイバーシティ研究環境イニシアティブ事業について
 - ② 山形大学独自の事業について
 - ③ 小白川キャンパス保育所について
 - ④ 研究支援員制度について
- （3）リカレント教育に関するアンケート調査について
- （4）「キャリア形成とワーク・ライフ・バランス」講師・パンフレットについて
- （5）女性活躍推進法に基づく行動計画について
- （6）次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画について
- （7）「山形大学教職員のための出産・子育て・介護に関する制度」の改訂について

①-4 | 男女共同参画推進室米沢分室員名簿と分室会議議事

平成31年4月1日現在

室 員	氏 名	備 考
分 室 長	阿 部 宏 慈	理事（総務担当）
副 分 室 長	飯 塚 博	工学部長
主担当教員（チーフ・コーディネーター）	井 上 榮 子	准教授（男女共同参画推進室）
主担当教員（サブ・コーディネーター）	藤 村 維 子	准教授（男女共同参画推進室）
副 担 当 教 員	野々村 美 宗	工学部副学部長
副 担 当 教 員	高 澤 由 美	助教（大学院理工学研究科）
副 担 当 教 員	皆 川 真 規	助教（大学院理工学研究科）
室 員	金 生 周 篤	工学部事務部長
室 員	篠 塚 清 幸	工学部総務課長
室 員	石 山 博 子	米沢分室事務室長

第8回男女共同参画推進室米沢分室会議議事

令和2年2月10日（月）12:00～13:15

工学部事務棟2階ミーティングルーム

議 題

I 報告事項

- 1 令和元年度工学部の女性研究者採用状況について
- 2 令和元年度ダイバーシティ事業の進捗状況について
- 3 ダイバーシティ事業の最終年度の進め方について
- 4 その他

II 打合せ事項

- 1 令和2年度米沢分室体制と米沢分室
- 2 令和2年度のダイバーシティ事業について
 - (1) 令和2年度事業計画について
 - (2) ダイバーシティ規程の改廃
 - (3) 女性研究者の目標達成と今後について
- 3 その他

①-5 | 男女共同参画基本計画(第2次)の策定

1 経緯

山形大学は、平成22年に策定された山形大学男女共同参画基本計画（実施期間は令和元年度まで）により、男女共同参画推進委員会を中心に男女共同参画を推進してきた。この間、文部科学省「女性研究者支援モデル育成事業」（平成21～23年度）や「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業」（平成27～令和2年度）の採択を経て、充実を図ってきた。

平成30年度は、男女共同参画推進委員会内にワーキンググループ（座長は河野銀子委員）を設置し、男女共同参画の現状を把握し、これまでの成果と課題を明らかにするために、「男女共同参画に係るアンケート調査」を実施した。

今年度は、「男女共同参画に係るアンケート調査」結果などを踏まえて、男女共同参画基本計画（第2次）を策定する必要がある。

2 男女共同参画基本計画（第2次）の策定について

（1）男女共同参画委員会を3回開催する。

第1回（5月）計画の承認

第2回（9月）検討

第3回（11月）基本計画（第2次）の策定

（2）ワーキンググループを男女共同参画委員会内に設置する。

① 構成は、教員（4名程度）、職員（総務・労務・企画等3名程度）とする。

② 座長は、理事特別補佐（河野銀子委員）が務める。

③ 事務局は、男女共同参画推進室に置く。

④ 3回打合せ（持ち回り会議を含む）を行い、原案を男女共同参画委員会に報告する。

（3）スケジュール

令和元年

5月16日 第1回男女共同参画推進委員会の開催…計画の承認

6月13日 ワーキンググループ（1回目）…これまでの経緯の共有と策定方針の検討

6月27日 意見募集〆切

7月10～31日 ワーキンググループ（2回目、メール審議）…計画案の検討

8月9～23日 ワーキンググループ（3回目、メール審議）…計画案の修正

9月3日 第2回男女共同参画推進委員会の開催…計画案の検討

9月11日 教育研究評議会

9月18日 各部局教授会にて評議員が基本計画案の報告、意見を集約

10月3日 男女共同参画推進会の委員が意見を提出（〆切）

10月25日 ワーキンググループ（4回目）…修正案の検討

11月29日 第3回男女共同参画推進委員会の開催…基本計画（第2次）の策定

山形大学男女共同参画推進に関する規程（改正案）の報告

12月18日 役員会 令和元年度基本計画に関する評価及び計画の見直し（各部局）依頼

- 1月8日 教育研究評議会
 - 1月27日 経営協議会
 - 3月中旬 男女共同参画基本計画(第2次)のパンフレット印刷
 - 3月24日 令和2年度男女共同参画推進委員会委員推薦(各キャンパス)報告
 - 3月24日 令和元年度基本計画に関する評価及び計画の見直し(各部局)報告
- 令和2年
- 4月1日～ 男女共同参画基本計画(第2次)実施
「山形大学男女共同参画推進に関する規程」施行

3 男女共同参画基本計画(第2次)の内容について

改正後の主な内容(抜粋)を、以下に示す。

山形大学男女共同参画基本計画(第2次)

(令和2年4月施行)

はじめに

山形大学は、山形大学男女共同参画基本計画(平成22年)のもと、地域に根ざし世界を目指す大学として、多様な価値観に基づく教育・研究を推進し、「男女共同参画」の実現された大学となるように、取組を進めてきた。

「女性活躍加速のための重点方針2018」以降、男女の役割に対する固定的な価値観を与える、いわゆる「無意識のバイアス」への対応が求められており、男女共同参画およびダイバーシティを一層推進していく必要がある。そのため、ここに山形大学男女共同参画基本計画(第2次)を定める。

基本方針

男女共同参画及びダイバーシティ推進のため、以下のことに取り組む。

1. 教職員等の男女機会均等の実現・格差の是正
2. 教育・研究及び就労と家庭生活との両立のための環境作り
3. 意見・要望等をくみ上げ、共有するシステムの整備
4. 意識改革の促進
5. 女性研究者の裾野拡大
6. 教育・研究の充実
7. 学内の調査・分析・統計等の情報提供
8. 地域社会等との連携

推進体制

基本計画の実施に当たっては、学長のリーダーシップの下、男女共同参画推進委員会が決定し、全学の推進組織である男女共同参画推進室と各キャンパスの推進組織とが連携協力し、一体となって具体的な事業を推進する。

計画期間

基本計画の計画期間は、令和2年度から令和11年度までの10ヶ年とする。

具体的施策（行動計画）

1. 教職員等の男女機会均等の実現・格差の是正
 - ・令和11年度までに、大学全体の教授の女性比率は15%以上、准教授は23%以上、女性教員比率は20%以上の達成を目指す。
 - ・役員、副学長、部局長、経営協議会委員、教育研究評議会評議員は、20%以上の達成を目指す。
 - ・女性教職員の人材育成のため積極的な方策を推進し、管理職比率の向上に向けた登用等を積極的に行う。
 - ・無意識のバイアスに配慮し、積極的な改善策がとられているかを点検するなど、男女格差是正のためのチェック機能を導入する。
2. 教育・研究及び就労と家庭生活との両立のための環境作り
 - ・ユビキタス・ワーキングを可能にする環境を整備する。
 - ・男女共同参画の実現を目的とする相談体制、研究継続支援員及び学会出張時の支援体制を整備する。
 - ・保育制度と育児・介護支援を充実し、就労環境・就労慣行の見直しを図る。
3. 意見・要望等をくみ上げ、共有するシステムの整備
 - ・男女共同参画及びダイバーシティに関する施策の策定や実施に関する意見や要望を積極的にくみ上げ、情報を共有し、相互に協力して対応するシステムを整備する。
4. 意識改革の促進
 - ・個々の性別、性的指向・性自認にかかわらず、本学の学生及び教職員が自然にお互いを認め、受け入れられる組織を目指す。
 - ・シンポジウムやセミナー等を開催し、学内外へ情報発信する。
 - ・女性研究者ネットワークを構築し、学長・学部長と女性研究者との懇談会を開催する。
5. 女性研究者の裾野拡大
 - ・女子中高生向けのセミナー・交流会等を開催する。
 - ・女性学生の研究活動の活性化に向けたネットワーク活動を支援する。
6. 教育・研究の充実
 - ・男女共同参画及びダイバーシティに関連する授業や女性のキャリア支援教育科目を拡充し、優れた取組に対する表彰制度を設ける。
7. 学内の調査・分析・統計等の情報提供
 - ・男女共同参画及びダイバーシティに関するアンケート及び調査を定期的実施し、基本的データを公表する。
8. 地域社会等との連携
 - ・男女共同参画及びダイバーシティに関して他大学や地域の自治体等とのネットワークを築き、連携を図る。

①-6 | 男女共同参画推進室活動記録

- 4月19日 男女共同参画推進室ミーティングの開催
- 4月25日 大学コンソーシアムやまがた臨時幹事会の開催
- 5月16日 第1回男女共同参画推進委員会の開催
- 5月17日 工学部女性研究者ランチミーティングの開催
- 5月24日 大学コンソーシアムやまがた第1回ダイバーシティ推進ネットワーク会議の開催
- 6月3日 全国ダイバーシティネットワーク組織臨時幹事会の開催
- 6月6日 「英語論文の書き方・英語プレゼンテーションセミナー」の開催
- 6月13日 第2次基本計画ワーキンググループ打合せ（テレビ会議）
- 6月24日 大学コンソーシアムやまがた総会の開催
- 6月25日 男女共同参画フェスタ（パネル展）の開催（～7/8）
- 6月26日 令和元年度後期「研究支援員制度」利用者の募集開始
- 6月26日 小白川キャンパス保育所運営委員会の開催
- 7月5日 小白川キャンパスで男女共同参画セミナー「ダイバーシティが拓く山形の未来」開催
ダイバーシティ連携推進会議及び東北ブロック南東北会議の開催
- 7月12日 米沢キャンパスで男女共同参画フェスタ（パネル展）開催（～7/19）
- 7月19日 山大JOIN（山形大学女性大学院生ネットワーク）お茶会開催（米沢分室）
- 7月28日 農学部女性研究者裾野拡大セミナー「農学部ってどんなところ？研究者になりたい！～卒業生の体験談を聞いてみよう～」の開催
- 7月31日 国立大学協会「国立大学における男女共同参画の推進状況に関する調査（第16回）」の回答
- 8月3日 地域教育文化学部女性研究者裾野拡大セミナー「比べてみよう！～日本と海外における化学の勉強～」及び工学部女性研究者裾野拡大セミナー「女性研究者裾野拡大セミナー2019 in 山大工学部」の開催
- 8月28日 第2回地域連携プラットフォーム会議「小野川のまちづくり」の開催
- 8月31日 山形大学男女共同参画推進室ニュースレター（第25号）の発行
- 9月2日 小白川キャンパス「男女共同参画推進研修会」の開催
- 9月2日 自己啓発合宿3 機関合同若手研究者のための第1回キャリア形成研修（～9/3）
- 9月3日 第2回男女共同参画推進委員会の開催
- 9月11日 交換留学（大学からDNPへ）（～9/13）
- 10月2日 理学部女性研究者裾野拡大セミナー（高校1年生向）「理学部で何ができるのか？女子高校生のための山大理学部案内」（高校2年生向）「理学部研究室訪問」の開催
- 10月25日 第2次基本計画ワーキンググループ打合せ（テレビ会議）
- 11月6日 小白川キャンパス「学長・学部長と教職員とのワーク・ライフ・バランス懇談会」の開催
- 11月19日 3機関合同シンポジウム「豊かな健康長寿社会をめざして」の開催
- 11月21日 「博士」学位を目指すキャリア・就活セミナー

- 11月25日 交換留学（DNPから大学へ）（～11/27）
〃 山大JOIN（女性大学院生グループ）との交流会の開催
- 11月29日 第3回男女共同参画推進委員会の開催
- 12月6日 全国ダイバーシティネットワーク組織第2回幹事会・シンポジウム（一橋会館）の開催
- 12月13日 「山形大学男女共同基本計画」に関する評価及び課題についての各部局への依頼
- 12月23日 令和2年度前期「研究支援員制度」利用者の募集開始
- 1月18日 センター試験における乳幼児の一時預かり実施（保育所「のびのび」開所）
- 1月19日 センター試験における乳幼児の一時預かり実施（保育所「のびのび」開所）
- 1月21日 農学部「学長・学部長と教職員とのワーク・ライフ・バランス懇談会」の開催
- 2月10日 第8回男女共同参画推進室米沢分室会議の開催
〃 工学部「学長・学部長と教職員とのワーク・ライフ・バランス懇談会」の開催
- 2月27日 自己啓発合宿3機関合同若手研究者のための第2回キャリア形成研修（～2/28）（延期）
- 2月28日 山形大学男女共同参画推進室ニュースレター（第26号）の発行
- 3月30日 令和元年度男女共同参画推進室報告書の発行

② 活動報告

②-1 | 意識改革

(1) 学長・学部長と教職員等とのワーク・ライフ・バランス懇談会、研修会

山形大学では、ワーク・ライフ・バランスについて、教職員等から意見を聴き、その実現に向けて様々な支援制度を検討し実施してきた。昨年度に引き続き、小白川キャンパスで研修会も開催された。令和元年度の懇談会の実施状況は、次のとおりである。

●ワーク・ライフ・バランス懇談会

学部名	テーマ	日 時	対象者	参加数
小白川キャンパス (理学部担当)	「一人ひとりのワーク・ライフ・バランス」 ～バランスすることの意味を考えてみませんか～	11月6日(水) 14:00～16:00	教職員	32人
	(株)キャリア開発サポートズ・浅野氏から話題提供の後、グループワークが行われた。人生役割の配分について、現在と10年後について数値化しどこが重要なのか等、ワーク・ライフ・バランスについて意見交換を行った。			
鶴岡キャンパス (農学部担当)	働きやすい職場環境を実現するためのワークライフバランス	1月21日(火) 14:00～15:00	教職員	16人
	ワークライフバランスの実現に向けて、教職員の誰もが働きやすく、研究者は研究しやすい環境づくりを行うことをめざし、日頃感じていること、要望等、率直な意見交換を行った。			
米沢キャンパス (工学部担当)	「男性教職員・男子学生が多い米沢キャンパスにおける男女共同参画」～女性・男性が教育・研究に没頭できる環境実現に向けて～	2月10日(月) 13:30～14:15	教職員	20人
	1) 男女共同参画推進室・井上准教授「工学部における男女共同参画実現に向けての課題」 2) 工学部システム創成工学科・宮助教「教育・研究者として日頃感じていること」 3) 学生相談室・中澤准教授「学生相談室教員として感じていること」 以上3名の発表に基づいて、参加者を交えて日頃感じていることなど意見交換を行った。			



図1 懇談会の様子(11月6日)



図2 懇談会の様子(1月21日)



図3 懇談会の様子(2月10日)

●男女共同参画推進研修会

学部名	テーマ	日時	対象者	参加数
小白川キャンパス (地域教育 文化学部担当)	第1部【講演会】山形市の学校におけるLGBTへの対応について 第2部【研修会】大学におけるLGBT対応～違いを理解し、認め合う教育・研究をめざして～	9月2日(月) 10:00~12:00	小白川キャンパス及び 大学コンソーシアム やまがた所属大学の教職員	37人
第1部では、山形市男女共同参画センター所長・草苺氏及び山形市教育委員会学校教育課指導主事・澤村氏から、山形市における男女共同参画の取組及び山形市の学校におけるLGBT対応について講演いただいた。第2部では、男女共同参画推進室の井上准教授から山形大学におけるLGBT対応の現状報告があり、その後グループワークで情報交換を行い有意義な研修会となった。				

●FD・SD研修会

学部名	テーマ	日時	対象者	参加数
米沢キャンパス	「多様な学生が、生き活きとした学生生活を送るために」～LGBTQ+などの性的個性の理解と対応～	11月26日(火) 13:30~16:30	米沢・鶴岡各キャンパス及びコンソーシアム	25人
鶴岡キャンパス		11月28日(木) 15:30~16:30	やまがた所属大学の教職員	30人
ハラスメント防止対策・ハラスメント相談を専門とし、NPO等で性に関する様々な悩みを抱える学生の支援にあたられてきた大学院理工学研究科担当の中澤准教授から、多様な学生への配慮についてわかりやすく講演いただき、多様な性的個性を持つ学生と接するための知識を得る機会となった。				



図4 研修会の様子(9月2日)



図5 研修会の様子(9月2日)



図6 研修会の様子(11月26日)



図7 研修会の様子(11月28日)

(2) 男女共同参画フェスタ (パネル展示)

例年6月に開催される内閣府の「男女共同参画週間」に合わせて、男女共同参画フェスタを開催している。令和元年度は、男女共同参画セミナーの開催とともに、女性研究者シーズの紹介パネルを中心にパネル展示を行った。平成28年度より開始したLGBT(性的少数者)への理解を促すことを目的としたパネル展示も内容を改訂し、継続して実施した。

【日 時】 小白川 令和元年6月25日(火)から7月8日(月)
米 沢 令和元年7月12日(金)から7月19日(金)

【場 所】

＜パネル展示＞ 小白川 学生会館1階
米 沢 4号館1階 大示範教室前廊下周辺

【内 容】 女性研究者シーズの紹介、LGBTに関するポスター展示、山形大学の取り組み及びダイバーシティ事業の紹介ポスターの展示

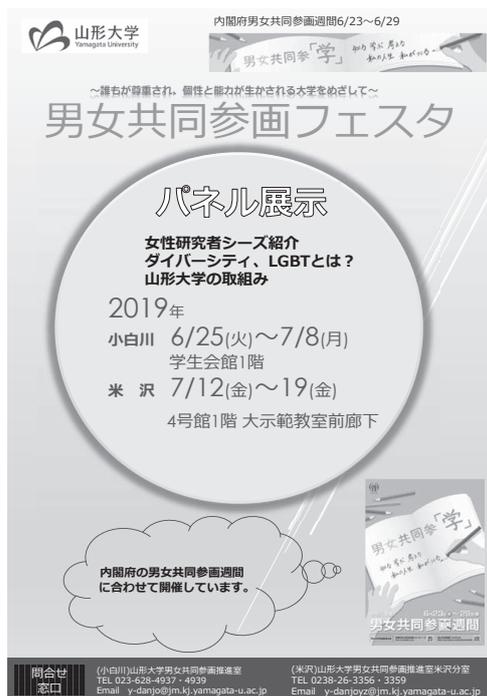


図1 チラシ



図2 パネル展示(小白川キャンパス)

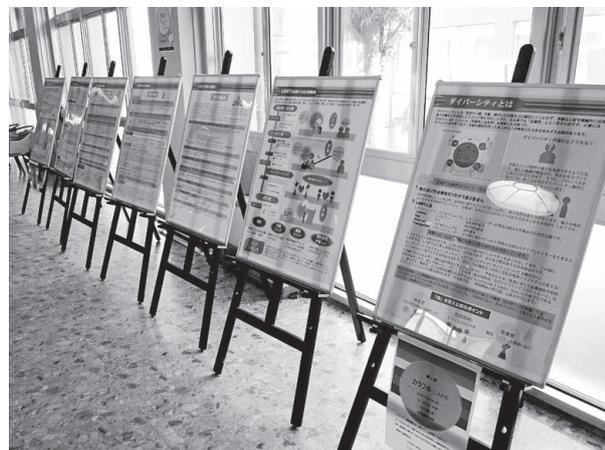


図3 パネル展示(小白川キャンパス)

②-2 | 仕事と育児等との両立支援

(1) 小白川キャンパス保育所のびのび

●概要

1	所在地	山形市小白川町一丁目3-10
2	利用対象者	山形大学の役職員及び学生並びに山形銀行の役職員（以下「職員等」という）が養育する生後57日から小学校就学の始期に達するまでの乳幼児を対象とする。また、入所定員に余裕があるときは、定員の2割の範囲内で、職員等以外の乳幼児も入所可能。一時保育は、職員等が養育する生後6ヵ月から小学校就学の始期に達するまでの乳幼児が対象。
3	利用定員	30人（地域枠6名以内）
4	保育時間	基本保育：7時30分から18時30分まで 延長保育：18時30分から20時30分まで 一時保育：7時30分から20時30分までの間 大学入試センター試験等の休日保育 7時30分から20時30分まで
5	休所日	(1) 土曜日及び日曜日（ただし、大学入試センター試験及び個別学力検査等が実施される土曜日及び日曜日は除く。） (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日 (3) 12月29日から翌年1月3日まで
6	保育料 (1人あたり)	基本保育：0歳児 37,100円/月、1歳児 37,000円/月、 2歳児 45,000円/月、3歳以上 30,000円/月 延長保育：1時間300円 一時保育：3歳児未満 1時間400円 3歳児以上 1時間300円 一日につき給食費 376円・おやつ代 75円（希望がある場合） 大学入試センター試験日及び学力検査等：1時間 300円
7	運営形態	山形大学と山形銀行が連携して運営する事業所内保育所で民間委託。
8	開所時期	平成26年4月1日

●幼児教育・保育の無償化の実施に伴う保育料の改正について（令和元年10月1日～）

保育区分	保育料（*1）	
基本保育	1月につき	【0歳児】 32,600円
	〃	【1歳児】 32,500円
	〃	【2歳児】 40,500円
	〃	【3歳児以上】 25,500円
		【0歳～就学前】給食費・おやつ代 4,500円
延長保育	1時間につき	300円
一時保育 *定員に余裕がある場合のみ	1時間につき	【3歳児未満】 400円
	〃	【3歳児以上】 300円
		【0歳～就学前】一日につき 給食費 361円・おやつ代 75円（希望がある場合）

(*1) 給食費・おやつ代及び実費分（*2）を除いた保育料のみ無償化の対象になる。一旦、保護者が保育料の全額を大学に支払い、その後市へ請求を行うことで支払った金額の全部又は一部が支給される「償還払い」方式により行う。

(*2) 利用者が負担することが適当と認められる費用（日用品やイベント費用など）を実費徴収する場合がある。

●利用状況

<入所者数>（ ）は地域枠利用者の内数 *各3月1日時点

	0歳～1歳児	2歳児以上	計
平成30年3月	12人（4人）	12人（3人）	24人（7人）
平成31年3月	13人（2人）	4人（1人）	17人（3人）
令和2年3月	12人（4人）	4人（1人）	16人（5人）

●教育研究への対応

保育所が大学の施設である関係から、保育所利用規程の目的に保育研究等に資する環境を整えることも含まれている。そのため、教育研究活動に関する取扱要領を制定し、日常保育の中の可能な範囲で教育研究に対応している。

(2) 小白川キャンパス保育所つぼみ

●概要

1	所在地	山形市小白川町一丁目3-10
2	利用対象者	山形大学の役職員及び学生並びに山形銀行の役職員（以下「職員等」という）が養育する生後57日から満1歳までの乳幼児を対象とする。また、入所定員に余裕があるときは、定員の4割の範囲内で、職員等以外の乳幼児も入所可能。一時保育は、職員等が養育する生後6ヵ月から満1歳までの乳幼児が対象。
3	利用定員	10人（地域枠4名以内）
4	保育時間	基本保育：7時30分から18時30分まで 延長保育：18時30分から20時30分まで 一時保育：7時30分から20時30分までの間 大学入試センター試験等の休日保育 7時30分から20時30分まで
5	休所日	(1) 土曜日及び日曜日（ただし、大学入試センター試験及び個別学力検査等が実施される土曜日及び日曜日は除く。） (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日 (3) 12月29日から翌年1月3日まで
6	保育料 (1人あたり)	基本保育：0歳児 37,100円/月、1歳児 37,000円/月 延長保育：1時間 300円 一時保育：1時間 400円 一日につき給食費 376円・おやつ代 75円（希望がある場合） 大学入試センター試験日及び学力検査等：1時間 300円
7	運営形態	山形大学と山形銀行が連携して運営する企業主導型保育所。運営は民間委託。
8	開所時期	平成30年9月1日

●幼児教育・保育の無償化の実施に伴う保育料の改正について（令和元年10月1日～）

保育区分	無償化対象とならない児童の保育料	無償化対象となる児童の保育料
基本保育	1月につき 【0歳】 37,100円 " 【1歳】 37,000円	1月につき 【0歳】 0円 " 【1歳】 0円
延長保育	1時間につき 300円	1時間につき 300円
一時保育	1時間につき 400円 一日につき給食費361円・おやつ代75円 (希望がある場合)	1時間につき 400円 一日につき給食費361円・おやつ代75円 (希望がある場合)

●利用状況

<入所者数> () は地域枠利用者の内数 *各3月1日時点

	0歳児	1歳児	計
平成31年3月	10人(1人)	0人(0人)	10人(1人)
令和2年3月	10人(3人)	0人(0人)	10人(3人)

（3）医学部保育所すくすく

●概要

1	所在地	山形市飯田西二丁目2番
2	利用対象者	山形大学医学部、山形大学医学部附属病院及び大学院医学系研究科職員が養育する産後休暇明けから小学校就学の始期に達するまでの子どもを対象。ただし、入所定員に余裕がある場合、終夜保育を除き、山形大学の他学部等所属職員及び学生の子どもも対象とする。
3	利用定員	40人（0～1歳については、20人を上限とする。）
4	保育時間	基本保育：7時00分から18時30分 延長保育：6時00分7時00分 及び 18時30分から20時30分 終夜保育：18時30分から翌日の7時00分 一時保育：終日
5	休所日	12月29日から翌年の1月3日まで
6	保育料	基本保育：3歳未満 45,000円／月、3歳以上30,000円／月 延長保育：1時間につき 300円 終夜保育：1回につき 1,000円 一時保育：2時間につき 500円
7	運営形態	児童福祉法の認可外保育施設とし、運営は民間委託
8	開所時期	平成19年1月9日

●利用状況

<入所者数> *各3月1日時点

	0歳～1歳児	2歳児以上	計
平成30年3月	3人	37人	40人
平成31年3月	7人	32人	39人
令和2年3月	9人	22人	31人

(4) 医学部病児保育室

●概要

1	所在地	山形市飯田西二丁目2番（山形大学医学部管理棟1階 正面玄関北側）
2	利用対象者	本学に所属する職員の子ども（生後6か月から小学6年生までの子どもで、急性感染症や慢性疾患に伴い、当面、症状の急変は認められないが、病気の回復に至っていないことから集団保育が困難で、かつ、保護者の勤務等の都合により家庭で保育を行うことが困難な子ども）を対象とする。
3	利用定員	3人（生後6か月から小学6年生まで）
4	利用日時	平日の7時30分から18時00分
5	休室日	土曜、日曜、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）のほか施設長が指定した日
6	利用料	保育料1日 500円、半日（5時間未満） 300円 昼食代（年齢、月齢に合わせた離乳食か幼児食等、補食（おやつ）を含む） 無償
7	開所時期	平成29年1月4日

●利用状況

期 間	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児以上	計
平成29年度（4月～3月）	22人	77人	76人	55人	230人
平成30年度（4月～3月）	28人	110人	48人	127人	313人
令和元年度（4月～12月）	37人	56人	41人	84人	218人

(5) 荘内銀行キッズワールドあゆみ

●概要

1	所在地	鶴岡市本町1丁目3-43 荘内銀行内
2	利用対象者	山形大学農学部の役職員及び学生が養育する生後57日から小学校就学の始期に達するまでの乳幼児を対象とする。
3	利用定員	20人（空き定員の範囲内）
4	利用日時	7時30分から19時30分（延長保育なし、土日は両親ともに仕事の場合は開所する。）
5	休室日	土曜、日曜、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）のほか施設長が指定した日
6	利用開始時期	平成30年4月1日

●利用状況

	0～1歳児	2歳児以上	計
平成31年3月	0人	0人	0人
令和2年3月	0人	0人	0人

（6）託児サポーター制度（学童の一時預かり）

仕事と育児の両立を可能にする環境整備の1つとして、平成21年12月に開始した制度であり、託児サポーター（研修を修了した学生）が保育士の指導のもとで保育を行う。

平成26年4月からは小白川キャンパス保育所が開所し、生後6か月から就学前の子どもの一時預かりは保育所で行うことができるため、小白川キャンパスにおいては本制度の利用は学童に限られる。保育所が設置されていない米沢キャンパスにおいては、平成28年度からダイバーシティ研究環境イニシアティブ事業の一環として、幼児を含む一時預かりを実施している。

＜過去3年度分の利用者状況＞ ※米沢キャンパス利用分を含む

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
利用教職員数	9人	4人	4人
託児子ども数	13人	6人	5人
年間延べ利用回数	7回	4回	3回
年間延べ利用時間	36.75時間	39.9時間	27.5時間
実働託児サポーター数	7人	1人	0人

※令和元年度利用実績は、2月末時点のもの。

（7）研究継続支援員制度・学会参加時の保育支援制度

①研究継続支援員制度

出産、育児、介護等により十分な研究時間を確保することが困難な研究者（性別問わず）に「研究継続支援員」を配置し、継続して研究を行うことができるような環境を提供する。

＜過去3年度分の利用者状況＞

		利用者数	支援員数	支援時間数
平成29年度	前期	13人（3人）	13人	2,876時間
	後期	16人（4人）	16人	3,747時間
平成30年度	前期	18人（2人）	16人	2,393時間
	後期	21人（4人）	23人	1,995時間
令和元年度	前期	21人（5人）	23人	2,024時間
	後期	19人（9人）	21人	1,740時間

（ ）は男性利用者内数

②学会参加時の保育支援制度

平成24年4月より女性研究者の研究と育児の両立を支援するため、「学会出張時の保育支援制度」を実施した。教職員だけでなく博士後期課程学生も利用できることから、「学会参加時の保育支援制度」と名称を改めた。また、平成26年度から男性研究者についても支援対象としている。

(8) 相談制度

ワーク・ライフ・バランスの改善に向けて、平成25年度より対象を女性研究者から全教職員、大学院生（博士前期課程を除く）及びポストドクターに拡充して相談員による巡回相談を実施してきた。

相談件数は少なくなってきたことから、平成30年度より男女共同参画推進室が相談窓口（LGBTも含む）になっている。

②-3 | 女性研究者の裾野拡大

(1) 女性研究者裾野拡大セミナー

【農学部】

「農学部ってどんなところ？研究者になりたい！」～卒業生の体験談を聞いてみよう～

日 時：令和元年7月28日（日）11：00～12：00

会 場：農学部3号館302講義室

講 師：網干貴子氏（農学部・准教授）

参加人数：女子高校生（40人程度）とその保護者

内 容：

- 1 農学部における女子卒業生の就職状況の説明
- 2 農学部の女子卒業生の講演
- 3 農学部の女子卒業生と女子高校生との質疑応答

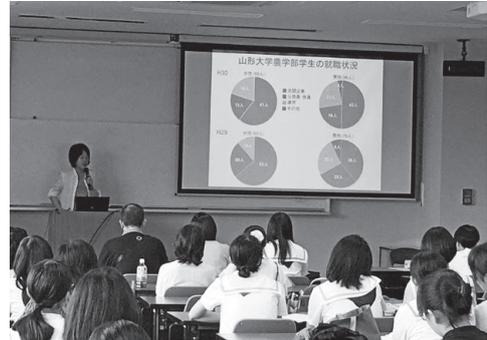


図1 会場の様子

本セミナーの事前告知として、農学部HPへの掲載及び山形県内の高校への郵送案内を行なった。事前申込み者は昨年度より5名少ない19名であったが、オープンキャンパス当日に参加者へ直接呼びかけた他、「学科・コース説明会」の後にアナウンスを実施した結果、昨年とほぼ同等の参加者を確保することができた。

研究職に就くと実際にどんな仕事に携わるのかについて、体験談を聞くことで大学卒業後の進路を具体的にイメージすることができ、アンケートには「農学系は幅広い職業に関連していると感じ、視野が広がった」といった感想もあった。

オープンキャンパスと同時開催のため、積極的な情報獲得や将来設計に意欲のある多くの女子高生の参加を得ることができた。昨年度から引き続き受講している学生もおり、次年度以降も、農学部において、本形式でのセミナーを引き続き実施していきたい。

【地域教育文化学部】

「比べてみよう！～日本と海外における化学の勉強～」

日 時：令和元年8月3日（土）

会 場：基盤教育2号館213

講 師：中西 正樹氏（地域教育文化学部・教授）

参加人数：高校生14人（男性7人・女性7人）＋保護者3人

内 容：

講師自身のキャリア形成を紹介した後、化学に関する講義を行った。講師自身の体験を伝えることを通して、将来研究者を目指す高校生が増えるきっかけ作りとした。（講演者：地域教育文化学部 後藤みな講師）

本講義では、「海外ではどのように化学を勉強するのか？日本と比べたとき、勉強する内容や学び方にどんな違いがあるのか？」など、日本と海外における化学の勉強について、参加者と一緒に比べてみた。また、講師自身が研究者になろうと思ったきっかけや、これまでの道のりなどについて

も紹介した。

オープンキャンパス時に行ったため、幅広い高校からの参加を得ることができた。広報の仕方をより工夫することで、参加者増につなげることができると考えられるので、来年度以降継続する際は検討事項としたい。

【工学部】

女性研究者裾野拡大セミナー2019 in 山大工学部

日 時：令和元年8月3日（土）第1部10：00～11：45 第2部13：00～15：30

会 場：工学部100周年記念館セミナー室

講 師：黒谷玲子氏（工学部・准教授）

参加人数：高校生5人（男性0人・女性5人）+保護者3人

内 容：

I部：将来への希望や不安を話し合う

II部：実際の大学生活について紹介

研究室見学など…

高校生、大学生、大学院生ともそれぞれの立場で同じように将来（就職）などに不安をもっていることが理解できた。午前の部の学生による発表では、勉強も友人づくりも、全てにおいて積極的に自ら行動をしなければいけないこと、大学では多くのチャンスがあることについて高校生に伝えていた。高校生は、工学部は男子ばかりではないことも理解できたようである。セミナー最後の感想では、勉強を頑張りたいという意見が多く、本学学生からは、夢を実現するために努力し続けたいという意見が多かった。

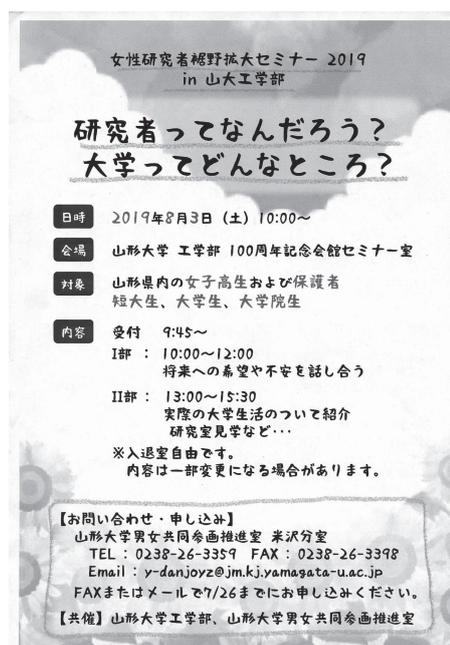


図1 チラシ

【理学部】

（高校1年生向）・理学部で何ができるのか？女子高校生のための山大理学部案内

（高校2年生向）・理学部研究室訪問

日 時：令和元年10月2日（水）

会 場：理学部1号館14番講義室等

講 師：金井塚勝彦氏（理学部・教授）

参加人数：123人（男性0人・女性123人（1年生70人、2年生53人））

内 容：

理学部での研究・教育について、将来女性研究者になる可能性のある女子高校生に理解してもらうことを目指す。具体的な目的及び方法は以下のとおり。

（高校1年生向）

- ① 理学部の研究・教育内容を具体的に紹介し、より明確な理解を得る。
…理学部の女子在学生からの各分野の紹介。（研究、教育、女子学生の在籍率、卒業生の進路等）
- ② 在学生、女性研究者の生の声を聞き、直接対話する機会を設けることで、将来の女性研究者増につなげる。
- ③ 質疑応答
…小グループに分かれての懇談。時間で区切り、全分野の在学生と懇談できるよう配慮。

（高校2年生向）

- 各コースで希望学生を受入れ、コース案内、研究室訪問、実験・模擬授業を行う。
詳細な内容は、コースにより異なる。

（高校1年生向）

理学部各分野（数理科学、物理学、化学、生物学、地球環境科学）の女子学生より教育・研究の紹介を行った後、グループに分かれて懇談会を行い、理学部の女子学生・女性研究者の生の声を聞いてもらった。

高校生が抱く「理学部ではどのような教育・研究が行われているの?」「女性比率はどれくらい?」「卒業後はどのような職業に就くの?」「大学や就職先において男女差はあるの?」といった一般的な疑問について分かりやすく説明。懇談会では、皆笑顔で質疑応答が行われ、和気あいあいとした雰囲気だった。参加者からは、視野が広がり、理系や山形大学理学部に対する認識が改まったといった感想が多く寄せられた。

(2) 山形大学女性大学院生ネットワーク

次世代育成・裾野拡大事業として、女性研究者をめざす女性大学院生のネットワークを平成30年度に設立し、2年目となる今年度も、キャリア形成を支援すべく活動を行った。

【名称】山形大学女性大学院生ネットワーク

(略称「山大JOIN」)

【対象】山形大学女性大学院生

【登録人数】女性大学院生11名

(令和2年1月末現在)

【活動内容】

・JOIN交流会

7月19日、新規メンバーを交えた交流会を山形大学工学部で開催した。交流会では、山大JOINのメンバーが、自己紹介ならびに研究紹介を行った他、山形大学の男女共同参画とダイバーシティ推進の取組について推進室スタッフから紹介を受けた。さらに、今後のネットワーク活動へ期待することや要望について、話し合った。

・企業研究者との交流会

11月25日～27日に実施された交換留学（企業から大学へ）の期間に合わせて、大日本印刷株式会社研究開発センターに所属する女性研究者との交流会を山形大学工学部で開催した。企業の研究環境や就職について様々な話を聞いたり意見交換をする貴重な機会となった。（※詳細については、71頁「JOIN交流会」を参照）

・COI若手研究者および女性研究者との交流会

男女共同参画シンポジウム第二部（11月19日開催）の中で、女性研究者研究成果発表会として、COI若手研究者や女性研究者らとの交流会を開催した。（※詳細については、70頁「女性研究者研究成果発表会」を参照）

・セミナーでの補助活動

管理職セミナーおよびシンポジウムにて、山大JOINメンバーが補助スタッフとして活躍した。



山形大学女性大学院生ネットワーク
山大 JOIN
登録募集のお知らせ

女性大学院生のみさま
仲間・・・そして夢へと「つなぐ」 募集人数：30名程度
山形大学女性大学院生ネットワーク（通称：山大JOIN）の
メンバーとして、一緒に活動しませんか？

対象：本学に在籍する女性大学院生（文系・理系問わず）

【活動目的】
次世代のリーダーを担う女性人材の育成を目的として、女性大学院生ネットワークを
構築し、参加者の相互交流を図るとともにキャリア形成を支援する。
大学院進学を目指す女子学生の育成を目的とした裾野拡大事業を推進し、小中高生を
対象とした次世代育成活動を行う。

【活動内容（予定）】
・男女共同参画関連事業（意識醸成セミナー、シンポジウム、パネル展示等）への参加
・女性活躍促進企業への交換留学、企業訪問、キャリア就職セミナー、進学セミナー等の
キャリアアップを目的とする研修への参加
・裾野拡大事業（小中高校生向け事業）、出前授業（進路学習・探究学習含む）への参加、
企画および実施
・女性大学院生交流会への参加
・情報共有活動（活動報告や記事の執筆、メルマガの配信など）

※小中高生を対象とした活動および各種中身の運営活動は厳禁扱いになり、「山形大学アドミニストレー
ティブアシスタントに就く等特別」が適用されます。学内安全や学業への影響が、自身のキャリアアップや
キャリア形成を主な目的とする活動は、参加辞退いたします。詳細は相談ください。

【登録方法】
必要事項を記載のうえ、EmailまたはQRコードより
申込みください。
<必要事項>氏名、所属、学年、Eメールアドレス

山形大学男女共同参画推進室 チーフコーディネーター井上
TEL023-628-4937 Email: y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

図1 チラシ

(3) 令和元年度基盤教育・ジェンダー関連授業

令和元年度基盤共通教育「キャリア形成とワークライフバランス」（山形から考える）

1 テーマ

- (1) 自らのキャリア・ビジョンを描くため、多方面で活躍する方々の経験に基づいた講義を通じて、男女が共に仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を保てる働き方についての考えを深める。
- (2) 21世紀日本の最重要課題となっている「男女共同参画社会」とはどのような社会で、どのような課題をどのように解決するのか具体的に考える。

2 講師一覧（敬称略）

授業時間割 後期 水曜日7校時（14：40～16：10）

	月 日	講師名	プロフィール等
1	10月30日	小倉 泰憲 学術研究院教授 (理学部)	学生や産業現場で働く人のキャリアを研究。大学で音響工学を学び、企業でエンジニアとして働いた。その後、社会人大学院で心理学を学び、山形大学教授に転職。
2	11月6日	畔柳まゆみ 学術研究院准教授 (地域教育文化学部)	山形県内小学校養護教諭として28年間勤務。その後、山形県立特別支援学校教頭を経て、2018年4月より本職。専門は養護実践、健康相談活動。
3	11月27日	杉野 誠 学術研究院准教授 (人文社会科学部)	専門は環境経済学。地球温暖化対策の制度設計に関する経済分析を行っている。静岡生まれ、アメリカ育ち。鎌倉市から6年前に移住。
4	12月4日	高澤 由美 学術研究院助教 (理工学研究科)	専門は都市計画、地域政策。サステナブルな地域づくりについて、景観や観光、ネットワーク形成など多様なアプローチで研究活動を行う。
5	12月11日	井上 純人 医学部附属病院 第一内科病院教授	呼吸器内科医長として診療、研究、教育を行う。2010年、2013年医学部ベストティーチャー最優秀賞、2014年山形大学優秀教員賞受賞。日本呼吸器学会男女共同参画委員。
6	12月18日	木村 直子 学術研究院教授 (農学部)	農学部卒→食品会社へ就職（研究所勤務）→大学院博士課程→任期付き研究員→大学教員で、現在に至る。専門は、動物生殖学、動物生殖工学。
7	1月15日	山本美奈子 学術研究院准教授 (学士課程基盤教育機構)	専門はキャリア心理学、組織心理学。キャリアデザインやインターンシップの授業を担当。結婚し、子供を育て仕事と両立しながら大学院に進学、学位を取得。

3 受講した学生の感想

- ・人生100年時代になる中、今までと働き方・生き方が変化していくということを改めて考えさせられた。これからの時代は不安定で予測不能な時代に入っていくので、自分の頭で考えて、自分自身の未来をつくっていくことが大切だと思った。
- ・今までは、キャリア形成と聞くと、一度しかないから失敗できないと緊張していたが、多段階に分けて考えると、失敗しても次につなげていけばいいと前向きに考えることができた。
- ・「周りとは合わせないと浮いてしまう」という排他意識への恐怖を振り払って、手を挙げて自分の言葉で、自分の考えを立派に述べられるような人間になりたいと思っている。この授業が終わるまでに、より多くの質問や意見を述べられるように訓練できたらと思った。

- ・仕事、帰宅時間に制限を設けることで、仕事の効率や段取りをする力・精選力を上げたこと、複数の役割を担うことが活性化させ、精神的健康を高めるという点に非常に納得した。夫婦間の満足度の話聞き、将来結婚して子どもができて、しっかりとパートナーの負担を減らし、満足度を上げられるように努めたいと思った。
- ・三世代同居が日本で一番多い山形県での体験談を聞き、三世代同居のメリット・デメリットと、家族の役割について学ぶことができた。また、自分の将来や共働きで大切なことについて考えることができ、良い機会になった
- ・仕事を決める上で、「なぜ働くのか」、「どこで働くのか」という価値観を大切にしていきたいと思った。アメリカと日本の文化の違いを聞くことができて良かった。
- ・この講義を通して、「山形で働くのもいいな」と思った。子どもとの時間、自然環境などを考えると、山形は子育てに打って付けだと感じた。今まで、都会から山形へ転職する利点を生の声で聞いた事がなかったので、とても参考になり、おもしろかった。
- ・将来家庭を持った時、妻が仕事を続けたいと考えていたら応援しようと思っていた。しかし、今回の講義でまだまだ考えが足りないことに気付いた。もし自分の仕事の都合で転勤しなくてはならなくなったら、子育てが忙しくなったなどと想定したことが無かった。夫としての役割を考えていきたい。
- ・普段知ることができないリアルな医療の事情を知ることができた。また、「大学1年生のときにしかできないことを本気でやりなさい」というお話を伺い、自分は入学してからだらだらと時間を過ごしていると感じ、これを機にサークル活動や課外活動に力を入れようと思った。
- ・「今を大事にすること」「何かを好きになること」という点がためになった。先生のハードなスケジュールを知り、自分がどれほど楽をしているかがよく分かった。自分の中で課題の解決策が見えたので本当に良かった。
- ・企業の研究者の仕事について詳しく聞くことができて参考になった。私は漠然と研究者になりたいと考えていたが、研究者の中でも種類があり、問題もあることを知り、もう一度真剣に考えようと思った。また、「二つの道があったらチャレンジする道を選ぶこと」は不安かもしれないが、頑張ろうと思った。
- ・キャリアサポートセンターやキャリアカフェが山大にあることを知ることができ、利用したいと思った。仕事をしながらでも大学院で学ぶことができること、本当に学びたいことがあれば学び直すことができることがわかった。自分をコントロールし、行動を変えるため、心理学に興味を持った。
- ・山形の女性は力強くパワーがあると仰っていたが、先生もパワーと信念があると思った。仕事と育児と学びを両立するのは並大抵のことではないが、課題の解決法を何としても見つける力を尊敬した。

4 授業パンフレットの発行

平成29年度より、『『キャリア形成とワークライフバランス（山形から考える）』探究ノート』を年度末に発行している。各講義の内容と学生の授業記録をまとめた内容で、学生、教職員、一般の方に配布し、男女共同参画社会やジェンダーについて考える契機になっている。

②-4 | アウトリーチ活動

機 関 等	連 携 内 容
大学コンソーシアム やまがた	①ダイバーシティ推進ネットワーク会議 ・第1回日時：令和元年5月24日（金）（議長：井上榮子准教授） ・第2回男女共同参画推進状況アンケート調査 5月～7月 ・第2回日時：令和元年11月14日（木）調査報告・次年度計画など 持ち回り会議（議長：井上榮子准教授） ②「男女共同参画セミナー」の共催 日時：令和元年7月5日（金） 内容：ダイバーシティが拓く山形の未来
山形大学COI	①山形大学COI（フロンティア有機システムイノベーション拠点）運営会議 （女性活躍担当：井上榮子准教授） 日時：令和元年5月22日（水） ②6月17日（月）JST拠点面談（米沢）で報告（井上榮子准教授） 日時：令和元年6月17日（月） ③山形大学COI共催（工学部11号館未来ホール） 第2回地域連携プラットフォーム～小野川のまちづくり～の開催 日時：令和元年8月28日（水） ④山形大学COI共催（工学部11号館未来ホール） 3機関合同シンポジウム「豊かな健康長寿社会を目指して」 「COI若手研究者・女性研究者成果発表会および交流会」を開催 日時：令和元年11月19日（火） ⑤山形大学COI運営会議への出席（井上榮子准教授） 日時：令和2年1月14日（火） ⑥JST拠点面談（東京）に参加（井上榮子准教授） 日時：1月20日（月）
山形県男女共同参画センター チェリア	①チェリアフェスティバル実行委員会 日時：令和元年8月24日（土）（井上榮子准教授） ②チェリアフェスティバル山形2018 日時：令和元年9月29日（日）文翔館（井上榮子准教授） 内容：山形大学の取組みについて（展示）
山形市企画調整部 男女共同参画センター	①山形市男女共同参画審議会（会長：井上榮子准教授） 日時：第1回令和元年5月29日（水） 内容：事業報告、平成30年度事業計画、進捗状況報告書 ②男女共同参画に関する作品審査会 令和元年8月30日（金） ③男女共同参画に関する作品表彰式 令和元年10月26日（土） ④山形市男女共同参画審議会（会長：井上榮子准教授） 日時：第2回令和2年2月21日（金）
山形市男女共同参画センター ファアラ	・ファアラ大学（講師） 日時：令和元年6月11日（火）井上榮子准教授 内容：「世界から見た日本の男女共同参画」
長井市 地域づくり推進課	①長井市男女共同参画推進審議会（会長：井上榮子准教授） ・第1回日時：令和元年10月11日（金） ・第2回日時：令和元年12月24日（火） ②置賜地域男女共同参画講座実行委員会① 令和元年11月28日（木） 実行委員会② 令和2年1月24日（金） ③置賜地域男女共同参画講座 令和2年2月15日（土） ～みんなで育てあうまち～個性を楽しみながら

機 関 等	連 携 内 容
全国ダイバーシティ ネットワーク組織	①全国ネットワーク組織・臨時幹事会（井上榮子准教授） 日時：令和元年6月3日（月） 大阪大学 内容：今年度の取組、実施体制、予算の基本方針、ウェブサイトについて ②第2回幹事会・シンポジウム（阿部宏慈理事、井上榮子准教授） 日時：令和元年12月6日（金） 東京 内容：幹事会、シンポジウム（講演会、各ブロック活動報告）
全国ダイバーシティ ネットワーク組織 東北ブロック	①東北ブロック会議幹事会（阿部宏慈理事、井上榮子准教授） 日時：第1回令和元年10月3日（木） 東北大学 内容：平成30年度事業計画 ②東北ブロック勉強会（阿部宏慈理事、井上榮子准教授、藤村維子准教授） 日時：第1回令和元年10月3日（木） 内容：「無意識のバイアスとダイバーシティレポート制度について」 （岩手大学） ③東北ブロック勉強会（阿部宏慈理事、井上榮子准教授、藤村維子准教授） 日時：第2回令和2年2月25日（火） 内容：「大学のジェンダー平等政策をいかに評価するか —アメリカ・イギリス・ドイツの先進事例から—」 （大阪市立大学）
福島大学	・東北ブロック会議の参加大学についての説明（井上榮子准教授） 日時：令和元年6月19日（水）
山形県男女共同参画課	・やまがた女性活躍応援連絡協議会 日時：令和2年2月17日（月）

②-5 | 広報活動等

【ニュースレター】

第25号（2019年8月発行）

第26号（2020年2月発行）

【ホームページ】

ホームページの更新を平均月1回行い、学内外の情報に関わらず、利用者に有益と思われる情報を提供し、さらにセミナー等への参加や制度利用の促進に努めた。

また、階層が深くたどりにくかった小白川保育所のページを新たに開設した。

【パネル展での広報】

（1）米沢市男女共同参画パネル展

米沢市からの要請を受けて、本学作成のLGBTの紹介パネルを米沢市の男女参画パネル展にて展示を行った。本学のLGBTの取組みを広く紹介する機会となった。

日 時：令和元年11月11日（月）～22日（金）

場 所：ナセBAオープンギャラリー

（2）山形大学男女参画フェスタにおけるパネル展

令和元年6～7月実施の男女参画フェスタにて、女性研究者シーズ紹介及び今年度改訂したLGBTパネルの展示を行った。他に山形大学の取組の紹介、ダイバーシティ事業の紹介のパネル展示やセミナーのチラシの配布を行った。（※男女参画フェスタの詳細は、23頁参照のこと）

（3）山形県男女共同参画センター チェリアフェスティバル山形2019

本学の取組みの一部として、LGBTの紹介パネル（改訂版）を展示した。

日 時：令和元年9月29日（日）9：00～16：00

場 所：文翔館

テーマ：「あなたと私違いを力に変えていく」

【新聞等による報道】

令和元年10月13日 山形新聞 2面掲載

「健康長寿社会へ 山形大などシンポ 米沢で来月」

山形大、DNP、県立米沢栄養大による合同シンポジウム「豊かな健康長寿社会をめざして」が11月19日午後1時半から、山形大米沢キャンパスで開催され、講演はNPO法人うま味インフォメーションセンターの二宮くみ子理事が健康長寿につながる食生活について語ることが紹介された。

Ⅱ. ダイバーシティ研究環境実現 イニシアティブ(連携型)の概要



① | 事業の概要

総括責任者	国立大学法人 山形大学 学長 小山 清人
共同実施機関	大日本印刷株式会社 研究開発センター 山形県公立大学法人 山形県立米沢栄養大学
実施予定期間	平成27年度～平成32年度
目標・行動計画	<p>女性研究者の活躍促進に向けた組織としての目標・行動計画を次のように明記している。</p> <p>(1) 代表機関 国立大学法人 山形大学 女性研究者の活躍促進に向けて、第3期中期目標（平成28～33年度）の「組織運営の改善に関する目標」の中に「男女共同参画の推進に必要な就業環境を整備し、ワーク・ライフ・バランスに関する支援策等の充実を図る」を明記した。 また、第3期中期計画（平成28年～33年度）の中に、「ワーク・ライフ・バランスを向上させるための就業環境を一層充実し、多様な人材活用の推進を図る。女性教員比率を17%以上にする。」を明記した。</p> <p>(2) 共同実施機関 大日本印刷株式会社 研究開発センター 女性研究者の活躍推進として、女性研究者のキャリアプラン構築を支援することで「女性研究者が活躍し、多様な価値観が職場に反映され業績向上に貢献する」「新たな女性研究者リーダーを輩出する」ことを目標に掲げている。</p> <p>(3) 共同実施機関 山形県公立大学法人 山形県立米沢栄養大学 山形県立米沢栄養大学及び山形県立米沢女子短期大学を運営する山形県公立大学法人では、現中期計画（第2期 平成27年度～32年度）で、以下の目標掲げた。「教育研究の質の向上及び大学業務運営の改善に向け、全学的、長期的視点に立った水準の高い専門性を有する多彩な人材確保に向けた人事採用のあり方を検討し、その仕組みづくりを行う。」 平成27年度の年度計画に「男女共同参画を推進し、特に自然科学分野中心の米沢栄養大学においては、女性研究者の研究力を十分に発揮できる研究環境の整備等、その育成、地位向上のための支援の充実を図る。」を明記した。</p>
取組の概要	<p>(1) 連携体制 「有機エレクトロニクスを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画」をテーマに、既に連携を進めている3機関が女性研究者支援体制を整え、より積極的に女性研究者の参画を促し、研究力を強化する取組を行う。各機関の学長、センター長のリーダーシップのもと、3機関によるダイバーシティ連携推進会議で緊密な連絡調整を図りながら実施する。</p> <p>(2) 活動内容 3機関がそれぞれの特徴や得意分野を活かして活動する。</p> <p>①山形大学米沢キャンパス（工学部）に男女共同参画推進室の米沢分室（ダイバーシティ連携推進会議事務局）を設置すると共に、ワーク・ライフ・バランス相談室や託児ルームを開設し、女性研究者の共同研究環境を整える。</p> <p>②共同研究に従事するライフイベント中の男女研究者の支援制度を構築する。</p> <p>③女性が代表となる共同研究の開発と研究費支援制度を構築する。女性の研究力向上を通して研究者及び上位職の増加を図る。</p>

2 | 実施体制

(1) ダイバーシティ連携推進会議の設置

共同実施機関3機関は、それぞれの機関内に本事業の推進組織を位置づけ、担当者を置く。担当者は、ダイバーシティ連携推進会議の議を経て連携事業に関する連絡・調整、企画、実施等を行う。

(2) 意思決定プロセス・マネジメント構造

ダイバーシティ連携推進会議の内容は、各機関の推進組織に伝えられ、必要に応じて審議機関での審議を経て決定する。各機関から提案される施策は、ダイバーシティ連携推進会議を経て各機関に諮り、決定する。

(3) 内部評価の実施と外部評価委員会の設置

ダイバーシティ連携推進会議は、内部評価を行いPDCAサイクルで運営すると同時に、外部評価委員会（委員3名）を設置し、外部評価を受けて連携事業の改善を図る。

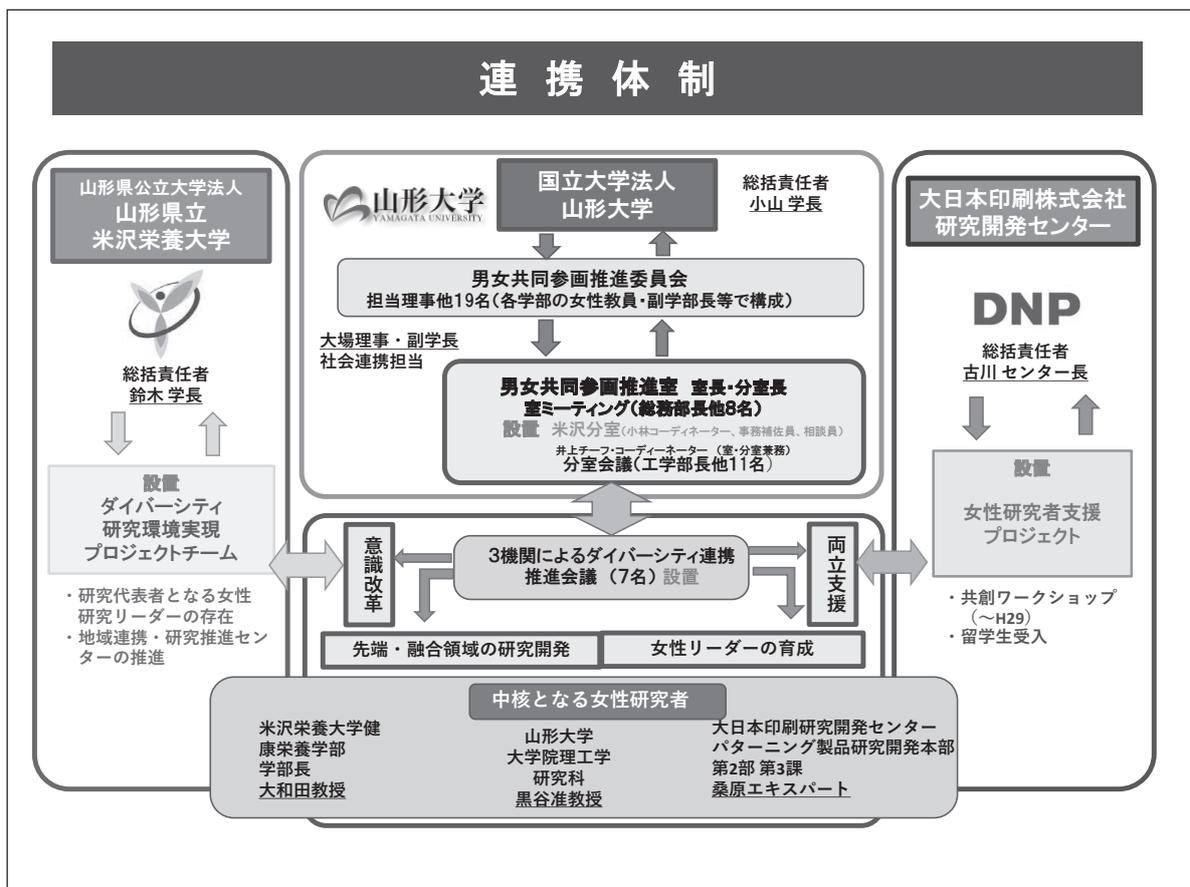


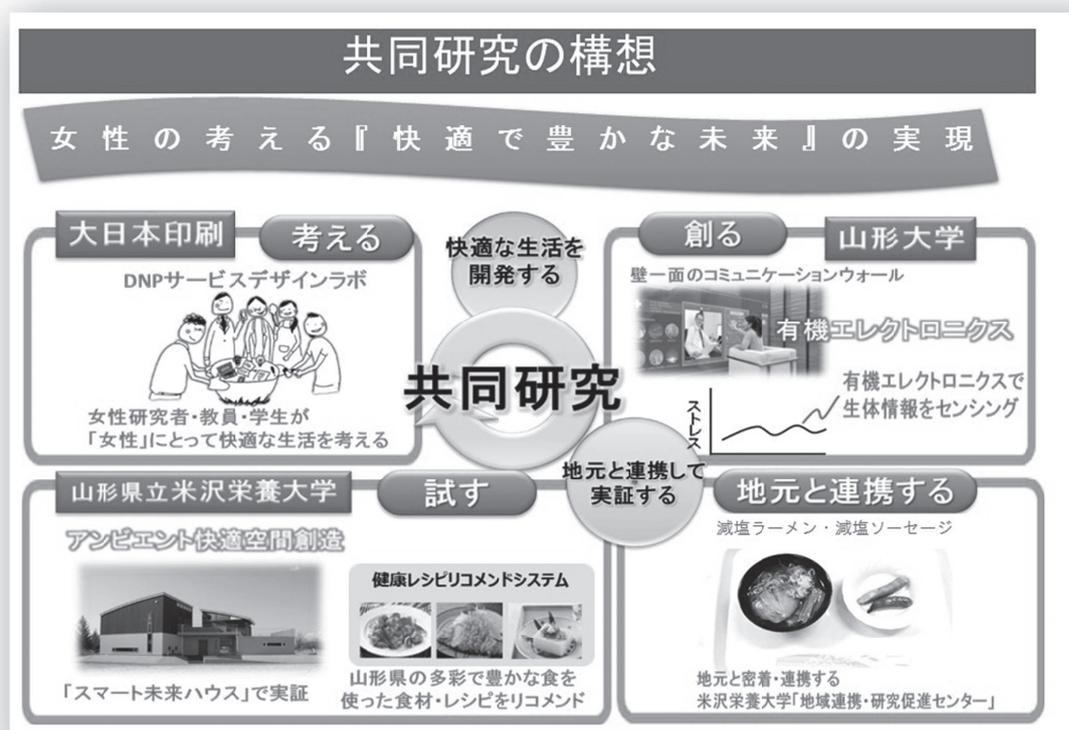
図1 連携体制図

3 | 取組内容

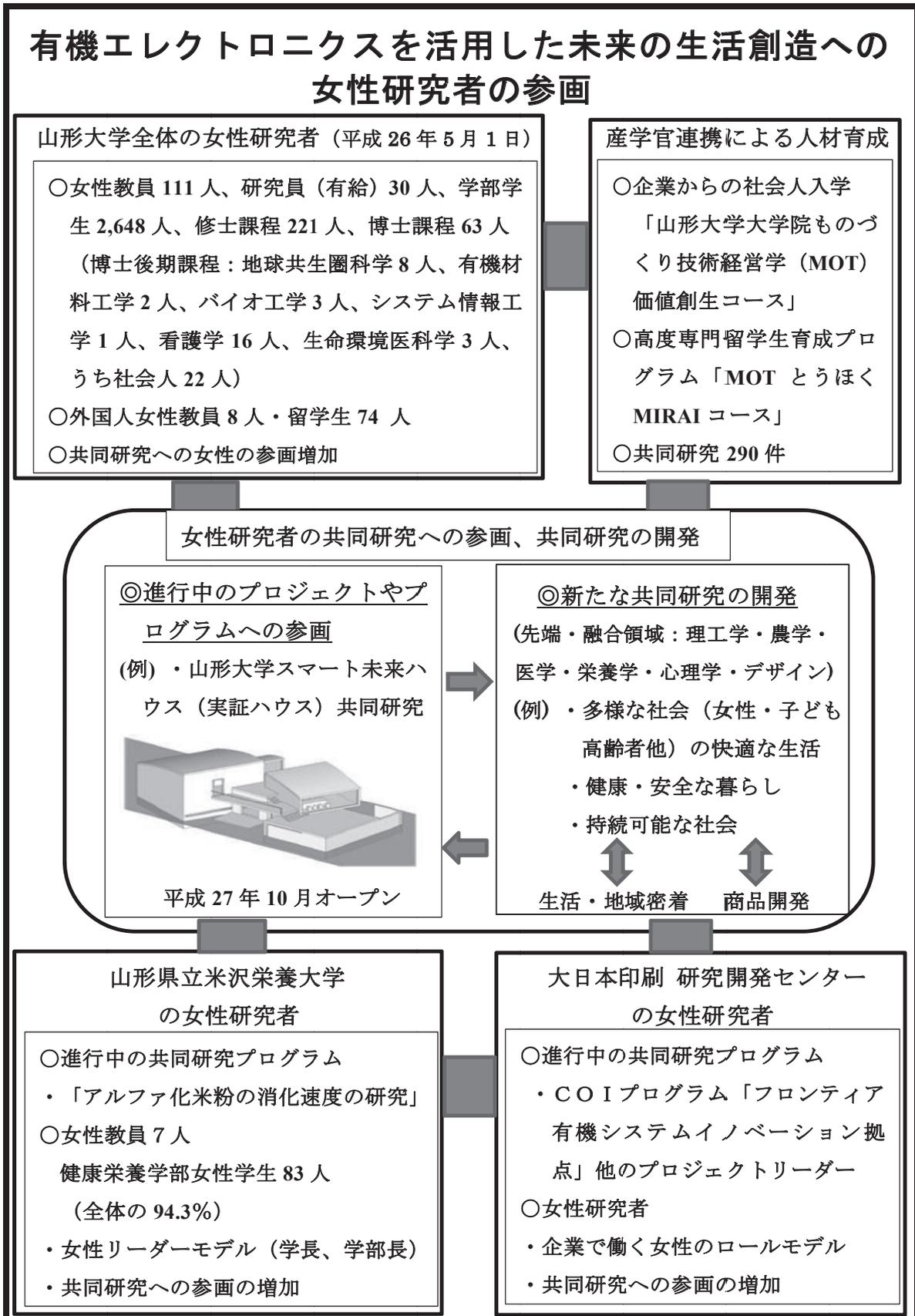
3-1 支援制度の構築



3-2 共同研究の構想



3-3 共同研究体制



④ 令和元年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ

項目	4月	5月	6月	7月	8月
	事業計画の決定		事業計画の公表・周知		
1) 推進体制					
①ダイバーシティ連携推進会議	・ダイバーシティ連携推進会議開催(持ち回り)			・ダイバーシティ連携推進会議開催(第1回)	・連携推進会議の開催(持ち回り)
②男女共同参画推進室及び室ミーティング(総務部長他8名)	・推進室ミーティング				
③山形大学男女共同参画推進委員会		・第1回男女共同参画推進委員会			
④第二次基本計画WG			・第1回WG(分担)		
⑤男女共同参画推進室米沢分室及び分室会議(工学部長他10名)					
⑥COI連携		女性・若手研究者の増加促進/多様な女性研究者の参画	→		・健康長寿米沢市民会議への協力(山大・栄養大)
⑦大学コンソーシアムやまがた「やまがたダイバーシティ推進ネットワーク」		・「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」第1回幹事会	・総会		
⑧全国ネットワーク中核機関(群)全国組織・東北ブロック会議			・臨時幹事会	・南東北会議	
2) 意識改革					
①セミナー				・管理職セミナー(小白川)	
②シンポジウム等の開催		・小白川キャンパス新任教職員ランチミーティング(山大)	・男女共同参画フェスタ(山大小白川キャンパス)	・男女共同参画フェスタ(米沢キャンパス)	
③外部評価委員会					
④情報発信					・NEWS LETTER No.25発行
3) 研究と育児等を両立可能にする環境作り					
①研究とライフイベントとの両立を支援する研究支援員制度	研究支援員制度による支援(前期)		・令和元年度後期研究支援員の募集開始	研究支援員制度による支援(前期)	
②託児サポーター制度(米沢キャンパスと小白川キャンパス)	・託児サポーター制度の利用促進(小白川・米沢キャンパス)				
③夜間、休日、病児・病後児保育支援制度	・保育支援制度の周知				
④相談員制度	・相談員制度の利用促進				
4) 女性の研究力向上の取組					
①女性代表共同研究への研究費支援制度	・H31年度募集	・令和元年度審査会開催	・令和元年度採択者決定	・女性代表共同研究への研究費支援	
②ライフイベントによる研究中断からの復帰支援制度	・H31年度募集	・令和元年度審査会開催 ・令和元年度採択者決定	・復帰支援制度の周知と利用促進		
③研究力向上セミナー、外部研究資金獲得セミナー(栄養大企画)			・英語論文セミナー(山大)		
④サービスデザインプロジェクト(山大企画)		・COI女性・若手研究者活動計画(サービスデザインの普及)			・教員向けサービスデザインワークショップ(工学部)
⑤自己啓発合宿(DNP企画)					・自己啓発合宿①
⑥交換留学プログラム(DNP企画)					・審査、留學生決定
⑦学会参加費補助制度	・随時募集 制度の周知と利用促進				
⑧共同研究支援冊子の活用	・3機関の研究紹介リーフレット/山形大学スマート未来ハウス紹介リーフレット/3機関の女性研究者シーズ集の配布、その他制度紹介リーフレットの活用				
5) 女性研究者裾野拡大					
①女性大学院生ネットワーク		女性大学院生ネットワーク(山大JOIN)参加者拡大			
②企業研究職等キャリアセミナー				・女性研究者キャリアパス支援(DNP)通年	
③女子中高生・一般向けセミナー		・裾野拡大セミナー企画募集(山大)		・農学部裾野拡大セミナー(山大)	
6) その他					
①アウトリーチ活動					
②情報収集・連携・広報活動	・国立女性教育会館(NWEC)図書パッケージ配置(小白川)		・国立女性教育会館(NWEC)図書パッケージ配置(小白川)		

研究環境実現イニシアティブ(連携型)事業計画

(令和元年5月現在)

9月	10月	11月	12月	2020年1月	2月	3月
各種支援制度の周知と利用促進					次年度計画準備	年度目標達成
	・JST訪問調査(予定) ・連携推進会議の開催(持ち回り)		・連携推進会議(第2回)		・連携推進会議の開催(持ち回り)	
					・推進室ミーティング開催予定	
・第2回男女共同参画推進委員会			・第3回男女共同参画推進委員会			
・第2回WG(検討)		・第3回WG(原案まとめ)				
					・米沢分室会議開催予定	
		・健康長寿米沢市民会議への協力(山大・栄養大)				
	・「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」第2回幹事会(持ち回り)					
	・「学術会議フォーラム」		・全国シンポジウム			
		・シンポジウム開催(米沢)(研究シーズ発表会)				
				・外部評価委員会開催(メール持ち回り予定)		
						・NEWS LETTER No.26発行 ・令和元年度報告書発行
研究支援員制度による支援(後期)					・令和2年度前期研究支援員募集開始	・令和2年度前期研究支援員の決定
・託児サポーター制度の利用促進(小白川・米沢キャンパス)			・大学入試センター試験時における一時預かり(予定)		・託児サポーター制度の利用促進(小白川・米沢キャンパス)	
・保育支援制度の周知						
・相談員制度の利用促進						
・女性代表共同研究への研究費支援						
・復帰支援制度の周知と利用促進						
・外部研究資金獲得セミナー(栄養大)						
		・サービスデザインのシーズ報告(COI共催シンポジウム)				
						・自己啓発合宿②
・大学からDNPへ		・DNPから大学へ				
・随時募集 制度の周知と利用促進						
・3機関の研究所紹介リーフレット/山形大学スマート未来ハウス紹介リーフレット/3機関の女性研究者シーズ集の配布、その他制度紹介リーフレットの活用						
					・交流会～女性研究者と話そう(栄養大、山大JOIN)	
		・博士キャリアセミナー(山大)				
					・研究成果発表会(女子学生・女性研究者向けキャリアパス支援)(栄養大)	
	・チェリアポスター発表					
・国立女性教育会館(NWEC)図書パッケージ配置(小白川)			・国立女性教育会館(NWEC)図書パッケージ入替(小白川)			

5 | 年次計画概要

	内容	1年度(平成27年度)		2年度(平成28年度)	
		前期	後期	前期	後期
		連携体制確立・支援制度構築		支援制度周知・利用促進	
1) 目標					
①合計 女性研究者採用比率	研究員を含む		23.5%		20.0%
②合計 女性研究者在職比率	研究員を含む		16.8%		17.4%
③合計 女性研究者上位職比率	講師以上		12.3%		13.0%
2) 推進体制					
①ダイバーシティ連携推進会議(3機関7名) ②推進会議事務局(男女共同参画推進室米沢分室)		・3機関関係者会議	・ダイバーシティ連携推進会議(3機関7名構成)を設置(10/1) ・連携推進会議事務局(米沢分室)を設置(10/1)・サブコーディネーター2名、事務補佐員2名、相談員1名配置	・連携推進会議	・連携推進会議
3) 意識改革					
①管理職研修会			・管理職研修会開催(10/23)	・管理職研修開催(6/29)	
③シンポジウム等の開催			・キックオフシンポジウムの開催(2/4)		・シンポジウムの開催(11月11日)
③外部評価委員会	・事業改善		・外部評価委員6名の委嘱(12月) ・外部評価委員会開催(2/24)		・外部評価委員会(2/14)
④情報発信	・ニュースレター年2回 ・メルマガジン(月1回発行) ・ホームページ更新	・ニュースレター第17号発行「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ特集」(9/15) ・メルマガ発行	・ニュースレター第18号発行(3/30) ・ホームページにダイバーシティ連携コーナー設置(12月) ・メルマガ発行	・新支援制度紹介リーフレット発行 ・ニュースレター第19号発行(9/30) ・メルマガ発行	・ニュースレター第20号発行(3/30) ・メルマガ発行
4) 研究と育児等を両立可能にする環境作り					
①研究とライフイベントとの両立を支援する研究支援員制度	・研究支援員の雇用	・研究支援員制度の制定と募集開始(9/28)	・2機関5名の女性研究者を支援 ・次年度前期利用者募集(2月)	・制度の周知と後期利用者募集(9月)	・次年度前期利用者募集(2月)
②託児サポーター制度(米沢キャンパス(新規)と小白川キャンパス)	・幼児、学童の一時預かり(米沢)・学童の一時預かり(小白川)		・託児サポーター養成講座(学生・一般対象2/29~3/5) ・託児サポーター制度の制定と一時預かり開始(3月)	・米沢キャンパス託児サポーター制度の周知と利用促進	
③夜間、休日、病児・病後児保育支援制度			・保育支援制度の制定(12月)	・保育支援制度の周知	
③相談員制度			・相談員研修(10~12月) ・相談員制度の制定(12月)	・相談員制度の周知	
④小白川キャンパス保育所		・入所相談、一時預かり保育登録の常時受付		・入所相談、一時預かり登録の常時受付	
5) 女性の研究力向上の取組					
①女性代表共同研究への研究費支援制度			・女性代表共同研究支援制度制定、募集(10/22) ・選考委員会開催 ・2機関で6件の共同研究支援を決定 ・28年度の共同研究調査(2月)	・28年度募集、審査会開催 ・2機関で10件の共同研究支援を決定	
②ライフイベントによる研究中断から復帰した研究者(男女)への研究費支援制度	・3ヶ月以上の中断者への支援		・復帰支援制度の制定(1月) ・復帰支援制度利用者の募集	・平成28年度復帰支援制度2件の採択決定	
③セミナー・シンポジウムへの女性研究者参加支援			・共同研究促進セミナー開催(10/23) ・スマート未来ハウス見学会(10/15,10/24,11/5) ・外部資金獲得セミナーの開催(12/3)	・シンポジウム「女性研究者の活躍による豊かな未来の生活」開催(11/11) ・外部資金獲得セミナーの開催(11月)	
④研究開発ワークショップ			・ワークショップ説明会と参加者募集(10/23) ・第1回(11/9)、第2回(12/7.8)、第3回(1月)、第4回(2月)開催	・アイデアの創出(技術ヒヤリング3回、WS4回)	・研究開発の推進、実証実験
⑤自己啓発合宿			・自己啓発合宿(3/21-22)	・自己啓発合宿(①7/11-12 ②11/29-30)	
⑥交換留学プログラム			・大日本印刷研究開発センター5日間(2月開催)	・交換留学プログラム(6/27~29、9/7~9)	
⑦メンター制度			・3機関によるメンター制度の検討	・メンター制度制定とメンタリングの開始	
⑧共同研究支援冊子	・女性研究者シーズ集 ・研究所等紹介リーフレット		・3機関の女性研究者シーズ集、研究所紹介リーフレット、実証実験施設スマート未来ハウス紹介リーフレット作成(3月)	・シーズ集、リーフレットの活用	
6) 女性研究者裾野拡大					
①女性対象の博士後期課程進学セミナー			・博士後期課程進学セミナー(フランスの女性研究者を囲んで)(1/20)		・博士課程進学セミナー(11/29)
②多様なロールモデルとの交流					・女性研究者キャリアパス支援
③企業研究職等キャリアセミナー				・キャリア教育、インターンシップ授業開講	
④女子中高生一般向けセミナー				・研究成果報告会(8/7)	
7) その他					
①アウトリーチ活動			・文科省主催合同シンポジウム(12/14) ・27年度報告書作成(3月)	・NWEC視察(8/26)	・合同シンポジウム参加 ・28年度報告書作成
②連携・広報活動		・山形新聞2面で本事業の報道(9/22) ・NHK山形ニュース報道(9/27)	・山形県フェアフェスティバル(パネル展示10/18)	・山形大学COIビジネスアイデアコンテスト(パネル展示) ・山形大学男女共同参画フェスタパネル展示	・山形県フェアフェスティバル(パネル展示10/16) ・山形市男女共同参画センターファアラ(パネル展示)

(令和2年2月現在)

3年度(平成29年度)		4年度(平成30年度)		5年度(令和元年度)		6年度(令和2年度)	
成果確認・波及促進		評価改善・事業見直し		支援継続体制確立		目標達成	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
21.5%		20.8%		20.0%		22.6%	
18.1%		18.8%		19.5%		20.2%	
13.5%		14.3%		14.7%		15.3%	
・連携推進会議	・連携推進会議	・連携推進会議	・連携推進会議	・連携推進会議	・連携推進会議	・連携推進会議	・連携推進会議
		・管理職研修開催(7/2)		・管理職研修開催(7/5)			
	・成果報告シンポジウムの開催(12/4)		・シンポジウムの開催(3月)		・シンポジウムの開催(11/19)		・成果報告シンポジウムの開催(2月)
	・外部評価委員会(1/29)		・外部評価委員会(1月持ち回り)		・外部評価委員会(12月持ち回り)		
・ニュースレター第21号発行(9/30) ・メルマガ発行	・ニュースレター第22号発行(3/30) ・メルマガ発行	・ニュースレター第23号発行(9/30)	・ニュースレター第24号発行(3/30) ・メルマガ発行	・ニュースレター第25号発行(9/30)	・ニュースレター第26号発行(3/30)	・ニュースレター第27号発行	・ニュースレター第28号発行
・後期利用者募集(9月)	・次年度前期利用者募集(2月)	・後期利用者募集(9月)	・制度の見直し ・次年度後期利用者募集(2月)	・後期利用者募集(9月)	・次年度前期利用者募集(2月)	・後期利用者募集(9月)	・次年度前期利用者募集(2月)
・託児サポーター制度の利用促進		・託児サポーター制度の利用(4/5、11/17)		・託児サポーター制度の利用(4/5)		・託児サポーター制度の利用	
・保育支援制度の利用		・保育支援制度の利用		・保育支援制度の利用		・保育支援制度の利用	
・相談員制度の利用		・相談員制度の利用					
・入所相談、一時預かり登録の常時受付		・入所相談、一時預かり登録の常時受付		・入所相談、一時預かり登録の常時受付		・入所相談、一時預かり登録の常時受付	
・29年度利用者募集(4月)	・30年度利用者調査(2月)	・30年度利用者募集(4月)	・制度の見直し ・31年度利用者調査(2月)	・31年度利用者募集(4月)	・R2年度利用者調査(2月)	・R2年度利用者募集(4月)	・R3年度利用者調査(2月)
・復帰支援制度の利用		・復帰支援制度の利用		・復帰支援制度の利用		・復帰支援制度の利用	
・セミナー ・シンポジウムへの女性研究者参加支援		・COIシンポジウム(7/25) ・外部資金獲得セミナー(9/18) ・シンポジウム(3/8)		・COI合同シンポジウム(11/19) ・外部資金獲得セミナー(9/26) ・英語論文セミナー(6/6)		・COI合同シンポジウム ・外部資金獲得セミナー ・英語論文セミナー	
・研究開発の推進、実証実験		・研究テーマの提案(7/27) ・Makaer Faire Tokyo出展(8/4) ・学生向けセミナー実施(7/2、11/28)		・研究開発の推進、実証実験		・社会実装に向けた共同研究	
・自己啓発合宿(①6/8-9 ②11/27-28)		・自己啓発合宿(①6/27-28②2/18)		・自己啓発合宿(①9/2-3、②延期)		・自己啓発合宿	
・交換留学プログラム		・交換留学プログラム(7/11-13、9/18-20)		・交換留学プログラム(9/11-13、11/25-27)		・連携機関留学	
・メンター制度の利用							
・シーズ集、リーフレットの活用		・シーズ集、リーフレットの活用		・シーズ集、リーフレットの活用		・シーズ集、リーフレットの活用	
		・懇談会～女性研究者と話そう(11/10)					
		・女性研究者キャリアパス支援		・JOIN交流会～企業研究者との交流(11/25)			
・キャリア教育授業		・キャリア教育授業・博士キャリアセミナー(11/22)		・「博士」学位を目指すキャリア・就活セミナー(11/21)			
・研究成果報告会(8/6)		・研究成果報告会(11/10)		・研究成果発表会(11/19)			
・合同シンポジウム参加 ・29年度報告書作成		・全国ネットシンポジウム参加(2/7) ・日本化学会シンポジウム発表(3/18) ・30年度報告書作成		・全国ネットシンポジウム参加(12/6) ・全国ネット臨時幹事会参加(6/3) ・令和元年度報告書作成		・全国ネットシンポジウム参加 ・令和2年度報告書作成	
		・大学コンソーシアムやまがた「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」設立(4/1) ・ダイバーシティ研究環境イニシアティブ全国ネットワーク中核機関(群)幹事大学委託(山大)(11/26)					

Ⅲ. ダイバーシティ事業の 活動報告

① 連携体制の推進

①-1 | ダイバーシティ連携推進会議名簿・会議議事

名簿

(令和2年1月末日現在)

機 関 名 等		氏 名	備 考
国立大学法人 山形大学	副学長・理事 男女共同参画推進室米沢分室長	阿部 宏慈	第1号委員 議長
	男女共同参画推進室准教授	井上 榮子	第2号委員
大日本印刷株式会社 研究開発センター	センター長（4月～9月）	中西 稔	第3号委員
	センター長（10月～）	古川 智彦	第3号委員
	研究管理部長	大野 浩平	第3号委員
	エキスパート	桑原 尚子	第3号委員
山形県公立大学法人 山形県立米沢栄養大学	学長	鈴木 道子	第4号委員
	健康栄養学部長	大和田浩子	第4号委員

【参考】

山形大学ダイバーシティ連携推進会議規程（平成27年8月5日制定）

- ① 第1号委員 山形大学男女共同参画推進室米沢分室規程に定める分室長
- ② 第2号委員 山形大学男女共同参画推進室米沢分室の職員 若干人
- ③ 第3号委員 大日本印刷株式会社研究開発センターの職員 若干人
- ④ 第4号委員 山形県立米沢栄養大学の職員 若干人
- ⑤ 第5号委員 その他推進会議が必要と認める者

会議議事等

(令和2年1月末日現在)

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (連携型)に係る案件	ダイバーシティ 持ち回り会議	通 知
英語論文の書き方・プレゼンテーションセミナー開催について	—	4月25日
平成31年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業(連携型)事業計画(案)について	4月24日	5月15日
男女共同参画セミナーの開催について	—	5月28日
第1回ダイバーシティ連携推進会議の開催について	—	5月28日
ライフイベントによる研究中断からの復帰への研究費支援申請の審査結果について	—	6月4日

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)に係る案件	ダイバーシティ持ち回り会議	通 知
女性代表共同研究支援の採択について	5月20日	6月5日
第1回自己啓発合宿の開催について	—	6月26日
交換留学(大学からDNPへ)の実施について	—	7月16日
外部資金獲得セミナーの開催について	—	7月25日
交換留学(大学からDNP)の採択結果について		8月19日
全国ダイバーシティネットワークプラットフォームウェブサイトへの参考事例の掲載について	7月23日	8月28日
全国ダイバーシティネットワークプラットフォーム取組事例集の掲載について	8月27日	9月10日
3機関合同シンポジウムの開催について	—	9月30日
博士学位を目指す学生のためのキャリア・就職活動セミナーの開催について	—	10月29日
交換留学(DNPから大学へ)の実施について	—	11月8日
令和元年度活動報告書の作成について	—	12月25日
外部評価委員会(持ち回り)の開催について	12月20日	(令和2年)2月5日
第2回自己啓発合宿について	—	2月12日
令和2年度年間活動計画について	2月14日	3月予定

第1回 ダイバーシティ連携推進会議 議事

日 時 令和元年7月5日(金) 12:00～13:10

場 所 山形大学小白川キャンパス 法人本部役員会議室

I 協議事項

- 1 平成30年度事業結果説明書(三機関)
- 2 COI連携について
- 3 令和元年度事業計画書(三機関)
- 4 今後の取組について

II 報告

- (1) 全国ダイバーシティネットワーク組織 東北ブロック会議
- (2) 各機関より

III その他

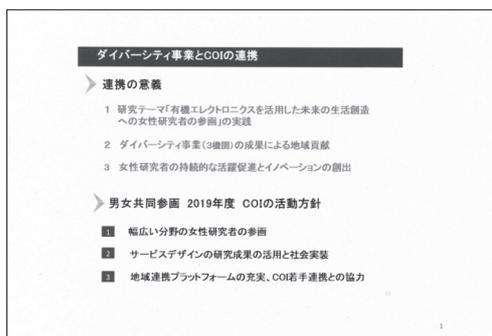
② ネットワーク

②-1 | 山形大学COI(フロンティア有機システムイノベーション拠点)

山形大学では25の参画機関(企業・高等教育機関 平成31年2月1日時点)と協力し、平成27年にJSTセンターオブイノベーション(COI)プログラムに採択された。この事業は10年後を見通した革新的な研究開発課題を特定し、革新的なイノベーションを産学連携で実現し続け実用化を目指すための「イノベーションプラットフォーム」を整備することを目的としている。有機ELや生体センサを軸に、地域に根ざし「生活イノベーション」の実現を目指すJST事業(～2021年)であり、2回連続で「S」評価を得ており、女性・若手活躍が期待されている。本ダイバーシティ事業は、平成29年度より事業連携をしてきた。

事業後半に入り、本事業はCOIとの連携を強化し、「有機エレクトロニクスを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画」という研究テーマを実践し、これまでの3機関の研究成果の社会実装と地域還元を加速している。今年度は、COIと共催し、8月に地域連携プラットフォーム会議の講演会、11月に3機関合同のシンポジウムを開催し、COI若手連携と共催で女性研究者・若手研究者の研究交流会を開催した。

COI連携において、本事業は「地域連携プラットフォーム会議」を担当しており、COI事務局や若手連携の協力し、健康で豊かな未来の生活創造をめざした地域との情報交流の場を提供し、米沢市健康長寿市民会議などの健康で豊かな地域づくりへ協力している。第1回「地域連携プラットフォーム」会議は、平成30年3月14日(水)に「女性や若者が活躍できる元気な地域づくりの推進について」をテーマに開催している。今年度は、第2回会議を次のとおり開催し、地域の健康関係の行政、市民36名に参加いただいた。非常に好評で、今後も交流を継続することになっている。



主催：山形大学COI(フロンティア有機システムイノベーション拠点)
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)

第2回地域連携プラットフォーム会議 ～小野川のまちづくり～

2019年8月28日(水) 15:00～17:00
山形大学米沢キャンパス11号館2階 未来ホール

講演
小野川のお湯の良さを生かしたまちづくりの展望
高澤 由美
山形大学大学院理工学研究科 助教

参加無料

研究報告
地域のヘルスツーリズム事業と連携したベットセンサの実証実験について
熊木 大介
山形大学大学院理工学研究科 准教授

問合せ・連絡先
山形大学男女共同参画推進室 米沢分室
TEL0238-26-3356
Email y-danjoyz@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

COI施設見学もあります!

図1 チラシ

山形大学COI 第2回プラットフォーム会議「小野川のまちづくり」



図2 会場の様子

日時 令和元年8月28日(水) 15時～17時

場所 山形大学米沢キャンパス11号館2階 未来ホール

講演 山形大学 助教 高澤 由美

「小野川のお湯の良さを生かしたまちづくりの展望」

研究報告 山形大学 准教授 熊木大介

「地域のヘルスツーリズム事業と連携した

ベッドセンサの実証実験について」

COI施設見学

②-2 | 大学コンソーシアムやまがた「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」

本事業の成果を県内15の高等教育機関に波及し、県内のダイバーシティを推進することを目的に、平成30年4月1日に大学コンソーシアムやまがた「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」を山形大学が中心となって設立し、本事業を公開し、交流を行っている。

今年度の活動内容は、ダイバーシティ推進ネットワーク会議を2回(5月24日、11月14日)開催した。また、管理職セミナー(7月5日)、シンポジウム(11月19日)を共催で開催し、公開事業をとおして交流を深めた。加盟機関を対象とする「男女共同参画推進状況調査」を継続して実施した。全国ダイバーシティネットワーク組織の情報も共有できるようになり、交流が充実してきている。

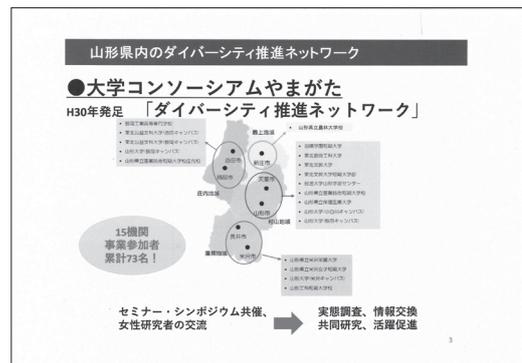


図3 ダイバーシティ推進ネットワーク会議

②-3 | 全国ダイバーシティネットワーク組織

文部科学省の「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」の新規事業である「全国ネットワーク中核機関（群）」が平成30年10月に採択され、11月に「全国ダイバーシティネットワーク組織」が設置された。代表幹事は大阪大学、副代表は東京農工大学であり、日本IBM（株）は協働機関、日本学術会議は協力機関として参画している。「全国ダイバーシティネットワーク組織」のもとで、8つの地域ブロック会議が置かれることになり、山形大学は東北ブロック会議の幹事大学に委嘱された（図1）。

この事業は、全国で女性研究者の研究環境整備や研究力向上に取り組む機関をつなぎ、将来的に自立して活動を行う全国ネットワークの構築を目指し、国内外の取組動向の調査やその経験、知見の全国的な普及・展開等の支援を図ることを目的としている。事業は6年間で、補助金は最初の3年間のみ支給される。地域ブロックについては、3～4大学の幹事大学を設置し、地域ブロック会議を年1回以上開催し、地域の特性に合わせた活動に取り組む。東北ブロック会議の代表幹事は東北大学で、幹事大学は山形大学と岩手大学である。東北地方におけるネットワークの強化に加え、全国的な情報共有の機会が増すことで、関係機関の活動が広く認知され、優れた女性研究者の獲得につながるなどの効果が期待される。また、全国ならびに地域の企業との情報交流の機会が増し、新たな企業との連携も期待できる。令和元年にウェブサイトOPENeDが開設され、本学の取組も掲載されている。

今年度はCOI連携やネットワークの面で躍進が顕著であり、南東北のネットワーク構築を進め、県内の「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」と全国ネットワーク組織との接続を図っていることは高く評価されている。

<令和元年度の活動>

- 6月3日（月）全国臨時幹事会（大阪）
- 7月5日（金）南東北会議（山大）
- 10月3日（木）東北ブロック幹事会
勉強会（東北大）
- 12月6日（金）幹事会・シンポジウム（東京）
- 2月25日（火）東北ブロック勉強会（東北大）



図1 全国ネットワーク

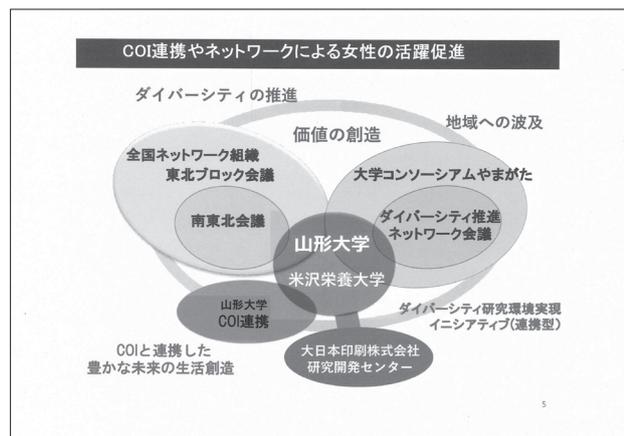


図2 ネットワークの関係

③ 意識改革

③-1 | 男女共同参画セミナー

～ダイバーシティが拓く山形の未来～

日時：令和元年7月5日（金）15：10～17：00

場所：山形大学小白川キャンパス法人本部第1会議室

<テレビ会議配信>

飯田キャンパス：看護学科棟第2会議室

米沢キャンパス：管理棟3階テレビ会議室

鶴岡キャンパス：農学部テレビ会議室

大日本印刷株式会社研究開発センター（柏）

参加者数：58名

【内容】

1 基調講演「ダイバーシティが組織・企業・大学を強くする」

講師：日高乃里子氏（帝人株式会社人財部）

ダイバーシティ（社員の多様性）自体が目的ではなく、多様な人材の適材適所により「経営上の成果」につなげることが目的であり、違いを生かし競争優位につなげる戦略をとること、多様な人材が結果を出すことについて、お話があった。また、「サクセッションプランの女性枠新設」「女性幹部候補育成プログラム」「家庭事情による退職者再雇用制度」「配偶者海外転勤同行休職制度」など、多数の優れた制度を実施し、近年女性管理職が大幅に増加したことや、外国籍社員の活躍推進ならびにLGBTに対する取組等についても、幅広く紹介いただいた。

参加者からは、「経営視点のダイバーシティのお話はとても興味深く、勉強になりました」「長期的かつリーダーシップを持った取り組みが重要であると学んだ」「ダイバーシティは企業の利益と少なからず関係していると知って意外でした」など、多数の感想が寄せられた。

2 講演「ダイバーシティ2.0 一歩先の競争戦略へ」

講師：木村拓也氏（経済産業政策局経済社会政策室・室長補佐）

ダイバーシティは、グローバルな人材獲得力の強化、リスク管理能力の向上、取締役会の監督機能の向上、イノベーション創出の促進の面で、企業価値の向上に効果があると考えられることについて、報告があった。

また、ダイバーシティ2.0とは、“多様な属性の違いを活かし、個々の人材の能力を最大限引き出すことにより、付加価値を生み出し続ける企業を目指し、全社的かつ継続的に進めていく経営上の取組”であり、その行動ガイドライン実践のためのアクションについてご紹介いただいた。

参加者からは「国の政策の方向性、日本の位置付けを知ることができました」「この危機感をもっとたくさんの方がシェアできると良いと思います」「諸外国と比較すると日本のダイバーシティにおける女性活躍の場が低いことを改めて認識しました」などの感想が寄せられた。

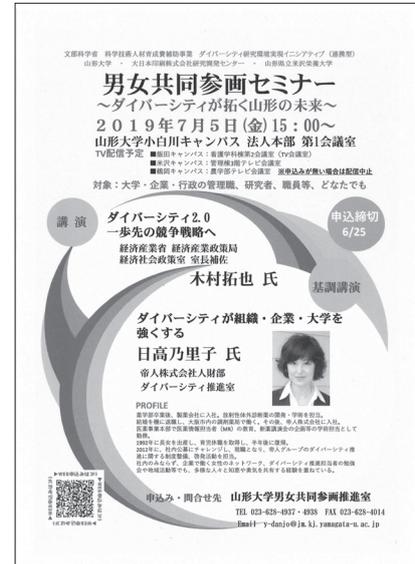


図1 チラシ



図2 講演する日高氏



図3 会場の様子

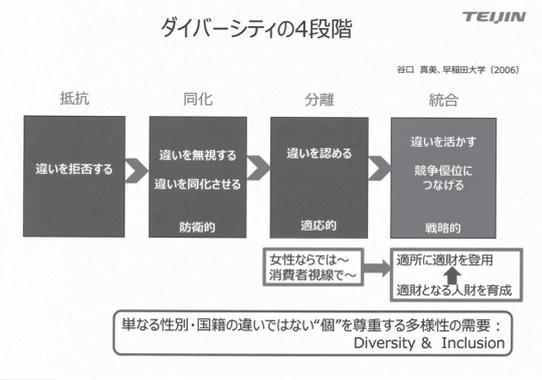
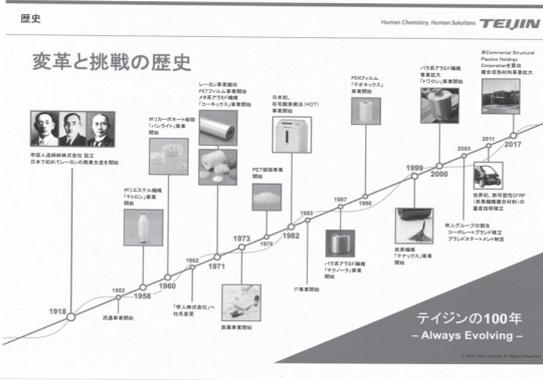
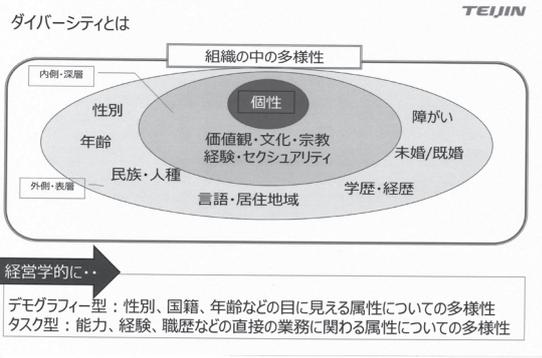
DAKE JANA I **TEIJIN**

男女共同参画セミナー ～ダイバーシティが拓く山形の未来～

ダイバーシティが組織・企業・大学を強くする

2019.7.5.

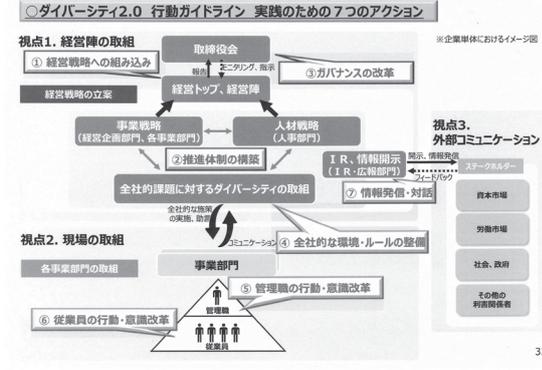
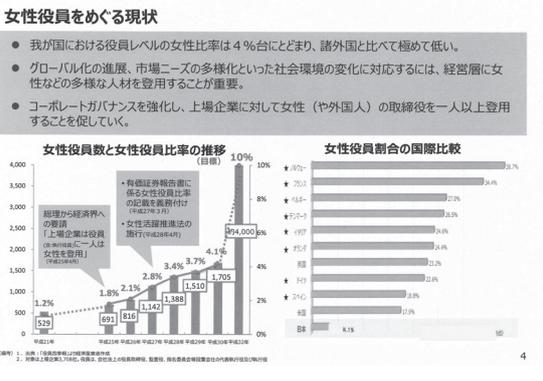
帝人株式会社 人財部
ダイバーシティ推進室
日高 乃里子



経済産業省

競争戦略としてのダイバーシティ推進

2019年7月5日
経済産業省
経済産業政策局 経済社会政策室



- 企業価値を実現するダイバーシティ2.0【定義】
- “多様な属性の違いを活かし、個々の人材の能力を最大限引き出すことにより、付加価値を生み出し続ける企業を目指し、全社的かつ継続的に進めていく経営上の取組”
- ① 中長期的・継続的な実施と、経営陣によるコミットメント
 - ② 組織経営上の様々な取組と連動した「全社的」な実行と「体制」の整備
 - ③ 企業の経営改革を促す外部ステークホルダーとの関わり（対話・開示等）
 - ④ 女性活躍の推進とともに、国籍・年齢・キャリア等、様々な多様性の確保

図5 木村氏の資料より

③-2 | 3 機関合同シンポジウム

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型) 3 機関合同シンポジウム 「豊かな健康長寿社会をめざして」

日 時：令和元年11月19日(火) 13:30~17:00

場 所：山形大学米沢キャンパス11号館2F未来ホール

<テレビ会議配信>

大日本印刷株式会社研究開発センター

参加者数：78名

市民、健康・食品関係の行政・企業などの一般

参加者42名、連携機関・COI関係者36名



図1 チラシ

【内容】

- 1 開会の挨拶 13:30~ 山形大学 理事・副学長 阿部宏慈
- 2 女性研究者共同研究報告 13:35~
「～女性にとって『快適で豊かな未来の生活』をデザインする～産学連携サービスデザイン・プロジェクト活動内容」 黒谷玲子(山形大学学術研究院 准教授)
- 3 講演 14:10~
「豊かな健康長寿社会の『食』～うま味の伝道師からの提案」
二宮くみ子氏(NPO法人うま味インフォメーションセンター 理事)
- 4 女性研究者共同研究報告 15:20~
「加齢・神経変性が味覚に及ぼす影響：味覚障害を呈する認知症を捉える」
伊関千書(山形大学学術研究院 講師)
「適切な嚥下調整食を提供するための運用ツールの開発」
三原法子(山形大学学術研究院 講師)

<休憩> 15:50~

- 5 「SDGs × COI若手・女性研究者交流会
～SDGsの観点からの研究交流～」

16:00~

原田知親

(山形大学学術研究院 助教)

- 6 閉会の挨拶 16:55~

米沢栄養大学 学長 鈴木道子



図2 会場の様子

【概要】

(1) 講演

山形大学、大日本印刷株式会社研究開発センター、山形県立米沢栄養大学の3機関は、平成27年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」の採択を受け、「有機エレクトロニクスを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画」をテーマに連携して取り組んでいる。6年間の事業期間の後半では、山形大学COI（フロンティア有機システムイノベーション拠点）と連携を強化し、未来の豊かな健康長寿社会の実現をめざしている。

シンポジウムでは、「うま味の伝道師」として世界的に活躍されている二宮くみ子様を講師にお迎えし、「うま味を知って健康になろう」というテーマでご講演いただいた。健康な食生活に関心をお持ちの市民、企業、行政の皆様はじめ、米沢栄養大学の学生、高校の家庭科の先生方など42名や関係者36名、合計78名の参加があり、アンケートの結果では97.6%の方から有意義だったという回答があった。

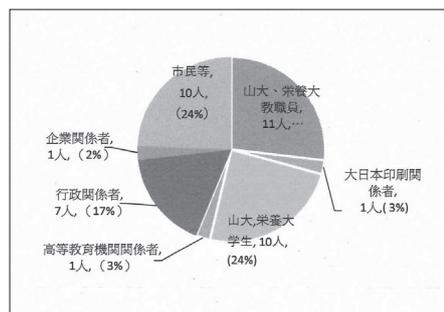


図3 参加者アンケート

二宮氏（上智大学大学院理工学部研究科卒業、広島大学大学院生物生産学部博士課程修了、農学博士）は、1982年に味の素株式会社に入社され、上席理事（グローバルコミュニケーション部）などを経て、現在はNPO法人うま味インフォメーションセンターの理事を務め、うま味研究の推進や普及活動を積極的に行っている。二宮氏が山形大学COIにも協力しておられることから、ご多忙の中、このたびのシンポジウムに御協力いただいた。講演では、旨味（うまい味）とは異なり、「うま味」とは味覚の一つで、その成分はグルタミン酸ナトリウム、イノシン酸ナトリウム、グアニル酸ナトリウムであること、和食は低カロリーで塩分控えめでも満足感が得られること、昆布水が口腔ケアにもつながることなどについて、科学的な根拠や具体例も含めて紹介いただき、健康と食について新たな視点で考える貴重な機会になった。

<参加者からか感想>

- ・育った環境や文化で、味のイメージが異なることが興味深かった。
- ・高齢者の唾液の分泌を促進し、減塩としても使うことができ、さらに美味しいという嬉しい効果ばかりだと思った。
- ・母乳にグルタミン酸が含まれていることや離乳前の赤ちゃんもうま味を喜ぶことが興味深かった。
- ・うま味について講義で扱うので、お聞かせいただいた内容を今後に生かしていきたい。
- ・専門家の二宮先生のお話をお聞きし、うま味を活用した給食を提供していきたいと感じた。
- ・漬け物に化学調味料をかけないなど、うま味の効能を捨てる食改運動に対して、啓蒙を図る必要があると思った。
- ・うま味という味覚には不思議な力があるのだと思った。これからもいろいろな方面に役立つようになるとうよい。
- ・うま味、ダシを料理のおいしさに限らず、健康などに応用できないか考えたい。

（2）女性研究者共同研究報告

講演を挟んで、ダイバーシティ事業の取組報告を行った。本事業は6年間の事業期間の5年目であることから、これまでの女性研究者の研究成果を山大COIと連携して社会実装し、地域の未来の豊かな生活創造へ貢献することをめざし、健康や食をテーマにした3つの研究を報告した。学内の異なる分野の女性研究者の報告に対して、参加者から、「女性の視点でとても面白い」、「早く社会実装してほしい」、「総合大学である山大のメリットをフルに活用し、複合的に健康の研究が進められていることを心強く感じた」などの感想が寄せられた。このシンポジウムを機に、山大COIと連携し、共同研究・社会実装に向けての取組が具体化しており、シンポジウムの目的を達成することができた。

<参加者からかの感想>

①「～女性にとって『快適で豊かな未来の生活』をデザインする～産学連携サービスデザイン・プロジェクト活動内容」（黒谷玲子）

- ・ワクワクするプロジェクトだと思う。主婦が少しでもラクができ、楽しく料理できたらすばらしい。
- ・有機エレクトロニクスと栄養の連携を初めて聞いてとても面白かった。
- ・未来展開型のアイデアを異分野交流による頭脳の集結で実現が可能になるかもしれない。
- ・興味深く、実用化にはコストや競合類似技術などの課題があるが、深化を期待する。
- ・二つのプロトタイプが実用化したら、健康や食事に興味を持ち、健康を見直すきっかけになるのでは。

②「加齢・神経変性が味覚に及ぼす影響：味覚障害を呈する認知症を捉える」（伊関千書）

- ・認知症やパーキンソン病の患者さんが味覚障害を呈することを初めて知って、勉強になった。
- ・味覚と認知症との関係について理解を深めることができた。
- ・嗅覚、味覚障害と認知症について、身近な問題として認識できた。
- ・医学界に味覚の学問を確立して欲しい。
- ・新たな研究テーマ、今後の展開に大変に興味がある。

③「適切な嚥下調整食を提供するための運用ツールの開発」（三原法子）

- ・食べ物カルテ、初めて聞いて、生命を保つには食が一番大事なのでハッとさせられた。
- ・「オーラルフレイル」について初めて知ることができ、ツール開発の現状について学ぶことができた。
- ・やわらかいものを食べ過ぎると、さらにフレイルが進行するということを知ることができた。
- ・総合大学である山大のメリットをフルに活用し、複合的に健康について研究が進められていることを心強く感じた。
- ・誤嚥にとらわれ過ぎず、今ある機能を維持できる給食を提供していく必要があると思った。

（3）COI若手連携共催「SDGs × COI若手・女性研究者交流会～SDGsの観点からの研究交流～」

COIの原田知親氏の協力により、COI若手研究者と女性研究者のポスター発表を初めて開催した。

（※詳細については、70頁「女性研究者研究成果発表会」を参照）

家庭でできるうま味活用レシピ

NPO法人うま味インフォメーションセンター



1

世界の伝統的うま味食材



発酵食品の中でも、発酵の過程でたんぱく質が分解されて遊離アミノ酸になるものは、うま味が豊富に含まれている。

大豆のたんぱく質が分解してできる発酵食品

味噌
醤油
納豆



魚の塩漬け+発酵

魚醤
塩辛



乳たんぱく質が発酵してできる発酵食品

チーズ



2

コラポだしは 昆布だしとフイヨンの1:1の合わせだし

昆布だし

材料 (だし約300ml分)
乾燥昆布 4cm×3cm (水の重量の2~5%)
水 350ml

だしの取り方

- ① 昆布は表面の汚れを取り、水350mlとなべに入れ、中火にかける。
(時間があるときは火にかける前に昆布を30分ほど水につけておくとよい。)
- ② 沸騰直前に昆布を取り出す。



フイヨン

肉や野菜を煮込んで作ったフイヨンまたは、市販のフイヨン、コンソメの素
キューブ1個(顆粒は小さじ2杯)を水300mlに溶かす。



コラポだし

昆布だしとフイヨンの1:1

3

図4 二宮氏の資料より

④ 研究とライフイベントとの両立支援

④-1 | 研究支援員制度

(1) 制度の目的

出産、育児、介護等のライフイベントにより十分な研究活動を行うことができない研究者に対し、研究とライフイベントを両立するための研究活動を支援する者（以下「研究支援員」という。）を配置し、研究力の向上を図ることを目的とする。

(2) 支援の対象者

連携機関に所属の常勤研究者又は非常勤研究者（週の勤務時間が30時間以上で雇用期間が2ヶ月を越える者をいう。）で、次の（1）～（3）に該当するライフイベント中の者を対象とする。ただし、男性研究者については、配偶者が大学・大学共同利用機関・独立行政法人又は企業に所属する研究者であるときに限る。

- (1) 妊娠又は小学6年生までの子育て
- (2) 市町村から要介護又は要支援の認定を受けている親族（別居の場合には、合理的理由のある者に限る。）の介護
- (3) その他、上記理由に準ずるライフイベント

(3) 支援する業務

支援する業務は、研究データの整理・研究者の実験補助等。

(4) 支援する期間及び時間

支援する期間は、4月1日から9月30日まで（前期）及び10月1日から翌年の3月31日まで（後期）の6ヶ月単位とする。支援する時間は、週15時間以内とする。

(5) 利用者状況（令和元年度前期・後期分）

<令和元年度の利用状況>

利 用 年 度	山形大学		米沢栄養大学
	令和元年度(前期)	令和元年度(後期)	令和元年度(前期)
利 用 者 数	21名	19名(継続13名)	2名
申 請 理 由	育児・介護	育児・介護	介護
支 援 員 配 置 時 間	2,024時間	1,740時間	689時間

④-2 | 夜間保育、休日保育、病児・病後児、学童保育利用料補助制度

(1) 制度の目的

仕事と育児の両立を図ることを目的とし、連携機関に所属する女性研究者等に対し、夜間保育、休日保育、病児・病後児保育、学童保育の利用に対する利用料金の補助を行う。補助金額は、子ども1人につき年間20,000円を限度とする。

(2) 支援の対象者

連携機関に雇用されている研究者（非常勤の研究者（週の勤務時間が30時間以上で雇用期間が2ヶ月を超える者をいう。）を含む。）で、小学校6年生までにある子どもを養育する者。男性研究者については、その配偶者が、大学、大学共同利用機関、独立行政法人、公設試験研究機関、公益社団・財団法人及び民間企業で雇用されている研究者に限る。

(3) 登録者・利用者の状況

利用者の殆どが平成28年度から継続利用者が多く、学童の利用が多くなってきている。

<登録者数> 令和2年1月末日時点

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
登録者（研究者）	4名	7名	9名	8名	8名
登録者（子ども）	9名	13名	16名	15名	14名

<目的別利用者数（子ども）> 令和2年1月末日時点

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
夜間保育	3名	4名	7名	3名	7名
休日保育	0名	0名	1名	2名	
病児・病後児	0名	2名	2名	3名	2名
学童保育	0名	2名	3名	6名	4名
合計	3名	8名	13名	14名	

④-3 | ライフイベントによる研究中断からの復帰支援制度

（1）制度の目的

女性研究者が妊娠・出産・育児・介護などのライフイベントによる研究中断後、円滑に研究現場に復帰できるよう、研究者を継続的に育成・支援し、研究環境の多様性を促進することを目的とする。

（2）支援の対象者

当該復帰した日の前日の3年前の日の属する年度の4月1日から遡って過去3年以内に、ライフイベントのため概ね3ヶ月以上やむを得ず研究活動を中断した女性研究者を対象とする。

（3）申請状況と審査結果

<申請件数>

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
申請数	2件	6件	3件	2件
採択数	2件	6件	3件※	2件

※平成30年度採択のうち、1件は平成30年9月より研究中断し、令和元年度に研究再開

（4）令和元年度復帰支援制度採択による研究

本年度採択された復帰支援制度に係る研究は以下の2件である。研究中断理由は、いずれも妊娠・出産・育児によるものであった。

1. 八木 真由（山形大学学術研究院（医学部腎泌尿器外科）・助教）

テーマ「mTOR阻害剤耐性腎癌での膜貫通型TNF α の免疫細胞への作用解明、治療戦略の開発」

2. 今田 志保（山形大学学術研究院（医学部看護学科）・助教）

テーマ「健康診断における発達障害児のためのプレパレーションツールの開発に向けた基礎的研究」

④-4 | 相談員制度

相談員制度は、ダイバーシティ研究環境の支援制度として位置づけられ、女性研究者の研究とライフバランスの両立を支援することを目的にした制度である。主に連携機関に所属している女性研究者・女子大学院生を対象にしているものの、ワークライフバランスに関する相談など連携機関に所属するものなら男性も含め誰でも利用できる。電話、メール、相談申込書により受付け、日時や場所については相談者と調整の上決定する。相談者の話を聞いたうえで、有益な情報や支援制度を案内する。また、疑問や要望など対応が必要な場合は関係機関へ検討を依頼し、問題の早期解決を目指し深刻化を防げるよう取り組んでいる。

本事業が認知され、支援制度の利用率が向上されるとともに利用者は減少しているものの、一定数のニーズがあり、研究者との信頼関係を構築できている。

④-5 | 託児サポーター制度

連携機関に所属する教職員等の仕事と育児の両立を支援する制度であり、一般財団法人女性労働協会の保育サービス講習カリキュラムに基づいた講義及び保育実習を修了した学生が「託児サポーター」として、保育士の指導の下で託児業務を行う。託児業務の監督は、委託先であるNPO法人スマイルハウス（米沢市）所属の保育士が行う。

(2) 託児の実施状況

令和元年度の実施状況は以下のとおり。山形大学米沢キャンパス（ゲストハウスYU談話室）およびスマイルハウスにて実施した。

実施日時		利用者数	備考
平成31年 4月 5日（金）	10:00~18:00	1名	5歳男児

⑤ 女性研究者の研究力向上

⑤-1 | サービスデザインプロジェクト

本事業が、サービスデザインプロジェクトをとおして研究力を向上し、COI連携を強化して女性研究者の活躍促進を図っていることが、「2019年度版 ものづくり白書」（経産省・厚労省・文科省 2019.6.11）に掲載された。

事業後半では、サービスデザインプロジェクトの研究成果やシーズの共同研究と社会実装をめざして取組を進めている。令和元年11月19日にCOI共催で3機関シンポジウムを開催し、黒谷玲子准教授（理

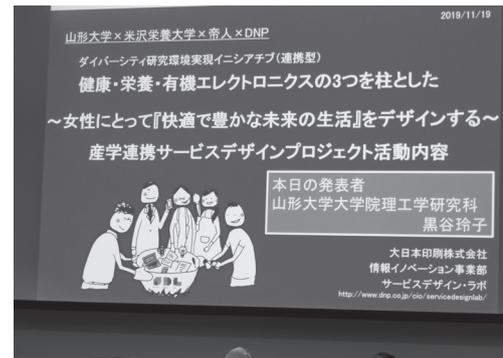


図1 シンポジウム報告

工学研究科) より、「~女性にとって『快適で豊かな未来の生活』をデザインする~産学連携サービスデザインプロジェクト活動内容」と題して報告発表を行い、新たに制作したポスターを展示し、研究交流を深めた。その後、社会実装に向けた検討会議を国際事業化研究センターで実施した。

コラム 「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」による大学の取組

—山形大学— 有機エレクトロニクスを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画
山形大学は、「有機エレクトロニクスを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画」をテーマに、3機関（山形大学、大日本印刷（株）研究開発センター、山形県立米沢栄養大学）が協働で女性研究者のワーク・ライフ・バランスを図る支援体制を整え、女性研究者の参画を促し、研究力を強化する取組を行っている（図1）。
特に、新たな思考と方法（サービスデザイン）と、オープンイノベーションを用いたサービスデザインプロジェクトは、「女性にとって快適で豊かな未来の生活」の実現をテーマとした研究力向上の取組として高い評価を受けている（図2）。
また、山形大学 COI（フロンティア有機システムイノベーション拠点）と連携し（図3）、3機関の強みである「健康」「栄養」「有機エレクトロニクス」を活かし、これまで女性研究者や生活者の視点が入りこみやすかった工学の「生活」にかかわる研究・開発にイノベーションを起こすことを目指している。

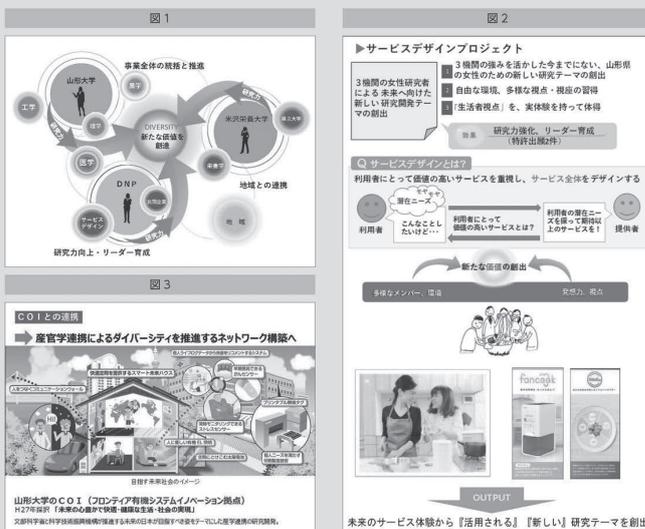


図2 ものづくり白書

⑤-2 | 女性代表共同研究費支援制度

(1) 制度の目的

女性代表共同研究費支援制度は、連携機関に雇用されている女性研究者が研究代表者となり、研究代表者が所属する機関以外の連携機関に所属する研究者等と共に行う研究を支援するものである。

(2) 申請状況と審査結果

今年度は合計5件の共同研究の申請があった。これらの審査を「ダイバーシティ共同研究支援審査会」（審査員は連携機関の事業実施責任者及び山形大学男女共同参画推進室チーフ・コーディネーターの4名で構成）が、提出された申請書に基づき、研究の社会貢献度、有用性、研究計画及び支出計画について審議を行った。

その結果5件（内訳：山形大学5件）が採択された。

(3) 令和元年度に採択された女性代表共同研究

表1 令和元年度女性代表共同研究採択一覧

研究代表者	1	2	3	4	5
	三原 法子	伊関 千書	黒谷 玲子	渡辺 理絵	吉田 麗娜
所 属	山形大学・講師	山形大学・講師	山形大学・准教授	山形大学・准教授	山形大学・プロジェクト研究員
テーマ	適正な嚥下調整食提供のためのモバイル食品物性評価ツールの開発	加齢・神経変性が味覚に及ぼす影響：味覚障害を呈する認知症を捉える	新規生理活性物質SCGB3A2の食物アレルギー改善薬としての検証	高齢者を対象として買い物環境と食生活・栄養摂取状況と関係について	有機/無機ナノ多層膜の溶液プロセスによるフィルムデバイス用防止層の開発
研究期間	平成28年6月1日 ～ 令和2年3月31日	平成29年5月1日 ～ 令和2年3月31日	令和元年5月1日 ～ 令和2年3月31日	令和元年6月1日 ～ 令和2年3月31日	令和元年5月1日 ～ 令和2年3月31日
共同研究者 1	江口 智美 米沢栄養大学・講師	大野 浩平 大日本印刷株式会社研究開発センター・部長	山田 英明 米沢栄養大学・教授	金光 秀子 米沢栄養大学・教授	沖本 直子 大日本印刷株式会社研究開発センター
共同研究者 2	鈴木 拓史 山形大学・准教授	山下かおり 大日本印刷株式会社研究開発センター・課長	山口 光枝 米沢栄養大学・准教授		
共同研究者 3	西岡 昭博 山形大学大学院・教授				
共同研究者 4	香田 智則 山形大学大学院・准教授				
共同研究者 5	村澤 剛 山形大学大学院・准教授				

⑤-3 | 英語論文の書き方・英語プレゼンテーションセミナー

研究者にとって国際学会での発表や英語論文の執筆は必須能力であることから、女性研究者の研究力向上を目的として、英語論文の書き方及び英語による効果的なアカデミックプレゼンテーション方法について学ぶ英語の書き方・英語プレゼンテーションセミナーを開催した。

日時：令和元年6月6日(木) 13:30~16:30

場所：山形大学小白川キャンパス 法人本部第1会議室

<テレビ会議配信>

飯田キャンパス：医学部第2会議室

米沢キャンパス：講義棟3階会議室

鶴岡キャンパス：農学部テレビ会議室

参加者数：89名

講師：野口ジュディー津多江氏(神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学部 名誉教授)

【内容】

<1校時>13:30~15:00

「英語論文の書き方」

<2校時>15:10~16:30

「英語による効果的なアカデミックプレゼンテーション方法」

参加者からは、「ただ論文を書くだけでなく、誰にどのような内容を伝えるかを明確にした上でアプローチすることが必要だと学びました」「現在、Abstractを作成しているので、非常に勉強になった。単語の選び方や話の流れなど、もっと早くにセミナーを聞いたかった」など、多数の感想が寄せられた。

文部科学省 科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究推進実現イニシアティブ(連携型)
山形大学・大日本印刷株式会社研究開発センター・山形県立米沢農業大学

対象
研究者、教職員
ポストドクター
学生等 (性別不問)

英語論文の書き方
英語プレゼンテーション
セミナー

2019年6月6日(木) 13:30~
山形大学小白川キャンパス 法人本部 第1会議室

TV配信
(予定)
米沢キャンパス：講義棟3階会議室
飯田キャンパス：医学部第2会議室
鶴岡キャンパス：農学部テレビ会議室

講師
野口ジュディー津多江氏
(神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学部 名誉教授)

PROFILE
ハソイ大学(化学専攻)卒業、テンブル大学大学院
修士課程修了(外国語教育)、バーミンガム大学博士
課程修了、博士(応用言語学)、武蔵川女子大学家学
部教授(英語)を経て、2017年3月まで神戸学院大学
グローバル・コミュニケーション学部、現在は名誉
教授、ESP (English for specific purpose) の研究、
ESP (English for specific purpose) の研究、ESP教育を
専門とする。主な著書に「Judy先生の英語科学論文の
書き方」書籍2冊、「Judy先生の成功する英米英語
プレゼンテーションCD付き」(以上共著：講談社)、
「理系英語のライティング」(理系英語のプレゼン
テーション) (以上共著：アルファ) など多数。

申込締切
2019年5/27

プログラム
使用言語：日本語
1校時 13:30~15:00
「英語論文の書き方」
2校時 15:10~16:30
「英語による効果的な
アカデミックプレゼ
ンテーション方法」

申込み・問合せ先
山形大学男女共同参画推進室 米沢分室
TEL 0238-26-3356・3359 FAX 0238-26-3398
Email y-dan.joyz@ja.kj.yamagata-u.ac.jp

図1 チラシ



図2 講演する野口氏



図3 会場の様子

⑤-4 | 外部資金獲得セミナー

日 時：令和元年9月26日（木）10：30～12：00

場 所：山形県立米沢栄養大学 D301大講義室

参加者数：31名

講 師：佐藤嘉倫 氏

（東北大学大学院文学研究科 教授）

【目的】

女性研究者をはじめとする大学等の研究者の外部資金獲得を促進し、研究に取り組む意識の啓発と研究力向上を図る。

【内容】

今年度で5年目となる外部資金獲得セミナーは、昨年度に引続き、本事業の取組みを地域に波及させるために、「大学コンソーシアムやまがた」に加盟する県内の高等教育機関に公開し、本学を含め6大学から31名の参加があった。本セミナーは過去4年間、理科系の講師から講演いただいたが、県内高等教育機関への公開に伴い、昨年度は文科系の教員の参加者が増えたこと、またアンケートでも文科系の講師の講演をお聴きしたいとの要望があったことから、東北大学大学院文学研究科教授 佐藤嘉倫 氏を講師に招き、お話しいただいた。

講師の佐藤氏は、現在、日本学術振興会学術システム研究センターの主任研究員を務められており、審査員の選考や審査・評価結果の検証等に関わられたご経験をもとに、科学研究費の審査方法の詳細や変更点、採択に向けた心構えと戦略、不採択の際のセーフティネット等についてお話しいただいた。特に、採択に向けた戦略に関して、ご自身が採択を受けた際に提出した研究計画書を記載例として示し、戦略的に研究計画書を記載するための考え方とその方法について、分かりやすく具体的に説明いただいた。

参加者からは、「実際の研究計画書を見せていただき、イメージが掴めた」、「審査システムに関わっている視点から、大変参考になる教示をいただいた」、「最新情報のほかに重複応募可能なメニュー等、科研費獲得率向上のためのアイデアを知ることができた」、「民間助成金の公募に応募予定だが、教授いただいたポイントに沿って申請書を作成したい」等の感想があり、本セミナーは、参加者にとって科学研究費をはじめとする外部資金の獲得に資する最良の機会となった。

外部科学研究費 科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ・研究環境実現イニシアティブ (連携型)
山形大学 ・ 大日本印刷株式会社研究開発センター ・ 山形県立米沢栄養大学

外部資金獲得セミナー

～科学研究費の獲得に向けて～

2019年9月26日 (木) 10:30~12:00

講師 **佐藤 嘉倫 氏**
東北大学大学院文学研究科・教授

講師profile
東北大学大学院社会学研究科単位取得退学。博士(文学)。横浜国立大学准教授。東北大学文学部助教授。山形県立米沢栄養大学社会学部・社会学部社会学部客員研究員等を歴任。2002年より現職に至る。現在、日本学術振興会学術システム研究センターの主任研究員として、科研費等の審査システム・採択業務に参画している。

場所 **山形県立米沢栄養大学**
D301大講義室 (3F)

連携機関及び「大学コンソーシアムやまがた」の加盟機関に所属する研究者であれば、どなたでもご参加いただけます。

山形大学・大日本印刷(株)研究開発センター
に所属の方は、山形大学男女共同参画推進室米沢分室
(0238-26-3356) お問い合わせください。

お問合せ・申込み先はコチラ▼
山形県公立大学法人 山形県立米沢栄養大学
TEL 0238-93-2932 / FAX 0238-22-7333
E-mail: hirume.masakazu@yone.ac.jp

図1 チラシ



図2 会場の様子

⑤-5 | 自己啓発合宿

自己啓発合宿の概要と講師の紹介

この自己啓発合宿は、連携機関に所属する女性研究者の研究開発能力、マネジメント能力などを育成し、自己の啓発を推進することを目的としてスタートした。2年間で計4回のプログラムを継続受講することで、主体的にキャリアビジョンをデザインするスキル及び、組織のリーダーとして必要なスキルの育成をはかる。講師には、大日本印刷株式会社が2012年よりスタートさせたメンター育成プログラム（現在は、ダイバーシティ推進者育成プログラムとして継続）でご指導ご協力いただいている、ライフデザインズ・オフィス代表、小西ひとみ氏を迎え、育成方針からアドバイスいただいている。本合宿はグループワークを中心とした実践形式で進められ、第1回「キャリアデザイン概論&自己分析」、第2回「プレゼンテーション」、第3回「チームビルディング」、第4回（最終回）「キャリアプランニング・行動計画／修了式」で構成されている。最終回では、2年間の集大成として、自ら立てたキャリアビジョンをメンバー全員の前で決意表明し、新しいキャリアを一歩踏み出すことで修了となる。5年目にあたる本年度は、第3期のスタートになる。「ダイバーシティの拡大」として、女性だけではなく大日本印刷の男性研究者3名を受講生として選出した。



<講師 プロフィール概要>

小西 ひとみ (<http://www.konishihitomi.com>)

ライフデザインズ・オフィス代表

ファシリテーター/キャリアカウンセラー（CDA）

認定心理士

国家資格キャリアコンサルタント養成講座の認定講師

国家資格キャリアコンサルタント

日本心理学会会員

第3期 第1回自己啓発合宿

2019年9月2日（月）、3日（火）の2日間、千葉県柏市にある31VENTURES KOILサロン（柏の葉オープンイノベーションラボ）にて、第3期第1回（山形大学2名、大日本印刷8名）自己啓発合宿を開催した。

第3期第1回では、「キャリアデザイン概論&自己分析」をテーマに実施した。大日本印刷の参加者は、各本部より推薦された次世代リーダー候補の8名（女性5名、男性3名）、山形大学より、2名（女性）が参加した。



図1 グループワークの様子



図 2 講義の様子



図 3 第3期受講生

1期生、2期生と同様に、グループワークを通じて、自己を振り返り、自己肯定感を高め、主体的にキャリアビジョンを構築していくプロセスを実践した。

グループワークでは、男性を1人ずつメンバーに入れた3グループで実施した。議題に対する受け止め方や考え方の違いについて、個人だけでなく男性と女性の間でも気づきがあり、これまでとは違った、創発的なディスカッションが繰り広げられた。今回も駆け足ながらも最後は『未来の自分』について決意表明を行った。これから2年間のプログラムを通じてブラッシュアップしていく。

事後アンケートでは、「自己効力感を高める必要性と、具体的なビジョンを考えることの大切さを改めて感じ、自分に欠けていることを再認識した」、「自分が内心承認しているか否か、明確な方向性を持っているか否かで、ひとつひとつの小さな選択や行動が決まっていき、結果大きな差として現れてくるという事を学んだ」、「キャリアについて、普段から自分なりに考えていたつもりの内容であっても、誰かに言葉にして説明する／質問されることで改めて考えさせられ、整理し直すことができ、新しい気づき／発見があった点が非常に良かった」等の前向きな意見が多く寄せられた。

1日目 (2019.09.02)

時刻	講義内容
10:00	オリエンテーション
	講義&演習
12:00	ランチミーティング
13:00	講義&演習&シェアリング
	質問会議
	講義&演習&シェアリング
18:00	終了

2日目 (2019.09.03)

時刻	講義内容
10:00	前日のふりかえり
	シェアリング
	質問会議
	決意表明&シェアリング
11:45	ランチミーティング
12:45	講義&演習&シェアリング
	質問会議
	講義&演習&シェアリング
18:00	終了

表1 第1回スケジュール

第3期 第2回自己啓発合宿（延期）

第3期第2回は、2020年2月27日（木）、28日（金）の2日間、東京都新宿区にあるDNP大日本印刷市谷研修会館にて、リーダーとして伝える力、共有する力を高める重要なスキルとして、「プレゼンテーション」のテーマで開催予定であったが、新型コロナウイルスの拡大を受け、延期とした。

なお、新たな日程については、情勢を踏まえ再調整する。

1日目（2020.02.27 予定）

時刻	講義内容
10:00	オリエンテーション
	講義&演習
12:00	ランチミーティング
13:00	質問会議
	講義&演習&シェアリング
	プレゼンテーション演習
	質問会議
17:00	終了

2日目（2020.02.28 予定）

時刻	講義内容
10:00	前日のふりかえり
	プレゼンテーション演習
	講義
12:00	ランチミーティング
13:30	プレゼンテーション演習
	質問会議
	プレゼンテーション演習
	講義
16:30	終了

表2 第2回スケジュール（予定）

⑤-6 | 女性研究者研究成果発表会

日 時：令和元年11月19日（火）16：00～16：55

場 所：山形大学米沢キャンパス工学部11号館 2階ラウンジ

【目的】

主に学生（大学生、大学院生）等を対象にした女性研究者の研究成果発表会を開催し、女性研究者の裾野の拡大を図る。

【内容】

山形大学COIと連携して実施した3機関合同シンポジウム「豊かな健康長寿社会を目指して」（一般42名、関係者36名、合計78名が参加）に引き続き、「COI若手研究者・女性研究者成果発表会および交流会」を初めて開催し、研究者によるポスター発表が行われた。この企画は、米沢栄養大学で例年開催している「女性研究者成果発表会」を兼ねており、ポスター発表者は11名（うち、女性研究者は10名、4名の女性大学院生を含む）で、幅広い分野における交流の機会となった。

発表会では、参加者が研究者の発表に熱心に耳を傾ける姿や積極的に質問を行っている様子が見られたほか、発表者間の情報交換も活発に行われた。参加した米沢栄養大学の学生からは、「食事や健康には栄養学だけではなく、医学や科学等の様々な学問の力が必要であることを認識した」、「一つの目標に向かって、それぞれの専門性を生かして様々な大学や企業が連携した研究を進め、より良いものをつくりあげていこうとする姿勢に感動した」等の感想があった。

<発表内容>

発表者	所属	タイトル
金光 秀子	山形県立米沢栄養大学 健康栄養学部・健康栄養学科	就労支援施設利用者の食生活に関する実態調査
江口 智美	山形県立米沢栄養大学 健康栄養学部・健康栄養学科	酸化チタン板が揚げ物の食味と物性に及ぼす影響
丸田 妙華	山形大学 工学部バイオ化学工学科	新規生理活性物質SCGB3A2の食物アレルギー改善薬としての検証
金 歩美	山形大学大学院 理工学研究科バイオ化学工学専攻	肺におけるSCGB3A2とビタミンCの相互作用の検討
佐藤 優衣	山形大学大学院 理工学研究科バイオ化学工学専攻	SCGB3A2の生理活性部位の決定
土屋みなみ	山形大学大学院 理工学研究科バイオ化学工学専攻	SDGs×NPO法人AYINA（アイーナ）×研究
黒谷 玲子	山形大学大学院 理工学研究科バイオ化学工学専攻	「～女性にとって『快適で豊かな未来の生活』をデザインする～産学連携サービスデザイン・プロジェクトの研究成果」
渡辺 理絵 阿部 大樹	山形大学農学部	高齢者の買い物環境と食生活への影響—酒田市を事例として—
伊関 千書	山形大学医学部第三内科	味覚・嗅覚障害を呈した辺縁系脳炎2症例の検討
吉田 麗娜	山形大学 有機エレクトロニクスイノベーションセンター	"Photochemical Solution Processing of High Performance Thin Film Encapsulation for Organic Light-Emitting Diodes"
原田 知親	山形大学大学院理工学研究科	人や物の様々な行動や環境を計測するための低電力駆動データ収集システムプラットフォーム



図1 ポスター発表の様子



図2 会場の様子

⑥ 女性研究者の裾野拡大

⑥-1 | JOIN交流会～企業研究者との交流～

日 時：令和元年11月25日（月）16：00～17：15

場 所：山形大学工学部内 百周年記念会館 セミナールーム

参加者数：8名

【内容】

女性研究者の裾野の拡大を図ることを目的とし、女性大学生・大学院生等を対象とした女性研究者との交流会を実施した。今年度は、11月25日～27日の交換留学（企業から大学へ）の期間に合わせて本学を訪問した、大日本印刷株式会社研究開発センターに所属する女性研究者3名との交流会を山形大学工学部で開催した。

交流会では、学生の日頃の研究の悩み、進路の相談など様々なテーマについて話し合われた。自然科学系の学部・大学院に進学し、ふだん話しにくいことを身近なロールモデルである先生たちと話し合い共有することで学生たちは進学や将来のキャリアやプライベートでの不安を払拭し、企業の研究環境や就職について様々な話を聞いたり意見交換をする機会となった。



文部科学省 科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）
山形大学・大日本印刷株式会社研究開発センター・山形県立米沢栄養大学 主催

山形大学女性大学院生ネットワーク
ジョイン
JOIN交流会
～企業研究者との交流～
2019年11月25日（月）
16：00～17：15
山形大学工学部内 百周年記念会館 セミナールーム

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）事業活動の一環として、大日本印刷株式会社の研究者らを迎えての交流会を開催します。どなたでも参加できますので、ぜひお越し下さい。

対象：山大JOINのメンバー、連携機関に所属する研究者、大学院生、学部生（JOINに登録していない方の参加OK、性別不問）

JOINとは・・・平成30年度に発足した山形大学女性大学院生ネットワーク（通称：山大JOIN）です。

JOINのメンバーに登録する方法
必要事項を記載のうえ、Emailより申込みください。
＜必要事項＞氏名、所属、学部、Eメールアドレス

JOIN交流会のお申込みは、電話またはメールにて下記へお願いします。（申込締切：11/18）

問合せ・申込み先 山形大学男女共同参画推進室
TEL023-628-4937 Email : y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

図1 JOIN交流会のチラシ



図2 交流会の様子

参加した山大JOINのメンバーや、米沢栄養大学の女性大学院生からは、「人生でもお仕事でも大先輩のお話を聞いて大変勉強になりました」「話しやすく、聞きたいことが聞いて有意義でした。時間があっという間でした」などの感想が寄せられた。

⑥-2 | 博士学位を目指す学生のためのキャリア・就職活動セミナー

日 時：令和元年11月21日（木）13：00～16：00
会 場：山形大学米沢キャンパス 附属図書館 3階ラーニングcommons
主 催：山形大学フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院
共 催：山形大学、大日本印刷株式会社研究開発センター、山形県立米沢栄養大学
参加者数：20名

【目的】

主に女性ポストドクターや女性大学院生・学部生等を対象に、大学だけに限らず企業の研究職についても知ることにより、高い研究能力を生かせる道を探る機会とし、女性ポストドクター、女性大学院生の育成と、博士課程進学への関心を高めることを目的とする。

昨年に引き続き、山形大学フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院が主催する「キャリア・就活セミナー」に共催して開催する。

【内容】

第一部 13：00～13：30 キャリアセミナー

講師 基盤教育機構 准教授 松坂暢浩 氏

第二部 13：40～15：40 パネルディスカッション

(コーディネーター)

基盤教育機構 准教授 松坂暢浩 氏

(パネリスト)

平成29年度修了 菅野 亮 氏

平成30年度修了 高橋寛貴 氏

山田典靖 氏

フレックス大学院3期生 傅 茂鈞 氏

(コメンテーター)

基盤教育機構 准教授 山本美奈子 氏

15:40～16:00 質疑応答

前半のセミナーでは、松坂准教授より、一般的な就職活動の流れや活動フェーズごとの活動量、採用面接の基本的な質問内容やその選考基準、さらには就職先を見つける方法について講義が行われた。後半では、卒業生や現役院生をパネリストに迎え、ディスカッションを行った。各パネリストから、自身の体験に基づいた内容の濃いアドバイスをいただき、参加者は非常に参考になったと思われる。男女共同参画の観点での発言時間も設定され、山本准教授から女性研究者の就職なども含めてアドバイスがあった。参加した院生は7名（うち女性1名）と少なかったが、熱気溢れる有意義なセミナーとなり、感謝申し上げたい。

「博士」学位を目指す
キャリア・就活セミナー
山大による山大学生及び県内学生のためのセミナー

【キャリアセミナー】
講師：松坂暢浩准教授
(山形大学学士課程基盤教育機構)

【パネルディスカッション】
コーディネーター：松坂 暢浩准教授
コメンテーター：山本美奈子准教授
(山形大学学士課程基盤教育機構)

スリーエムジャパン：菅野 亮 氏 (H29修了)
基盤教育機構：高橋 寛貴 氏 (H30修了)
埼玉大学理工学研究所：山田 典靖 氏 (H30修了)
有機材料システム研究所：傅 茂鈞 さん (D3)

日 時：令和元年11月21日(木)
13:00～13:30 キャリアセミナー
13:40～15:40 パネルディスカッション
場 所：米沢キャンパス附属図書館3階ラーニングcommons
対 象：大学院生・大学院進学を考える学部生・ポストク

事前申込 フレックス大学院HP <http://flex.yz.yamagata-u.ac.jp/>
事前締切 令和元年11月15日(金)
同 合 せ フレックス大学院事務局(1号館102)
内線：3B34 / email:frontoffice@yz.yamagata-u.ac.jp

※ 他地区へTV会議システムにより配信いたします

主催：博士課程5年一貫プログラムフレックス大学院
共催：文部科学省ダイバーシティ研究推進実現イニシアチブ事業

図1 チラシ



図2 セミナー会場の様子

⑥-3 | 交換留学プログラム

●プログラムの目的

本プログラムの目的は、連携機関に所属する異なる研究環境・背景を有する女性研究者、および未来の研究者となりうる学生との交流により、ワーク・ライフ・バランスを保ち、そして成長し続けていくための環境づくりを促進することにある。

【大学生が留学生として企業へ】

2019年9月11日（水）～13日（金）の2泊3日、山形大学より5名（前期博士課程4名、学部生1名）、米沢栄養大学より学部生1名、大学コンソーシアムやまがたに参画する東北公益文科大学大学院より修士1名の大学生が、留学生として大日本印刷株式会社の研究開発センター（千葉県柏市）、つくば総合開発センター（茨城県つくば市）、市谷加賀町ビル（東京都新宿区）を訪問した。大学生が企業に留学する目的は、企業に籍をおく女性研究者の研究に対する姿勢と、周囲の環境とを直接見聞きすることにより、研究者としての未来の自分の姿を具体的にイメージしてもらうことで、博士課程進学者、女性研究者の増加へと繋げることにある。

◆スケジュール

9月11日（水）@ 柏		9月12日（木）@ つくば		9月13日（金）@ 市ヶ谷	
09:35	東京駅 着	09:30	ホテルロビー集合 徒歩にて、研究開発センターへ	08:30	ホテルチェックアウト（ロビー集合）
10:43	柏の葉キャンパス駅 着	10:00	社バスにて、 つくば総合開発センターへ	09:01	柏の葉キャンパス駅 発
11:10	研究開発センター 着	11:00	つくば総合開発センター 着	09:59	市ヶ谷駅 着
11:15	ガイダンス・自己紹介	11:10	DNPにおける ダイバーシティ活動紹介	10:30	大日本印刷 / 市谷加賀町ビル1F
11:20	ワークショップ（休憩）	11:50	昼食（休憩）	10:45	1F 来客ロビー・展示品説明
12:30		12:00		11:20	休憩
12:30	研究者とのランチミーティング（休憩）	13:30	つくば総合開発センター見学 （技術開発センター&研究開発センター）	11:30	昼食（休憩）
13:45		16:30	つくば総合開発センター 出発 （社バスにて、研究学園駅へ）	12:30	DNPファミリテイ / 食堂・厨房見学
13:45	交流会&施設見学	17:07	研究学園駅 発	14:30	会社説明 & 管理栄養士交流会
17:30		17:53	柏の葉キャンパス駅 着（終了）	14:40	質疑応答&交換留学まとめ
				15:30	市谷加賀町ビル 出発
				16:00	市ヶ谷駅 発
				17:00	東京駅 発

表1 スケジュール

●強制連想法を用いたワークショップ

新しいアイデアを創出するための手法のひとつである強制連想法を用いたワークショップを開催した。強制連想法とは、一見関連性のない2つのものを強制的に関連付けながら自由な発想でアイデアを創出していく発想法である。テーマを「フードロスをなくすためのサービス・製品アイデアを提案する」とし、10個もの優れたアイデアが創出された。

●研究開発センター（千葉県柏市）施設見学

柏研究施設は、本社の研究開発センターだけでなく、事業部の製品開発部門も集積した大日本印

刷の「ものづくり系の研究開発」の拠点である。施設見学では、包装事業部の食品包装の製品開発エリア、ライフサイエンス分野の研究開発エリアを中心に実施した。食品包装の製品開発エリアでは、大型の製造装置を使った製品開発が行われている現場を見学した。身近な製品ということもあり関心が高く多くの質問があった。ライフサイエンス分野の研究開発エリアでは、大日本印刷の印刷技術を応用した新しい取組みとして、1つの細胞からオルガノイド（ミニ腸）を製造するプロセス開発の現場を見学した。参加者は、印刷技術からミニ腸の飛躍に驚きつつも、大日本印刷が大学の研究室に近い基礎研究テーマから既に事業化している身近な製品の開発まで、幅広く手掛けていることを理解した。

●大日本印刷におけるダイバーシティ活動紹介と山形大学卒業生との交流会

初めに、大日本印刷におけるダイバーシティの取り組みについて説明した。1986年の男女雇用機会均等法の施行より、第1フェーズとして人事労務制度の見直しを実施し、女性社員の採用促進と職域の拡大を図った。2003年以降の次フェーズでは女性社員の定着を支援するメンタリングなどを通じ、フェア&ケアを中心に公平で公正な機会の提供、処遇と個々の事情への配慮・サポートを実施、現在では、さらに拡大し、男女問わず、多様な働き方に対応した制度を運営している。その内容を踏まえ、山形大学を卒業した男性管理職1名、女性研究職3名を囲んで、それぞれの経歴、実情について質疑応答を交え交流会を実施した。学生時代にどのように考えて研究していたのか、就職してからの研究とのギャップや、子育てしながら研究開発を進めていく上での不安などについて、意見交換を行った。大学時代と社会人となってからの出来事を結び付けながらの体験談を、女性研究者、男性研究者双方から実際に話を聞くことが出来た経験はたいへん貴重だったとの感想が聞かれた。

●技術開発センター、および研究開発センター見学

つくば研究施設では普段は見ることのできない大型印刷設備の見学、省エネルギーへの取り組みなどについての説明を行った。また、材料系の実験室での実際の合成作業の見学や分析機器の見学を実施した。参加者にとっては大学で使用している実験設備や分析機器に比べ、スケールも大きく実際の製品開発を推進していくのに必要な工程の一端を知るきっかけになったようである。また、大学の研究室ごとの環境と全く異なる大部屋で研究者同士が交流できるスペースも紹介し、オープンイノベーションの環境について体感してもらった。

●大日本印刷加賀町ビル社員食堂見学、および企業管理栄養士との交流会

大日本印刷のグループ会社であるDNPファシリティサービスが運営する食堂見学、および同社の管理栄養士との交流会を実施した。単に「食」を提供するだけではなく、管理栄養士によるポスター展示や様々なイベント、そして遠隔診療サービス『ホスピタリンク』などの積極的な社員の健康サポート体制について紹介した。

●留学を終えて（アンケートまとめ）

- ・女性研究者に対する支援がとても充実していた。交流会にて2度の育児休業と帯同休業を経て5年後に仕事に復帰したと聞いたときにはたいへん驚いた。
- ・就職活動を目前にし、企業の方と多くの交流や対話をしたと思っていたので、かなりの充実感を感じた。技術・研究職にはまだ女性が少ないイメージをもっていたのでワーク・ライフ・バランスをうまくとれるか不安だったが、うまく成し遂げている方が多く、将来見習えるとよいと思った。
- ・社会人となってからの時間の使い方、予定の立て方、そして人との関わり方がどのように変化したのか、また、大学生の間にどのようなことをしておけばよいのかなど、現在の自分にもこれからの自分にも必要なことを教えていただいた。



図1 留学生

【企業女性研究者が留学生として大学へ】

2019年11月25日（月）～27日（水）の2泊3日、大日本印刷株式会社研究開発センター（以下大日本印刷）のメンターを含む女性研究者4名が留学生として、山形大学（米沢キャンパス、飯田キャンパス、小白川キャンパス）、山形大学医学部附属病院を訪問した。

◆スケジュール

11月25日（月）@ 米沢		11月26日（火）@ 米沢～山形		11月27日（水）@ 山形	
09:23	米沢駅 着（米沢キャンパスへ）	09:30	実証工房 スマート未来ハウス 見学・交流会	08:55	飯田キャンパス 着
10:00	米沢キャンパス内見学	12:00	研究者とのランチミーティング（休憩）	09:00	保育所・医学部附属病院 東日本重粒子センター 見学
12:00	研究者とのランチミーティング（休憩）	13:00	情報・エレクトロニクス学科 原田研究室 訪問	11:30	小白川キャンパスへ移動・昼食
13:00	高分子・有機材料工学科 時任研究室 訪問	14:30	機械システム工学科 西山研究室 訪問	13:15	理学部 SCITAセンター 見学
14:30	科学・バイオ工学科 増原研究室 訪問	16:15	米沢キャンパス 出発	15:10	小白川キャンパス 出発
16:00	山形大学JOINとの交流会	18:21	山形駅 着（終了）	16:07	山形駅 発
17:15	終了				

表2 スケジュール

●山形大学 時任静士研究室（高分子・有機材料工学科）訪問

山形大学出席者

久禮得男（産学連携教授）

有機材料を用いた様々なデバイスをご紹介いただいた。既に商品化に至っているものや、それに向けた試作品、デモ機に触れることで、最先端技術のすばらしさをより実感することができた。体験させていただいた圧力センサは、座布団やマットレスの下に設置しても情報を得ることができ、その感度の高さに驚いた。また、輸送中の情報を収集することのできる品質管理タグなど、今後、どのような形で商品化されていくのか非常に楽しみであった。

●山形大学 増原陽人研究室訪問（化学・バイオ工学科）

山形大学出席者

増原陽人（大学院理工学研究科・准教授）

鈴木亨奈（物質化学工学科・学部4年）

有機ナノ結晶を用いた様々な高機能材料の研究成果と、それを支える数多くの装置を紹介いただいた。高性能な製品には不可欠な材料の開発とその信頼性の試験までを実施しており、実用化を見据えた研究が進められている。

●山形大学 原田知親研究室訪問（情報・エレクトロニクス学科）

山形大学出席者

原田知親（大学院理工学研究科・助教）

限られた電力で長期間駆動する極低電圧集積回路とその実証実験の様子を紹介いただいた。『何に重きを置くか』を常に考えながら研究を進めていくその姿勢は、企業の研究者として学ぶべきものが多く、必要とされる仕様を多角的に考え、研究開発のリソースを配分することの大切さを学んだ。

●山形大学 西山宏昭研究室訪問（機械システム工学科）

山形大学出席者

西山宏昭（大学院理工学研究科・准教授）

フェムト秒レーザーを用いた超微細加工技術を紹介いただいた。レーザーの照射により粒子が凝集する現象はたいへん興味深いものであり、提供いただいた論文により知見を深めることができた。また、開発されている生体内にて駆動するソフトアクチュエータが、未来の医療に大きく貢献することを期待する。

●実証工房：スマート未来ハウス見学、および女性研究者交流会

山形大学出席者

佐野健志（有機エレクトロニクスイノベーションセンター・教授）

高澤由美（大学院理工学研究科・助教）

壁一杯に広がる大型ディスプレイや有機EL照明、フィルム型スピーカ、ヘルスチェック機能を有するデバイスなどの最新の技術が詰まった未来の生活を体験することができた。

見学の後に開催された山形大学の女性研究者との交流会では、「未来の家」をテーマに意見を交換したが、自分とは異なる視点・考え方を聞くことはとても興味深く、時間に制限があったことが残念に思われた。



図2 スマート未来ハウス見学の様子

●山形大学 飯田キャンパス 医学部附属病院訪問

医学部附属保育所すくすく訪問

大学病院内という特殊な環境下の中に置かれながらも、子どもの安全を守りながら手をかける時間を作り出し、保護者と保育所との信頼関係を高めていく様々な取り組み、工夫に関心させられた。

医学部附属病院見学

2016年6月に初めて訪問させていただいた際に、課題として伺っていた「複雑な院内の案内」が見事に解決されており、また、病院内であることを感じさせることのない明るくポップな空間へとかわっていた。来院者への案内がタブレットではなく、院内地図がデザインされたクリアファイルに、次へ向かう先への順路（矢印）が印刷された用紙を挟むことで行われており、全ての年齢層の方に配慮した優れた方法であると感銘を受けた。



図3 ダブルアーム型抗がん剤混合調整ロボット体験の様子

東日本重粒子線治療センター見学

山形大学出席者

岩井岳夫（医学部・教授）

世界最先端の重粒子線治療装置を見学した。今年8月からの治療開始に向け、世界最先端の重粒子治療装置が組み立てられるその最中であった。装置の裏側や階下の重粒子加速装置までを見ることができたのは非常に貴重な体験であった。

●山形大学 理学部SCITAセンター、および博物館見学

山形大学出席者

栗山恭直（理学部・教授）

当センターは、理科学習の普及活動を促進するための本学独自のプロジェクトである「やまがた未来科学プロジェクトに基づいて、科学的思考能力を備えた将来の山形あるいは日本を支える人材を育成する目的で設置された。体験させていただいた実験教室では、科学の楽しさを改めて実感し、子どもの頃から身近に楽しく科学に触れる機会があることを、とても羨ましく感じた。

●留学を終えて（アンケートより）

大学の学部を横断し様々な研究とその成果をご紹介いただくことはとても貴重な体験となった。また、研究室だけではなく大学施設を見学させていただくことで、今までにない気づきを得ることができた。

8 評価

8-1 | 外部評価委員会名簿・委員会内容

設置の経緯

山形大学、大日本印刷株式会社研究開発センター及び山形県立米沢栄養大学が共同で実施するダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）事業に関し、外部の有識者から意見をいただき事業をより円滑を実施するために、平成27年11月25日ダイバーシティ事業の代表機関である山形大学にダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）事業に関する外部評価委員会が設置された。

評価委員は、次のとおり（敬称略）。

平成31年4月1日現在

推薦機関	氏名	現職等
山形大学	小館香椎子	日本女子大学名誉教授・電気通信大学特任教授
大日本印刷株式会社 研究開発センター	木村 文雄	近畿大学建築学部 教授
山形県立米沢栄養大学	大泉 享子	山形県労働委員会委員

第1回目の委員会は、平成28年2月24日に山形大学事務局棟第一会議室（山形市小白川キャンパス）において、第2回目は、平成29年2月14日に会場を山形大学男女共同参画推進室米沢分室が所在する山形大学米沢キャンパス（米沢市）に移し、それぞれ開催された。第3回目は、平成30年1月29日（月）に前年と同様に山形大学工学部百周年記念会館セミナールームで開催され、文部科学省による中間評価ヒアリングの報告を行い、これまでの成果を確認し、後半の事業をさらに進展させるためにご意見を賜った。また、時限到来時（原則3年）において内容等を見直すことと規定されている、以下の規程の一部改正措置について報告を行った。

- ・山形大学男女共同参画推進に関する規程
- ・山形大学男女共同参画推進米沢分室規程
- ・山形大学ダイバーシティ連携推進会議規程
- ・ダイバーシティ事業に関する外部評価委員会規程

この結果、外部評価委員会は令和2年度末まで3年間延長して継続されることになり、外部評価委員は「各機関が推薦する有識者2名」から「各機関が推薦する有識者1～2名」に改正され、令和元年度から合計3名の有識者に委嘱することになった。

外部評価委員会の概要

平成30年度以降も連携体制を維持し、基本的な事業を継続しているが、自首財源による運営になったことから一部見直しを行った。その中で、ダイバーシティ連携推進会議（持ち回り）を平成30年10月23日に開催し、外部評価委員会を持ち回り会議にすることについて協議し、承認された。

1 通知

令和元年12月20日付けで、昨年度と同様に、令和元年度ダイバーシティ事業に関する外部評価委員会（持ち回り）の開催について下記のとおり通知し、外部評価委員に評価書の提出を依頼した。

(1) 日程

- | | |
|--------|------------------------|
| 12月20日 | 外部評価委員に対して文書による事業報告の提出 |
| 1月10日 | 各委員より評価書を受領 |
| 1月31日 | 質問・意見などに対する回答書を提出 |
| 2月上旬迄 | 外部評価書を作成し、活動報告書に掲載 |

(2) 外部評価委員会への事業報告

- ①令和元年度事業の進捗状況について
- ②期間内の最終年度の事業について

(3) 添付資料

- ・資料1_令和元年度事業報告
- ・資料2_最終年度の事業について
- ・資料3_R1-1ダイ連携（国）山形大学：進捗報告書
- ・資料4_研究者別論文リスト（H27-30）
- ・資料5_女性研究者外部資金獲得表（H27-30）

2 評価書

令和2年1月に小舘香椎子委員、木村文雄委員、大泉享子委員の3名から評価書を作成いただき、受領した。その後、質問・意見などに対する各機関の回答書を委員へ送付するとともに、連携機関で内容を共有した。このたびの外部評価委員会では、来年度で事業期間が終了することから、最終年度の事業と今後の継続性に関して幅広い視点からご質問・ご意見をいただいた。委員の皆様から、本事業の目標達成のための的確なご指摘とご助言を賜ったことに感謝申し上げたい。外部評価委員会の内容を次年度の取組に誠実に反映し、目標達成を目指していく決意である。

3 外部評価委員の主なご指導

小舘香椎子 委員

事業4年目を迎えて、3機関の連携体制も定着し、支援制度が構築されたことにより、女性研究者の裾野野拡大や女性を含む共同研究の促進も自主財源により推進されたことは高く評価できる。特に、ネットワークによるダイバーシティの推進を目指した大学コンソーシアムやまがたを発足し、

幹事大学として南東北のネットワークを構築したことは注目に値し、事業の推進・波及に向けて今後が期待される。一方、女性研究者の就業比率が依然目標値を下回り対応策の成果が見えないので、引き続き大学全体での具体的な取り組みは必須であると思われる。

自主財源で迎える最終年度では、次の点がどうなっているか教えていただきたい。

- ・学内におけるダイバーシティに対する意識改革の推進事例、および男性教員・研究者の参加度
- ・女性を代表とする共同研究（研究目的・内容・論文などの成果）の報告書作成
- ・事業終了後の支援継続体制の確立のために検討されている具体案と体制
- ・機関における女性研究者の在職・採用・離職の比率（職位別）

特に、地方大学での離職については、家族の同居が難しいなどが原因にあるので、職位・年齢別の離職者数と離職の理由は女性研究者数の増加およびリーダー育成には重要な視点である。

- ・3機関で実施した人的交流、および人事交流の実績、および検討中の事柄

全体的に、これまでの事業実績をもとに、3機関の連携体制を維持し、さらに新たな成果につながるネットワークによる推進を行うなど、自己資金による地道、かつ強力な事業展開は高く評価できる。

しかし、一方で、「有機エレクトロニクスを活用した未来の生活創造」という事業タイトルへの理解は現状の成果と結びつきにくいと思われる。この点を払拭する検討は必要であり、研究成果のさらなる展開も意味があると思われる。

さらに、山形大学の女性研究者の就業比率の向上に向け、種々の対応策が実施されてきているが、成果が見えてきていないことに関しては、大学首脳部の強いリーダーシップが不可欠と思われる。そのためにも、参加3機関のそれぞれにおける女性研究者と男性研究者による本事業の評価・課題の把握（アンケート調査を含む）を試みて、構成員がダイバーシティ事業の重要性と意義を自覚したうえで、継続に向けての新たな事業展開を検討することも必要だと思われる。

木村文雄 委員

事業について、丁寧に報告されており高く評価できる。他機関へ異動または進学した教員が15名に上ってしまった理由は何かについては、詳しく教えてほしい。

最終年度の取組については、女性教員にとって山形大学の魅力とは何かということを、あらためて考え、整理して頂きたい。すなわち他大学に比べて、いきいきと研究や教育に専念できる環境はあるのか？という自問自答から、何が充足して何が不足しているのか、課題は何か、を客観的に分析し対策することで自ずと女性教員は増加し、継続性に繋がると思う。（企業でも同様である。）

また、女性研究者から幾つかの魅力的な研究、アイデアやテーマが出てきたことは素晴らしいと思う。しかし社会実装できなければ意味がないので、取捨選択をして、実現可能性の高いものを選び、CIOや他機関とも連携しながら、地域への実装化に向けて具体的な活動を実施して欲しい。女性視点の素晴らしさや重要性は言うまでもないので、より積極的に推進して頂きたい。

大泉享子 委員

事業報告中の離職者と在職比率の表については見直しが必要であり、退職した女性教員がより発展性のある職に就いていることは山形大学の女性研究者育成の成果として十分評価できることであり、プロジェクトの成果として記述すべきと思う。

研究支援の環境づくりの進捗も伺え、例えば、保育制度の構築などは女性研究者のみならず研究者全体や地域へも広がっているなどプロジェクトの成果が表れている。連携推進のための会議や交流シンポジウムの開催などの環境整備も以前より増となっており、事業の成果につながると思う。

最終年度 of 取組については、女性研究者の増や上位職登用者の増など、確実にプロジェクトの成果が表れており、また、連携の推進により、研究の幅が広がり、女性研究者の持続的な活躍が見込まれるなど、在職比率の目標達成はなかなかではあるが、事業としての成果が十分見えてきている。

山形大学COIとの連携により、研究成果の社会への実装が明確になった感があり、今後の研究の発展を大いに期待し、また、地域への還元の実現につながることを期待している。

健康長寿をテーマとした研究は地域への還元としては今後も期待されるものと考えられ、各機関の連携により、幅広い分野の女性研究者の参画や研究交流を進め、研究成果の地域への還元を目指して欲しい。そのためにも、共同研究におけるコーディネーターの役割の充実と研究成果の発信を継続して頂きたい。

IV. 資料編



① | ダイバーシティ事業3機関の進捗状況

平成27年度文部科学省科学技術人材育成費補助金「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業(連携型)」に本学、大日本印刷株式会社研究開発センター及び山形県立米沢栄養大学における事業が採択された。以下に、連携3機関の進捗状況を示す。

1 山形大学の事業進捗状況報告

令和2年1月27日

1. 目的

山形大学の特色である有機エレクトロニクス研究及び実証ハウス研究におけるこれまでの実績を活かし、共同実施機関と協働して女性研究者が参画する共同研究を推進するとともに、研究スキルアップ支援、リーダーシップ育成、裾野拡大の取組を進め、自然科学系分野を中心に女性研究者の採用と上位職階の女性教員の積極的な登用を実現する。

2. 本年度の事業の項目及び内容

○取組期間における女性研究者在職者数、在職比率、採用比率

	在職者 (助教以下)	在職者数 (講師・准教授以上)	在職者数計	在職比率	採用比率
平成26年5月1日現在	73	68	141	14.4%	20.8% ⁽¹⁾
平成27年4月申請書	71	68	139	15.6%	20.0% ⁽²⁾
平成28年3月31日現在	70	72	142	15.6%	29.6%
平成29年3月31日現在	69	75	144	16.3%	20.0%
平成30年3月31日現在	72	75	147	16.5%	27.6%
平成31年3月31日現在	73	73	146	16.5%	25.4%
令和元年10月現在	73	74	147	16.5%	19.5%
令和2年3月31日現在	103	85	188	19.0%	20.5%
令和3年3月31日現在	109	89	198	20.0%	21.3%

(平成27年～令和元年は実績値、令和2年以降は申請時目標値)

※採用比率 (1)平成25年度中の教員(任期付き含む)採用比率16.1%に研究員(常勤・非常勤の有給研究員)の比率を加味した予測比率

(2)平成27年度末の教員・研究員を合わせた採用比率の目標数値

平成 31 年度の事業計画	進捗状況
(1) ダイバーシティ研究環境整備を図るための体制及び取組内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 3機関によるダイバーシティ連携推進会議及び大学内の男女共同参画推進委員会等の会議を適切に開催し、理解と合意を図って連携事業を効果的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3機関によるダイバーシティ連携推進会議を開催し、年間事業計画や今後3年間の方針について合意し(5/15)、その後、会議(6/5、7/5、8/28、9/10、1/31)を合計6回開催した。 ・ 第1回男女共同参画推進室ミーティング(4/19)、第1回男女共同参画推進委員会(5/16)を開催し、学内におけるダイバーシティ事業の進捗状況の報告と2019年度取組の年間計画について検討および確認し、密接な連携関係を維持することができた。 <p>※山形大学男女共同参画推進室・事務室員1名、サブコーディネーター1名が着任した(4/1)。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 山形大学フロンティア有機システムイノベーション拠点(山形大学COI)と連携し、未来の生活創造に3機関の女性研究者が参画し、成果を地域に波及する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山形大学COIと連携し、3機関合同シンポジウム「豊かな健康長寿社会を目指して」を実施した。NPO法人うま味インフォメーションセンター理事の二宮くみ子氏を講師に迎え、サービスデザインや女性代表共同研究の成果の社会実装に向けて研究発表を行った。一般参加者42名、関係者36名、合計78名が参加した(11/19)。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 山形県内の高等教育機関が加盟する「大学コンソーシアムやまがた」ダイバーシティ推進ネットワーク会議を通じ、本事業の成果の波及を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学コンソーシアムやまがた「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」開催(5/22)。大学コンソーシアムやまがた「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」第2回男女共同参画推進状況アンケートの実施(5/24)。大学コンソーシアムやまがたの第2回ダイバーシティ推進ネットワーク会議を開催し、「男女共同参画推進状況調査」結果を報告して意見交換を行なった(11/14)。昨年度発足した大学コンソーシアムやまがた「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」は2年目を迎えて活動が充実しており、本事業の中の公開事業への参加を促し、本事業の成果の普及を進めることができた。

<ul style="list-style-type: none"> ・全国ダイバーシティネットワーク組織における東北ブロック幹事大学として、南東北の大学に本事業の成果を波及する活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国ダイバーシティネットワーク組織・臨時幹事会（大阪）への出席(6/3)。福島大学を訪問し、全国ダイバーシティネットワーク組織東北ブロック会議について説明(6/18)。東北ブロック「南東北会議」を山形大学にて開催(7/5)。東北ブロック会議の幹事会・特別セミナー（仙台）へ出席(10/3)。全国ダイバーシティネットワーク組織会議幹事会（東京）・第2回シンポジウム「女性研究者が輝く近未来を創る」に山形大から2名が参加(12/6)。 ・その他、全国ダイバーシティネットワークプラットフォームウェブサイトへの参考事例の掲載（8/28）、同じく取組事例集の掲載（9/10）を行い、県内の大学に広く参加を呼びかけるなど、東北ブロック幹事大学として、南東北の大学のネットワークの構築に取組み、県内外のダイバーシティ推進を牽引することができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・開催事業毎に意見をまとめて評価を行うと共に、有識者による外部評価を受け、PDCAサイクルによる適切な事業運営を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の外部評価委員会の指摘を受け、平成31年度事業計画を策定した。年度末には文書による評価を受け、メールによる持ち回りの委員会を開催する。
(2) 女性研究者の研究力向上を図るための取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・「共創型サービスデザインハンドブック」等を活用してサービスデザインの普及を教員に対して図る。 ・サービスデザインプロジェクト（「共創ワークショップ」）が創出したサービスアイデアと研究シーズを活用し、山形大学COIと連携し、社会実装を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・山形大学COIと連携して開催した、3機関合同シンポジウム「豊かな健康長寿社会を目指して」にて、山形大の黒谷玲子准教授がサービスデザイン・プロジェクトのサービスデザインの手法と女性代表共同研究の成果の社会実装に向けて研究発表を行った(11/19)。 ・さらに山形大学国際事業化センターの協力を得て、女性研究者の研究成果の社会実装化に向けて、関係者による第1回打ち合わせ会議を開催し、具体的方針について検討を開始した(1/21)。
<ul style="list-style-type: none"> ・「英語論文の書き方・英語プレゼンテーションセミナー」の主催、「外部資金獲得セミナー」の 	<ul style="list-style-type: none"> ・小白川キャンパスにおいて「英語論文の書き方・英語プレゼンテーションセミナー」を实

<p>共催を通じ、女性研究者の研究力向上を図る。</p>	<p>施し、連携機関教職員、学生など約 90 名が参加した (6/6)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米沢栄養大学主催の外部資金獲得セミナーに連携機関の教職員、大学コンソーシアムやまがた加盟 4 機関の教職員、合計 31 名が参加が参加した (9/26)。
<ul style="list-style-type: none"> ・女性研究者のリーダー育成に向けて、女性研究者シーズ集を活用し、新規の共同研究の成立や幅広い分野の女性研究者の活躍を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・山形大 COI の有機エレクトロニクス関係の共同研究に、女性研究者が参画し、研究を進めている。 ・男女共同参画フェスタ (山形大学小白川キャンパス、米沢キャンパス) にて、「ダイバーシティ事業」「女性研究者の研究紹介」のパネルを展示した (6/25-7/8、7/9-17)。
<p>(3) 女性研究者の上位職への登用に向けた取組</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・女性研究者が代表となる有用な共同研究への研究費支援を継続する。 ・自己啓発合宿を共同開催し、女性研究者の研究開発・研究室経営能力等の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・30 年度女性代表共同研究において学内審査・ダイバーシティ審査会を通過した 5 件が採択され、支援を開始した (6/5)。 ・DNP 主催による自己啓発合宿を共同開催し、3 期生として山形大から女性研究者 2 名が参加した (9/2-3)。 ・3 機関合同シンポジウムと同時に「COI 若手研究者・女性研究者成果発表会および交流会」を開催し、山形大学 9 名 (内、女性は 8 名) がポスター発表を行った。また、女性研究者成果発表会を兼ねて、米沢栄養大学から女性研究者 2 名がポスター発表を行い、学生 7 名が参加した (11/19)。
<p>(4) 連携機関等の研究者への支援を通じた好事例の展開</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・育児期の女性研究者を支援するため、夜間保育や休日保育、病児・病後児保育、学童保育の利用補助制度の活用を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間、休日、病児・病後児保育、学童保育制度登録者は女性研究者 8 名、子ども 14 名、利用者は女性研究者 8 名、子ども 13 名を支援している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ライフイベントと研究の両立を支援するための研究支援員制度やライフイベントによる研究中断からの復帰支援制度の周知を図り活用を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期 16 名、後期 19 名 (うち男性研究者 9 名) の累計 35 名研究者に研究支援員を配置し、ライフイベントと研究の両立を支援した。 ・ライフイベントによる研究中断復帰への研究

	費支援について学内公募を行い、学内審査後ダイバーシティ審査会にて採択された2件の支援を行っている。
・ 託児サポーター制度を利用した一時預かりを実施し、女性研究者等のワーク・ライフ・バランスの改善を図る。	・ 米沢キャンパスにて託児一時預かりを実施した(4/5)。なお、小白川キャンパスでもセンター試験の実施に伴い保育所を利用した一時預かりを実施した(1/18-19)。
(5) 意識啓発や組織改革等を図るための取組	
・ 「第二次山形大学男女共同参画基本計画」策定(2020年度)に向け、女性研究者が活躍するための研究環境整備や意識改革に関する事項を盛り込む検討を行なう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山形大学では、男女共同参画基本計画が今年度末で終了となることを受けて、今年度は男女共同参画推進委員会の中に第2次基本計画策定WGを設置し、第1回～第4回会議を実施し(6/3、7/31、8/23、10/25)、ダイバーシティ研究環境整備を含めて検討を行った。さらに、策定WGにおける検討および全部局からの意見を募り、3回の男女共同参画推進委員会の開催(5/16、9/3、11/29)を経て、基本計画(第2次)を策定した。 ・ これに伴い、女性教員、上位職および管理職割合について、より高い目標が設定され、次の目標達成に向けた取組の推進が可能となった。また、第2次基本計画ではダイバーシティの推進やアンコンシャスバイアスに対する配慮についても明記された。
・ 7月に「大学コンソーシアムやまがた」のダイバーシティ推進ネットワーク会議と共催し、ダイバーシティ・マネジメントの必要性について理解を深める管理職セミナーを開催し、本事業の成果を他機関に波及させる。	・ ダイバーシティ2.0を推進する経済産業政策局 経済社会政策室の木村拓也氏と、ダイバーシティ推進に関する制度整備、啓発活動を担当してこられた帝人株式会社人材部の日高乃里子氏を迎え、令和元年度「管理職セミナー～ダイバーシティが拓く山形の未来～」を3機関で主催した。連携機関の教職員、大学コンソーシアムやまがた加盟機関の教職員など44名、企業6社、行政機関からの参加者8名、合計58名が参加した(7/5)。
・ 山形の健康で豊かな未来の生活創造を目指し、シンポジウムを3機関と山形大学COIで共同開	・ COI(フロンティア有機システムイノベーション拠点)と連携することによる「有機エレクトロニクス」の推進を図る。

<p>催し、研究シーズや研究成果の発表を行い、地域に波及させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 山形大学 COI と連携し、同組織の女性、若手研究者の活躍促進を図る。 	<p>トロニクスを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画」の実践により、3 機関の研究成果を地域に還元し、女性研究者が持続的に活躍するためのプラットフォーム構築を進め、イノベーションの創出を目指した連携を深めることができた。</p> <p>3 機関合同シンポジウムと同時に、女性研究者による研究成果発表およびポスター発表会および研究交流会を実施した（11/19）。連携する COI の若手研究者による研究発表も加わり、社会実装に向けて情報および意見交換を行う機会を提供した。</p>
<p>(6) 女子学生・女性研究者向けキャリアパス支援の取組</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 大日本印刷研究開発センターによる交換留学プログラムに、女子学生や女性研究者の参加を促し、企業の女性研究者との交流の機会を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> DNP 主催による交換留学(大学から DNP)へ、山形大から5名(ほか引率1名)、栄養大から1名、東北公益大から1名の女子学生が参加し、DNP の研究者と交流を行った(9/11-13)。 DNP の企画による交換留学(DNP から大学)を共同開催し、交換留学(DNP から大学)を実施し、女性研究者4名(DNP)が山形大学を訪問。その中で、山形大学スマート未来ハウスにて「女性研究者交流会」を実施し、女性研究者3名(DNP)、女性教員3名(山形大)が参加(11/25-27)。
<ul style="list-style-type: none"> 山形大学女性大学院生ネットワークを活用し、キャリア形成を支援し、裾野拡大を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 山形大学女性大学院生ネットワーク(略称「山大 JOIN」)メンバーを6月に新たに募集し、今年度は11名の女性大学院生が登録して活動を行っている。7月には、米沢キャンパスにて工学部 JOIN の学生同士の交流会を開催し、各自の研究内容の紹介や今後の活動予定、活動に対する要望などを話し合った(7/19)。 管理職セミナーにおいて小白川キャンパスに在籍する山大 JOIN の学生が運営スタッフとして参画した(7/5)。 男女共同参画シンポジウムにおいて山大 JOIN の学生が運営スタッフとして参画した

	<p>(11/19)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「女性研究者研究成果発表会」において、山大 JOIN1 名、栄養大学生・大学院生 2 名を含む 9 名の女性研究者がポスター発表を行い、お互いの研究について話し合う機会を設けた(11/19)。 ・DNP 主催による「交換留学（DNP→大学）」では、工学部 JOIN の学生・栄養大学院生と DNP の女性研究者らによる交流会を開催し、キャリア形成や研究活動等について情報交換を行なった（11/25）。
--	--

3. 経費執行状況（12月末時点）

（単位：円）

費目	執行状況（4～12月支出）	年度末の執行見込
設備備品費	0	0
人件費	18,214,014	27,600,000
事業実施費（保育支援含）	28,203,473	41,770,000
総計	46,417,487	69,370,000

2 大日本印刷研究開発センターの事業進捗状況報告

令和元年 1 月 27 日

1. 目的

山形大学の特色である有機エレクトロニクス研究、及び実証ハウス研究におけるこれまでの実績を活かし、共同実施機関と協働して女性研究者が参画する共同研究を推進するとともに、研究スキルアップ支援、リーダーシップ育成、裾野拡大の取組を進め、自然科学系分野を中心に女性研究者の採用と上位職階の女性教員の積極的な登用を実現する。

本事業における共同研究のテーマ創出手段として、生活者が感じる情緒的な価値体験を重視するサービスデザインの思考を取り入れたワークショップを女性ファシリテートのもと開催し、女性研究者・教員・学生が共に、有機エレクトロニクス・健康・栄養を3つの柱とした女性の考える快適で豊かな未来生活実現に向け新たな研究開発を促進し、新しい研究分野への進出につなげると共に、女性研究者の増加と上位職の登用を実現する。

2. 本年度の事業の項目及び内容

○取組期間における女性研究者在職者数、在職比率、採用比率

	在職者数 (助教以下)	在職者数 (講師・准教授以上)	在職者数計	在職比率	採用比率
平成 27 年 5 月 1 日 (実績)	42	23	65	18.4%	20.0%
平成 28 年 3 月 31 日 (実績)	42	29	71	19.6%	36.4%
平成 29 年 3 月 31 日 (実績)	34	30	64	19.8%	0.0%
平成 30 年 3 月 31 日 (実績)	43	38	81	17.3%	11.1%
平成 31 年 3 月 31 日 (実績)	30	32	62	16.4%	25.0%
令和元年 10 月 1 日 (実績)	27	37	64	20.4%	22.2%
令和 2 年 3 月 31 日現在	39	42	81	19.4%	20.0%
令和 3 年 3 月 31 日現在	38	45	83	19.5%	20.0%

* 平成 27 年～令和元年 10 月 1 日は実績値、令和 2 年以降は申請時目標値

* 社内別組織との間の人事異動による研究者異動あり（男性研究者を含む在職者母数変動あり）

* 採用比率は 4 月以降に大日本印刷へ入社した新規採用者のみとし、人事異動による社内別組織からの異動者（新規採用者を除く）を含まない。

(1) ダイバーシティ研究環境整備のための体制および取組

計画：連携機関と共に初年度設置した『ダイバーシティ連携推進会議』により、各種支援制度を共同実施する。

進捗：『ダイバーシティ連携推進会議（5/15）』にて年間事業計画に合意し、各種支援制度を共同実施した。

計画：初年度設置した『女性研究者支援プロジェクトチーム』において、ダイバーシティ研究環境実現に向けた各種取組の進捗管理を行う。

進捗：『女性研究者支援プロジェクトチーム』において、3機関によるダイバーシティ連携推進会議（5/15）にて合意された年間事業計画に従い、1月までに計画された研究開発センター主催による全ての取組を実施した。

また、大日本印刷株式会社研究開発センター中西センター長の異動に伴い、令和元年10月より、古川センター長が新たに着任した(10/1)。

(2) 研究者の研究力向上を図るための取組

計画：生活者が感じる情緒的な体験価値を重視するサービスデザイン思考を取り入れた『共創ワークショップ』により得られた新しい研究テーマの種を具体的な研究へ繋げるための支援活動を実施する。

進捗：初年度整備した研究開発センター女性活躍支援室内にて、新しい研究テーマの公開（通年）、および研究開発センター研究者に対する公報活動（通年）を実施。

計画：『共創ワークショップ』にて習得したサービスデザイン思考に基づく様々な手法を普及させ、研究者の研究開発の促進と創造力の向上を図る。

進捗：会得した手法をワークショップ参加者が所属する部門内へ展開、ワークショップを開催した（2019年1月～2020年9月、計27回）。また、交換留学生を対象としたミニワークショップを開催した（9/13）。

(3) 研究者の上位職への登用に向けた取組

計画：研究者のリーダーシップ、コミュニケーション能力、マネジメント能力の育成を目的とした、外部講師を招いての自己啓発合宿を主催する。

進捗：研究者の能力育成を目的とし、今年度新たに第3期をスタートさせ、研究者のキャリア形成をテーマとする第1回自己啓発合宿（9/2、9/3）に11名の研究者が参加した。コミュニケーションスキル・プレゼンテーションスキルをテーマとする第2回自己啓発合宿（2/27、2/28）を実施する予定であったが、新型コロナウイルスの拡大を受け、延期とした。なお、新たな日程については情勢を踏まえ再調整する。

(4) 研究者を対象とした意識啓発のための活動

計画：第1期、第2期自己啓発合宿修了者を対象とし、リーダーとしての成長を促すことを目的としたミーティングを開催する。

進捗：第1期、第2期自己啓発合宿修了者を対象とするランチミーティングを実施（8/22）し、7名の女性研究者が参加した。

(5) 学生・研究者向けキャリアパス支援のための取組

計画：連携機関の学生・研究者を対象とした交換留学プログラムを主催する。

進捗：連携機関の女子学生（7名）を対象とした交換留学（大学から研究開発センター）を9/11～13に主催し、大日本印刷の研究者、上位職者と交流した。また、研究者を対象とした交換留学（研究開発センターから大学）（11/25～27）を主催した。研究開発センターから4名の女性研究者が参加し、山形大学、米沢栄養大学の研究者および学生と交流した。期間中に、山形大学スマート未来ハウスにて「女性研究者交流会」を実施し、女性研究者3名（DNP）、女性教員3名（山形大）が参加した（11/26）。

計画：ライフイベントに関わる支援制度の理解拡充と共に、育児休暇より復帰した研究者、育児支援制度利用者とその上長を含めた周囲の研究者との間の相互理解を促し、個々の環境に合わせたキャリアパスの構築を支援するための対話会を開催する。

進捗：4月より継続的に産休、育児休暇から職場へ復帰する女性研究者に対し、上長を交えた交流、面談を延べ4名に実施した。

3. 経費執行状況（12月末時点）

（単位：円）

費目	執行状況（4～12月支出）	年度末の執行見込
設備備品費	0	0
人件費	0	0
事業実施費（保育支援含）	1,714,702	2,540,928
総計	1,714,702	2,540,928

3 米沢栄養大学の事業の進捗状況報告

令和元年1月27日

1. 目的 本学の特色である栄養と健康に係る研究や栄養に携わる者等に対する生涯学習の拠点機能としての実績を活かし、共同実施機関と協働して女性研究者が参画する共同研究を推進するとともに、研究スキルアップ支援、リーダーシップ育成、裾野拡大の取組みを進め、女性研究者の採用と上位職階の女性教員の積極的な登用を実現する。

2. 本年度の事業の項目及び内容

○取組期間における女性研究者在職者数、在職比率、採用比率

	在職者数			在職比率	採用比率
	助教以下	講師・准教授 以上	在職者数計		
平成26年5月1日現在	2	5	7	41.2%	
平成27年4月 申請書	2	5	7	41.2%	
平成28年3月31日現在	2	5	7	41.2%	
平成29年3月31日現在	2	5	7	41.2%	
平成30年3月31日現在	2	4	6	35.3%	0.0%
平成31年3月31日現在	0	7	7	41.2%	100.0%
令和元年10月現在	0	7	7	41.2%	0.0%
令和 2年3月31日現在	0	7	7	41.2%	0.0%
令和 3年3月31日現在	0	8	8	47.1%	100.0%

注1： 平成27年～令和元年は実績値、令和2年以降は申請時目標値

注2： 女性研究者在職者数については、平成26年5月1日現在で7名であったが、平成29年4月1日をもって、女性研究者1名が教員(教授)から上位職である管理職(学部長予定者)として他大学へ転出したため、平成29年度末で1名減となっている。

注3： 平成30年度は女性を1名採用したほか、女性の上位職への登用を積極的に行い、昇任者は4名であった。(准教授から教授：1名、講師から准教授：1名、助教から講師：2名)

○事業計画の進捗状況

平成31年度の事業計画	進捗状況
(1) ダイバーシティ研究環境整備を図るための体制整備	
<ul style="list-style-type: none"> 学内の「ダイバーシティ研究環境実現プロジェクトチーム」において年間計画に定める事業の進捗管理を行い、着実な実施に努める 	<ul style="list-style-type: none"> 連携機関が実施する事業については学内に周知するとともに、積極的な参加を呼び掛けている。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> 共同研究への参加：4名 交換留学生への参加：学生1名 女性研究者成果発表会での発表：2名 同交流会への参加：学生7名 女性大学院生ネットワーク交流会への参加：学生2名 </div>
<ul style="list-style-type: none"> 全国ダイバーシティネットワーク組織東北ブロック及び大学コンソーシアムやまがたの「ダイバティ推進ネットワーク会議」に参画し、他高等教育機関とのネットワーク形成、情報収集、情報交換に努める 	<ul style="list-style-type: none"> 「全国ダイバーシティネットワーク組織東北ブロック会議」に参画し、7月に山形大学にて開催された東北ブロック南東北会議に、米沢栄養大学から学長ら3名が参加した。また、大学コンソーシアムやまがたの「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」に委員として参加するとともに、コンソーシアム加盟機関に対して連携事業の案内と参加の呼掛け、女性登用状況等に関する情報交換に努めた。
(2) 女性研究者の研究活動への支援及び研究力向上を図るための取組	
<ul style="list-style-type: none"> 研究とライフイベントの両立を支援するため、研究支援者の雇用を実施し、研究者の研究活動を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「研究支援員制度」の利用希望者の募集を行い、現在介護を担っている女性研究者2名に対し、前期（4月から9月）に研究支援員を配置した。
<ul style="list-style-type: none"> 外部研究資金獲得をさらに進めるため、外部研究資金獲得セミナーを開催し、研究に取り組む意識の啓発を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本学術振興会学術システム研究センターの主任研究員として、科学研究費等の審査システム・評価業務に従事している他大学教授による「外部資金獲得セミナー」を9月に実施し、学内外の研究者等、合計31名が参加した（大学コンソーシアムやまがたの加盟機関にも公開）。
(3) 研究組織の幹部、研究者等を対象とした意識啓発	
<ul style="list-style-type: none"> 管理職や研究者等を対象としたセミナーを連携機関と共同開催し、女性研究者の採用や上位職階への女性の積極的な登用に向 	<ul style="list-style-type: none"> 7月に連携事業として開催された「男女共同参画セミナー」に、本学から学長、学部長等計3名が参加し、民間企業の先進的取組みについ

けた意識啓発を図る。	て学んだ。
4) 女子学生・女性研究者向けキャリアパス支援の取組	
・ キャリアパス支援の前段として、女性研究者の裾野の拡大を図るために、学生や教員等を対象とした研究成果発表会を開催する。	・ 「女性研究者成果発表会」をCOI若手研究者らと共同で3機関合同シンポジウムと同時に11月に開催し、米沢栄養大学から女性研究者2名がポスター発表を行い、学生7名が参加した。また発表会に引続き、参加者と発表者等による交流会を実施した。

3. 経費執行状況（12月末時点）

（単位：円）

費目	執行状況（4～12月支出）	年度末の執行見込
設備備品費	0	0
人件費	892,740	900,000
事業実施費（保育支援含）	35,460	30,000
総計	928,200	930,000

② | 山形大学の男女別教員数と女性割合(2020年1月1日現在)

2020年1月1日現在の本学教員数(常勤)を男女別にまとめた。

男女計815人中、女性教員は123名(全体の15.1%)である。

以下、職位別(表1と図1)と部局別(表2と図2)に男女の教員数と女性割合をまとめた。

表1 職位別女性教員の割合

	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
男性	265	198	40	185	4	692
女性	21	45	9	46	2	123
計	286	243	49	231	6	815
女性割合	7.3%	18.5%	18.4%	19.9%	33.3%	15.1%

表2 部局別女性教員の割合

	人文社会科学部	地域教育文化学部 (注1)	理学部	医学部 (注2)	理工学研究科 (注3)	農学部	その他 (注4)	合計
男性	72	57	71	224	185	59	24	692
女性	13	18	3	59	13	7	10	123
計	85	75	74	283	198	66	34	815
女性割合	15.3%	24.0%	4.1%	20.8%	6.6%	10.6%	29.4%	15.1%

注1.地域教育文化学部は、地域教育文化学部と大学院教育実践研究科を含む。

注2.医学部は医学部、大学院医学系研究科、附属病院を含む。

注3.工学部教員は理工学研究科に所属する。

注4.その他は学士課程基盤教育機構、大学院基盤教育機構、教育・学生支援部、企画部、エンロールメント・マネジメント部、小白川キャンパス、男女共同参画推進室、保健管理センター、COC推進室を含む。

注5.教員数には休職者等を含む。

③ 山形大学の女性活躍推進法に基づく行動計画

女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づき、女性が研究者及び管理職として活躍できる環境の整備を行うため、次のように行動計画を策定する。

1 計画期間 2019年4月1日～2022年3月31日（3年間）

2 当機関の課題

- (1) 女性教員への応募者が少なく、女性教員が少ない。
- (2) 管理職に占める女性割合が低い。

3 目標と取組内容・実施時期

目標1：女性教員割合を、現在の15%から17%に引き上げる。

- 2019年4月～ 女性教員のワーク・ライフ・バランスを支える各種支援制度を周知し、アンケート結果を踏まえて職場環境を改善する。
- 2019年6月～ 女性大学院生・女子中高生を対象にさらに次世代育成に努める。
- 2020年4月～ 第二次男女共同参画基本計画を策定し、リーフレットを発行する。
- 2021年4月～ 女性応募者を増やすため、各種支援制度や研究環境の魅力発信に一層努める。

目標2：管理職に占める女性割合を、現在の12%から20%に引き上げる。

- 2019年4月～ 意識啓発のセミナーを開催し、無意識のバイアスを点検する。
- 2020年4月～ 女性みらい塾の活動やメンター制度の活用を通して、対象となる女性職員へのきめ細やかなヒアリングや研修を実施する。
- 2021年4月～ 新任管理職への定期的なフォローアップを実施する。

4 | 山形大学の次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画の策定について

職員が仕事と子育てを両立させることができ、働きやすい環境をつくることによって、職員がその能力を十分に発揮できるようにするため、次のように行動計画を策定する。

1 計画期間 2019年4月1日～2022年3月31日（3年間）

2 内容

目 標 1：計画期間内に、育児休業等の取得状況を次の水準以上にする。

<男性職員> 1人以上の職員が育児休業等を取得する。

育児等を目的とした休暇制度等の利用を推進する。

<女性職員> 育児休業取得率85%以上とする。

●2019年度

女性だけではなく、男性でも制度を利用しやすい環境を整えることを目的に、育児休業等の制度（育児休業、育児短時間勤務、育児部分休業）などについてを、リーフレットやホームページ等で周知する。

●毎 年

- ①新規採用者の研修時等において、育児休業等の制度についてリーフレットを配布、説明を行う。
- ②育児休業の取得状況及び今後の課題を、毎年（5月頃）ホームページ上に掲載し、啓発を行う。

目 標 2：時間外労働時間・休日労働時間を削減する。

●2019年度

毎月の事務協議会において、時間外労働時間の実績を共有する。

「ノー残業デー」や「ノー残業ウィーク」の導入を図る。

●毎 年

時間外労働時間の実績を全学で共有することで、更なる短縮を呼びかける。

目 標 3：夏季・年末年始の計画休暇（一斉休業）を実施するなど、年次有給休暇の取得促進に取り組み、計画期間内に、常勤職員について、取得日数平均10日以上を目指す。

●2019年度

①一斉休業や連休に連続する休暇や記念日休暇など年次有給休暇を積極的に取得するよう、ポスターやホームページ等で促す。

②一斉休業の前後は会議等の自粛を促し、休暇の取得促進を図る。

●毎 年

年次有給休暇の取得状況及び今後の課題を、毎年（5月頃）ホームページ上に掲載し、啓発を行う。

目 標 4：テレワークを導入する。

●2019年度

事務職員について、試行し年度内の本格導入を目指す。

●毎 年

アンケート等を実施しニーズの把握に努め、範囲の拡大を目指す。

山形大学 男女共同参画報告書

令和元年度活動報告

2020年3月30日発行

発行：山形大学男女共同参画推進室

連絡先：〒990-8560 山形県山形市小白川町一丁目4-12

山形大学 男女共同参画推進室

Tel 023-628-4937/4938/4939 Fax 023-628-4014

E-mail：y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

URL：http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/

山形大学男女共同参画報告書

令和元年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)活動報告
令和元年度山形大学活動報告

◎work◎life◎
balance innovation